

# **SigmaSystemCenter 3.2**

SSCコマンドリファレンス

- 第1版 -

# 目次

1. ssc コマンドについて
  - 1.1. ssc コマンド
    - 1.1.1. ssc コマンドの使用条件と補足
    - 1.1.2. ssc コマンドの表記
    - 1.1.3. 共通オプション
    - 1.1.4. ssc コマンドの戻り値
    - 1.1.5. ssc コマンドの注意事項
2. 構築用コマンド
  - 2.1. ライセンス
    - 2.1.1. ライセンスの追加
    - 2.1.2. ライセンスの削除
    - 2.1.3. ライセンスの表示
  - 2.2. ユーザ
    - 2.2.1. ユーザアカウントの作成
    - 2.2.2. ユーザアカウントの削除
    - 2.2.3. ユーザアカウント情報の表示
    - 2.2.4. ユーザアカウントのパスワード変更
  - 2.3. 環境設定
    - 2.3.1. 環境設定の更新
    - 2.3.2. 起動時収集の設定
  - 2.4. サブシステム
    - 2.4.1. サブシステムの追加
  - 2.5. 収集
    - 2.5.1. 収集
  - 2.6. マシン
    - 2.6.1. マシンの登録
    - 2.6.2. マシン対象外
    - 2.6.3. マシンの割り当て、マシン登録、プールに追加
    - 2.6.4. 割り当て解除、プールから削除
    - 2.6.5. マシンの表示
    - 2.6.6. マシン情報の更新
    - 2.6.7. マシンの電源操作
    - 2.6.8. バックアップ
    - 2.6.9. リストア
    - 2.6.10. ハードウェアの登録
  - 2.7. マシンアカウント
    - 2.7.1. アカウントの作成
    - 2.7.2. アカウントの更新
    - 2.7.3. アカウントの削除
    - 2.7.4. アカウントの表示
  - 2.8. グループ
    - 2.8.1. グループの作成
    - 2.8.2. グループ設定情報の更新
    - 2.8.3. グループ設定の表示
    - 2.8.4. マシンプロファイルの設定
    - 2.8.5. ホストプロファイルの設定
    - 2.8.6. マシン置換
    - 2.8.7. スケールイン
    - 2.8.8. スケールアウト

- 2.8.9. 指定したグループの階層をDPMに反映
- 2.9. ホスト
  - 2.9.1. ホストの作成
  - 2.9.2. ホストの更新
  - 2.9.3. ホスト定義の表示
  - 2.9.4. ホストの依存関係の削除
  - 2.9.5. ホストの依存関係の設定
  - 2.9.6. ホストの依存関係の表示
- 2.10. IP アドレス
  - 2.10.1. IP アドレス情報の追加
- 2.11. ソフトウェア
  - 2.11.1. ソフトウェアの追加
  - 2.11.2. ソフトウェアの配信
- 2.12. ストレージ
  - 2.12.1. ストレージの追加
  - 2.12.2. ディスクアレイのパスを表示
  - 2.12.3. HBAの設定
  - 2.12.4. HBAの解除
  - 2.12.5. ディスクボリュームの作成
  - 2.12.6. ディスクボリュームの編集
  - 2.12.7. ディスクボリュームの削除
  - 2.12.8. ディスクボリュームの割当
  - 2.12.9. ディスクボリュームの割当解除
  - 2.12.10. ディスクボリューム情報の表示
  - 2.12.11. ストレージプール情報の表示
  - 2.12.12. RDM用Diskの一覧表示
  - 2.12.13. RDM用Diskの用途、あるいは状態の更新
  - 2.12.14. ストレージトポロジ情報の表示
  - 2.12.15. ストレージプールの編集
- 2.13. ネットワーク
  - 2.13.1. VLAN の追加
  - 2.13.2. ネットワークの作成
  - 2.13.3. VLAN (ポートグループ) 定義の追加
  - 2.13.4. アドレスプールの追加
  - 2.13.5. ポートグループの作成
  - 2.13.6. ポートグループの削除
  - 2.13.7. ポートグループ一覧の表示
  - 2.13.8. ポートグループの編集
  - 2.13.9. プライベートVLANの作成
  - 2.13.10. プライベートVLANの削除
  - 2.13.11. プライベートVLANの更新
  - 2.13.12. VLANの新規作成
  - 2.13.13. VLANの削除
  - 2.13.14. 仮想ブリッジの追加
  - 2.13.15. ネットワーク設定の適用
  - 2.13.16. ネットワーク設定の削除
  - 2.13.17. アドレスプールの削除
  - 2.13.18. 仮想ブリッジの削除
  - 2.13.19. VLAN (ポートグループ) 定義の削除
  - 2.13.20. ネットワーク情報の表示
- 2.14. ロードバランサ
  - 2.14.1. ロードバランサの追加
- 2.15. 論理マシン
  - 2.15.1. 指定マシンの論理化
  - 2.15.2. 論理マシンの解体・削除
  - 2.15.3. 論理マシンの表示
  - 2.15.4. 論理マシンアカウント作成
  - 2.15.5. 論理マシンアカウント更新
  - 2.15.6. 論理マシンアカウント削除
  - 2.15.7. 論理マシンアカウント情報表示
  - 2.15.8. 論理マシンプロファイル作成

- 2. 15. 9. 論理マシンプロファイル更新
- 2. 15. 10. 論理マシンプロファイル削除
- 2. 16. スマートグループ
  - 2. 16. 1. スマートグループの作成
  - 2. 16. 2. スマートグループの削除
  - 2. 16. 3. スマートグループ設定情報の表示
  - 2. 16. 4. スマートグループのエクスポート
  - 2. 16. 5. スマートグループのインポート
- 2. 17. プロファイル
  - 2. 17. 1. 性能監視プロファイルの作成
  - 2. 17. 2. 性能監視プロファイルの更新
  - 2. 17. 3. 性能監視プロファイルの削除
  - 2. 17. 4. 性能監視プロファイルの表示
  - 2. 17. 5. 性能監視プロファイルのグループへの設定
  - 2. 17. 6. 名前付きホストプロファイルの作成
  - 2. 17. 7. 名前付きマシンプロファイルの作成
  - 2. 17. 8. マシンプロファイルの内容表示
- 2. 18. APIキー
  - 2. 18. 1. APIキーの作成
  - 2. 18. 2. APIキーの更新
  - 2. 18. 3. APIキーの削除
  - 2. 18. 4. APIキーの表示
- 3. 仮想環境の構成制御コマンド
  - 3. 1. 仮想マシンサーバの操作
    - 3. 1. 1. 仮想マシンサーバの追加
    - 3. 1. 2. 仮想マシンサーバの削除
    - 3. 1. 3. 仮想マシンサーバのパスワード変更
    - 3. 1. 4. 仮想マシンサーバの復旧の後処理
    - 3. 1. 5. マシン退避
  - 3. 2. 仮想マシンの操作
    - 3. 2. 1. 仮想マシンの構成変更
    - 3. 2. 2. 仮想マシンの移動 (Migrate)
    - 3. 2. 3. 仮想マシンの移動 (Move)
    - 3. 2. 4. マシン退避 (ホスト指定)
    - 3. 2. 5. 仮想マシンの作成
    - 3. 2. 6. テンプレートの作成
    - 3. 2. 7. イメージの作成
    - 3. 2. 8. 再構成
    - 3. 2. 9. スナップショットの作成
    - 3. 2. 10. テンプレートの削除
    - 3. 2. 11. 仮想マシンの削除
    - 3. 2. 12. 仮想マシンのクローン
    - 3. 2. 13. イメージの削除
    - 3. 2. 14. スナップショットの削除
    - 3. 2. 15. スナップショットの復元
    - 3. 2. 16. スナップショットの表示
    - 3. 2. 17. テンプレートの更新
    - 3. 2. 18. イメージの更新
    - 3. 2. 19. 仮想マシン(OSなし)の作成
    - 3. 2. 20. 仮想マシンのエクスポート
    - 3. 2. 21. 仮想マシンのインポート
    - 3. 2. 22. ISOイメージのマウント
    - 3. 2. 23. CD/DVDドライブとマウント可能なISOイメージ一覧表示
    - 3. 2. 24. ISOイメージのアンマウント
  - 3. 3. 配置制約
    - 3. 3. 1. 配置制約の設定
    - 3. 3. 2. 配置制約の削除
    - 3. 3. 3. 配置制約の有効化
    - 3. 3. 4. 配置制約の無効化
    - 3. 3. 5. 配置制約に従った配置

- 3.3.6. 配置制約の表示
- 3.3.7. 配置制約設定の妥当性確認
- 3.3.8. 制約グループの作成
- 3.3.9. 制約グループの削除
- 3.3.10. 制約グループへのメンバ追加
- 3.3.11. 制約グループからのメンバ削除
- 3.3.12. 制約グループ設定の表示
- 3.4. データストア
  - 3.4.1. データストアの表示
  - 3.4.2. データストアの作成
  - 3.4.3. データストアの削除
  - 3.4.4. 仮想マシンサーバ接続データストア情報の更新
  - 3.4.5. データストア設定情報を更新
  - 3.4.6. 仮想マシン作成先データストアの設定
  - 3.4.7. データストア配下のファイル/サブフォルダの表示
- 3.5. リソースプール
  - 3.5.1. リソースプールの作成/切り出し
  - 3.5.2. リソースプールの表示
  - 3.5.3. リソースプールの削除
- 3.6. 配置情報
  - 3.6.1. 配置情報の設定
  - 3.6.2. 配置情報の削除
  - 3.6.3. 配置情報の表示
  - 3.6.4. 配置情報の適用
- 4. 保守コマンド
  - 4.1. 運用ログ
    - 4.1.1. 運用ログの表示
  - 4.2. ポリシー
    - 4.2.1. ポリシーをエクスポートする
    - 4.2.2. ポリシーをインポートする
  - 4.3. メンテナンス
    - 4.3.1. 構成情報のメンテナンス
    - 4.3.2. 配布履歴の削除
    - 4.3.3. マシステータスの更新
    - 4.3.4. DPM上の情報を削除
  - 4.4. マシン操作履歴
    - 4.4.1. マシン操作履歴の詳細情報出力
    - 4.4.2. マシン操作履歴の削除
    - 4.4.3. マシン操作履歴の運用設定を設定
  - 4.5. SSC設定情報バックアップ/リストア
    - 4.5.1. SSC設定情報バックアップ
    - 4.5.2. SSC設定情報リストア

# 1. ssc コマンドについて

本章では、ssc コマンドの概要について説明します。

## 1.1. ssc コマンド

ssc コマンドラインツールを使用すると、従来、Web コンソールから個々に行う必要があった、グループ・ホストの作成や各種設定をBAT ファイルからコマンドを実行することにより、一括で行うことができます。これにより、大規模環境における構成時の作業負担を軽減することができます。また、仮想環境での構成制御の設定など、ssc コマンドラインでのみサポートしている機能もあります。

旧コマンドラインツールであるpvmutilコマンドは、今後の機能強化は予定されておりません。sscコマンドをご使用いただく様をお願いします。

ssc コマンドでは、以下の機能が実行できます。

コマンド (機能)	サブコマンド	概要
create (作成)	user	ユーザアカウントを作成します。
	group※	グループを作成します。
	host※	グループにホストを作成します。
	machine※	仮想マシンを作成します。
	template	テンプレートを作成します。
	diskvolume※	ディスクボリュームを作成します。
	datastore	データストアを作成します。
	smartgroup	スマートグループを作成します。
add (追加)	license	ライセンスを追加します。
	manager※	サブシステムを追加します。
	ipaddress	グループのホストにIPアドレス (ネットワーク) を追加します。
	software	グループ (グループ / モデル)、またはホストのソフトウェア配布ポイントにソフトウェアを追加します。
	storage※	グループのホストにディスクアレイのディスクボリュームを追加します。
	lb	グループにロードバランサを追加します。
	vmserver	Datacenterに仮想マシンサーバを追加します。
update (更新)	environment※	環境設定を行います。
	group※	グループの設定内容を編集、または更新します。
	host※	ホストの設定内容を編集、または更新します。
	vmproperty※	仮想マシンのCPU数、メモリサイズなど構成変更を行います。
	machine※	指定したマシンの情報を更新します。
	datastore	データストア設定情報を更新します。
	diskvolume※	ディスクボリュームを編集します。
storagepool※	ストレージプールを編集します。	
delete (削除)	license	ライセンスを削除します。
	user	ユーザアカウントを削除します。

	vmserver	Datacenterから仮想マシンサーバを削除します。
	history	ソフトウェアの配布履歴を削除します。
	diskvolume※	ディスクボリュームを削除します。
	template	テンプレートを削除します。
	machine	仮想マシンを削除します。
	datastore	データストアを削除します。
	smartgroup	スマートグループを削除します。
collect (収集)	—	指定した対象の情報を収集します。
register (登録)	machine※	リソースグループ、もしくはラックにマシンを登録します。
	hardware※	ハードウェアを管理対象にします。
unregister (対象外)	machine	リソースグループ、もしくはラックからマシンを対象外にします。
assign (マシンの割り当て)	machine※	リソース割り当て、マスタマシン登録、もしくはプールに追加を行います。
	diskvolume※	マシンにディスクボリュームを割り当てます。
set (関連付け)	hba	HBAをディスクアレイに関連付けます。
	profile※	マシンプロファイルを設定します。
	hostprofile※	ホストプロファイルを設定します。
	datastore-setting	仮想マシン作成先データストアの設定をします。
release (割り当て解除、プールから解除、関連解除)	machine	マシンの割り当て解除、プールから削除を行います。
	hba	HBAをディスクアレイから関連解除します。
	diskvolume※	マシンからディスクボリュームを割当解除します。
change-passwd (パスワード変更)	—	ユーザアカウントのパスワード、または仮想マシンサーバのアカウントのパスワードを変更します。
migrate (仮想マシンの移動)	machine	仮想マシンを移動 (migrate) します。
move (仮想マシンの移動)	machine	仮想マシンを移動 (move) します。
vmop (配置制約)	set-rule※	仮想マシンの配置制約を設定します。
	delete-rule	仮想マシンの配置制約を削除します。
	enable-rule※	仮想マシンの配置制約設定を有効にします。
	disable-rule※	仮想マシンの配置制約設定を無効にします。
	apply-rule※	仮想マシンを配置制約に従って配置します。
	show-rule※	仮想マシンの配置制約設定を表示します。
	verify-rule	仮想マシンの配置制約設定が正しいか確認します。
	create-group	制約グループを作成します。
	delete-group	制約グループを削除します。
	add-member	制約グループにメンバを追加します。
	remove-member	制約グループからメンバを削除します。
	show-group	制約グループの設定を表示します。
	set-position※	仮想マシンの配置情報を設定します。
	delete-position	仮想マシンの配置情報設定を削除します。
	show-position	仮想マシンの配置情報設定を表示します。
	apply-position※	仮想マシンを配置情報に従って配置します。
recover (復旧)	machine	仮想マシンサーバ復旧処理 (Failover) 実行後の後処理を行います。

evacuate (退避)	machine	仮想マシンサーバ上の仮想マシンを、他の仮想マシンサーバへ退避させます。
	host	仮想マシンサーバ上の仮想マシンを、他の仮想マシンサーバへ退避させます。(ホスト指定)
machine-account (作成、更新、削除、表示)	create	マシンアカウントを作成します。
	update	マシンアカウントを更新します。
	delete	マシンアカウントを削除します。
	show	マシンアカウント情報を表示します。
export (エクスポート)	policy	ポリシー情報をXMLファイルに出力します。
	smartgroup	スマートグループをXMLファイルへエクスポートします。
import (インポート)	policy	XMLファイルからポリシー情報を取り込みます。
	smartgroup	スマートグループをXMLファイルからインポートします。
maintenance (保守)	cmdb	構成情報データベースのメンテナンスを行います。
startup-collect-mode (システム設定)	—	PVMサービス起動時の収集のオン / オフを指定します。
show (表示)	license	ライセンスを表示します。
	user	ユーザアカウント情報を表示します。
	group※	グループの設定内容を表示します。
	host	ホストの設定内容を表示します。
	machine	システムリソースのマシンを一覧表示します。
	log	運用ログを表示します。
	diskarraypath	ディスクアレイのパスを表示します。
	datastore	データストア一覧を表示します。
	diskvolume※	ディスクボリューム情報を表示します。
	storagepool※	ストレージプール情報を表示します。
	smartgroup	スマートグループ設定情報を表示します。
	storagetopology※	ストレージトポロジ情報を表示します。
reconfigure (再構成)	machine	仮想マシンの再構成を行います。
set-machine-status (マシンステータス更新)	—	指定したマシンのステータスを更新します。
deploy (配信)	software	指定マシンに対してソフトウェア配信を行います。
replace (置換)	machine	指定したマシンを置換します。
power-control (電源操作系)	machine	グループで稼働中のホスト、あるいは管理中マシンに対して、電源操作を行います。
clone (クローン)	machine	仮想マシンのクローンを行います。
scan (スキャン)	datastore※	仮想マシンサーバに接続されているデータストア情報を更新します。
resourcepool (作成、表示、削除)	create	リソースプールを作成します。
	show	リソースプール情報を表示します。
	delete	リソースプールを削除します。
network (作成、追加)	create	ネットワークの作成をします。
	add-vlan	ネットワークにVLAN(ポートグループ)定義を追加します。



	add-addresspool	ネットワークにアドレスプールを追加します。
	add-virtualbridge※	ネットワークに仮想ブリッジを追加します。
	apply※	ネットワークの設定を適用します。
	delete※	ネットワークを削除します。
	delete-addresspool ※	ネットワークからアドレスプールを削除します。
	delete- virtualbridge※	ネットワークから仮想ブリッジを削除します。
	delete-vlan※	ネットワークからVLAN(ポートグループ)定義を削除します。
	show※	ネットワークの情報を表示します。
changehistory (表示、削除、設定)	show※	マシン操作履歴の詳細情報を出力します。
	delete	マシン操作履歴を削除します。
	set	マシン操作履歴の運用設定を設定します。
scalein (スケールイン)	—	スケールインを行います。
scaleout (スケールアウト)	—	スケールアウトを行います。
group (ネットワーク追加)	set-network※	ネットワーク設定を追加します。(旧add vlan)
logicalmachine (論理化、解除、表示等)	assign	指定マシンを論理化します。
	release	指定マシンの論理化を解除します。
	show	論理マシン情報を表示します。
	create-account	ホストに論理マシンアカウントを作成します。
	update-account	ホストの論理マシンアカウントを更新します。
	delete-account	ホストの論理マシンアカウントを削除します。
	show-account	ホストの論理マシンアカウント情報を表示します。
	create-profile	ホストに論理マシンプロファイルを作成します。
	update-profile	論理マシンプロファイルを更新します。
	delete-profile	論理マシンプロファイルを削除します。
machine	backup	バックアップを実行します。
	restore	リストアを実行します。
dpminformation	delete	DPM上の情報を削除します。
dpm-location	notify	指定したグループの階層をDPMIに反映します。
hostprofile	create	名前付きホストプロファイルを作成します。
profile	create	名前付きマシンプロファイルを作成します。
	show	マシンプロファイルの内容を表示します。
rdmstorage	show	RDM用Diskの一覧表示します。
	update	RDM用Diskの用途、あるいは状態を更新します。
portgroup	create	指定スイッチ(NetworkDevice)上にポートグループを作成します。
	delete	指定スイッチ(NetworkDevice)上のポートグループを削除します。
	show	ポートグループ一覧を表示します。
	update	指定スイッチ(NetworkDevice)上のポートグループを編集します。
privatevlan	create	対象分散スイッチにプライベートVLANを作成します。
	delete	対象分散スイッチのプライベートVLANを削除します。
	update	対象分散スイッチのプライベートVLANを編集します。
vlan	create	物理スイッチにVLANを新規作成します。

	delete	物理スイッチのVLANを削除します。
image	add	イメージを作成します。(旧add image)
	delete	イメージを削除します。
	update	イメージを更新します。
snapshot	create	スナップショットを作成します。(旧create snapshot)
	delete	スナップショットを削除します。
	revert	スナップショットを復元します。
	show	スナップショットを表示します。
monitoringprofile	create	性能監視プロファイルを作成します。
	update	性能監視プロファイルの設定内容を更新します。
	delete	性能監視プロファイルを削除します。
	set	性能監視プロファイルをグループ (グループ / モデル)に関連付けます。
	show	性能監視プロファイルの設定内容を表示します。
template	update	テンプレートの更新を行います。
apikey	create	API key を作成します。
	update	API key を更新します。
	delete	API key を削除します。
	show	API key を表示します。
dependency	set※	ホストの依存関係を設定します。
	delete※	ホストの依存関係を削除します。
	show※	ホストの依存関係を表示します。
datastorefile	show※	指定フォルダ配下のファイル/サブフォルダを表示します。
vm	create※	仮想マシン(OSなし)の作成を行います。
export	vm※	仮想マシンをエクスポートします。
import	vm※	仮想マシンをインポートします。
iso	mount※	仮想マシンに ISO イメージをマウントします。
	unmount※	仮想マシンから ISO イメージをアンマウントします。
	show※	仮想マシンにある CD/DVD ドライブとマウント可能な ISO イメージ一覧を表示します。
config-export※	—	SSC設定ファイルをエクスポート(バックアップ)します。
config-import※	—	SSC設定ファイルをインポート(リストア)します。

※はSSC3.2 で新規コマンドの追加、既存コマンドの機能強化を行いました。

### 1.1.1. ssc コマンドの使用条件と補足

ssc コマンドを使用するには、以下の条件を満たしている必要があります。

- ssc コマンドは、管理サーバ上で実行してください。  
Administrator権限を持つユーザで実行できます。

---

**注：** ユーザーアカウント制御 (UAC: User Account Control) が有効な場合、管理者モードにて実行する必要があります (例えば、コマンドプロンプトを [コマンドプロンプトのショートカット] を右クリックし、“管理者として実行”にて開き、ssc コマンドを起動するなど)。

---

- データベースのバックアップについて  
 ssc コマンドでは、ホストの一括設定などを行うことができますが、例えば、事前検証なしでBAT コマンドにより自動実行された場合など、コマンド指定が間違っていた場合、意図していない設定が行われる可能性があります。  
 コマンド実行前の状態に復旧できるよう、事前にデータベースのバックアップを採取してください。

**関連情報:** バックアップ方法については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「10. バックアップ・リストア」を参照してください。

## 1.1.2. ssc コマンドの表記

以降の ssc コマンドの機能説明では、以下の表記を使用します。

- [ ] はオプションを示します。
- | はどちらか選択することを示します。
- <> は、指定必須のオプションです。
- () は、省略形を示します。  
 例) “-error (-e)” の場合、-e は -error の省略形

## 1.1.3. 共通オプション

各 ssc コマンドに共通して使用できるオプションです。  
 コマンドラインから ssc を起動する際、引数を省略すると全コマンドリストを表示します。

### [構文]

```
ssc [option1] [option2] command [subcommand...]  
[parameter...] [cmd option [option parameter]...]
```

### [引数 / オプション]

[option1] には、以下が使用できます。

-v	コマンド実行状況などを出力しながら動作させるモード
--verbose	"
-q	メッセージを何も出力しないで動作させるモード (バッチ実行に適しています)
--quiet	"
-d	デバッグ用メッセージを出力しながら動作させるモード
--debug	"

[option2] には、以下が使用できます。

-h	コマンド Usage を出力します。
--help	"
help	"
--ver	バージョン情報を出力します。

```
--version "
```

command [subcommand... ]について

該当するcommand (subcommand) がない場合、それをキーに絞り込んだコマンドリストを出力します。  
(対象コマンドがない場合、Usageを出力します。)

[cmd option] には、以下が使用できます。

-h	コマンドごとのパラメータ説明 (ヘルプ) を出力します。
-help	"

### 1.1.4. ssc コマンドの戻り値

ssc コマンドの実行結果は、コマンドの戻り値により判断できます。  
ssc コマンドの戻り値は以下のとおりです。

値	成功/失敗	原因
0	成功	
1	失敗	コマンドフォーマットが異常です (パラメータ不足など)。
2	失敗	Administrators権限がないユーザで実行しています。
3	失敗	パラメータチェックエラー (指定リソースが存在しないなど)
4	失敗	SigmaSystemCenter構成情報更新不可
5	失敗	起動したアクションシーケンスのジョブ履歴取得不可
6	失敗	SigmaSystemCenter接続エラー
7	失敗	アクションシーケンスの実行に失敗しました (アクションシーケンス内でエラーが発生)。
10	失敗	上記以外のエラー (システムエラーなど)

### 1.1.5. ssc コマンドの注意事項

- リソース名 (マシン名、ホスト名、グループ名など) が、“-” (ハイフン) から始まる場合各コマンドのリソース名を指定する箇所にて、“-” (ハイフン) から始まる名前が存在した場合、リソース名、もしくはコマンドのオプション指定が、正しく判断されない場合があります。“-” (ハイフン) から始まるリソースが存在した場合、リソース名を変更してコマンドを実行するか、Web コンソールから操作を行うようにしてください。
- Path、および GroupPath指定について  
操作の対象リソースに対する、[運用]、[リソース]、あるいは [仮想] ビューにおける階層指定をパスとして指定します。  
(Webコンソールでパスを確認することができます)

指定例) 対象はすべて同じマシン (VM1)

[運用] ビューの場合 operations:/category1/group1/vmmodel/VM1

[リソース] ビューの場合 resource:/vmgroup/VM1

[仮想] ビューの場合 virtual:/VC1/DataCenter1/VMS1/VM1

- [リソース] ビューのパスを指定する場合、root直下のマシンは指定できません。  
マシン登録コマンド (register machine) などを利用して、グループ配下に登録してください。

例) ssc register machine /NewGroup / -e -n

- ・ [リソース] ビューのパスを指定する場合、collect groupなどの一部のコマンドでのみ、スマートグループが指定可能です。
  - ・ 指定可能なグループパスの内容は、各コマンドによって異なります。グループパス指定方法の詳細は、各コマンドの説明を参照してください。
- メッセージ内のリソース名について  
 ホスト名を指定して実行したコマンドでも、ジョブ進捗状況やメッセージ内ではそのホストのリソース名（マシン名）に変更されて、表示される場合があります。
- 同期実行のアクションシーケンスを起動したときなど、ジョブが正常終了しても、コマンドが接続エラー（戻り値=6）で終了する場合があります。  
 ※この場合は、いずれの原因か、ログを確認する必要があります。
- create machineなど、スマートグループが指定可能なコマンドでは、スマートグループで抽出された対象データが複数の運用グループに分散している場合、複数のジョブに分けてシーケンシャルに処理します。このときエラーが発生すると以降のジョブは実行されません。エラーの原因を取り除いて再度実行してください。
- Webコンソールの [リソース] ビューでマシンプロパティ設定にて [ユニット名] を設定している場合、各コマンドでマシンの指定を [リソース] ビューのパスにて指定する場合には、マシン名ではなく [ユニット名] で指定してください。  
 ※その他のビュー、または、パスでなくマシン名にて指定する場合は、[ユニット名]ではなくマシン名を指定してください。
- “=” の前後に空白は指定できません。
- 「set hostprofile」と「set profile」について
  - ・ [運用] ビューにおいて、グループ配下にホスト名と同名のモデルが登録されている場合、本コマンドではホスト名を指定してプロファイルを設定することができません。ホスト名を指定した場合は、ホスト名と同名のモデルにプロファイルが設定されます。
- 「profile show」について
  - ・ [運用] ビューにおいて、グループ配下にホスト名と同名のモデルが登録されている場合、本コマンドではホスト名を指定してプロファイル情報を表示することができません。ホスト名を指定した場合は、ホスト名と同名のモデルに設定されているプロファイル情報が表示されます。
- ホスト名とモデル名を設定する際は、下記の点に注意してください。
  - ・ グループ配下にホスト / モデルを作成する場合は、ホスト名とモデル名が重複しないように作成してください。
  - ・ グループ配下のホスト名とモデル名が既に重複している場合は、ホストまたはモデルを異なる名前に変更してください。

## 2. 構築用コマンド

本章では、SigmaSystemCenter の構築に関するコマンドについて記載します。

### 2.1. ライセンス

#### 2.1.1. ライセンスの追加

ライセンスを追加します。  
最初にエディションライセンスを登録してください。  
設定を有効にするには、SystemProvisioningを再起動する必要があります。  
ただし、ターゲットライセンスの追加のみの場合には、再起動は必要ありません。

##### [構文]

```
ssc add license LicenseKey
```

##### [引数 / オプション]

<i>LicenseKey</i> (必須)	対象となるライセンスキーを指定します。
---------------------------	---------------------

##### [構文例]

```
>ssc add license XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX
```

#### 2.1.2. ライセンスの削除

ライセンスを削除します。  
ターゲットライセンスから削除し、  
最後にエディションライセンスを削除して下さい。

##### [構文]

```
ssc delete license LicenseKey
```

##### [引数 / オプション]

<i>LicenseKey</i> (必須)	対象となるライセンスキーを指定します。
---------------------------	---------------------

##### [構文例]

```
>ssc delete license XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX
```

### 2.1.3. ライセンスの表示

ライセンスを表示します。

[構文]

```
ssc show license
```

[引数 / オプション]

なし

[構文例]

```
>ssc show license
```

## 2.2. ユーザ

### 2.2.1. ユーザアカウントの作成

ユーザアカウントを作成します。

#### [構文]

```
ssc create user UserName Password [-permission AuthorityType | -role RoleName]  
[-description Description] [ -type ]
```

#### [引数/オプション]

<i>UserName</i> (必須)	ユーザ名を指定します。 入力できる文字数は32文字以内です。 使用できる文字は任意の文字列です。以下の記号は使用できません。 * + , / : ; < = > ? ¥   [ ]
<i>Password</i> (必須)	パスワードを指定します。 入力できる文字数は128文字以内です。 使用できる文字はスペースを除く半角英数字、および記号です。 -type が "Local" の場合のみ指定できます。
[-permission <i>AuthorityType</i> ]	権限を指定します。 指定できるユーザの権限 は、"Administrator"、"Operator"、"Observer" です。
[-role <i>RoleName</i> ]	初期ロールを指定します。 設定対象が "全リソース/システム"、あるいは "システム" のロールを指 定してください。
[-description <i>Description</i> ]	ユーザの説明を入力します。 入力できる文字数は128文字以内です。
[-type]	認証種別を指定します。 指定できる認証種別は、"Local"、"SystemLDAP" です。 -type を省略した場合、"Local" が指定されます。

#### [構文例]

```
>ssc create user User01 xxxxxx -permission Administrator  
>ssc create user User01 xxxxxx -role admin-users  
>ssc create user User01 xxxxxx -description "User01 is Administrator."  
>ssc create user User01 -type "SystemLDAP"
```

#### [注]

- -permission、-role とともに省略した場合は、管理者権限ユーザとして作成します。  
-permission、-role とともに指定した場合は、-role で指定した初期ロールは  
無効となり、-permission で指定した権限に相当するロールが割り当てられます。

### 2.2.2. ユーザアカウントの削除

ユーザアカウントを削除します。

#### [構文]

```
ssc delete user UserName
```



## [引数/オプション]

<i>UserName</i> (必須)	削除するユーザ名を指定します。
-------------------------	-----------------

## [構文例]

```
>ssc delete user User01
```

## 2.2.3. ユーザアカウント情報の表示

ユーザアカウント情報をCSV形式で一覧表示します。

## [構文]

```
ssc show user
```

## [引数/オプション]

なし

## [構文例]

```
>ssc show user
```

## [表示例]

```
>ssc show user
#UserName, Permission, LoginDate, Disabled, InitialRole, EmailAddress, CertificationTy
"admin", "Administrator", "2013/01/08 3:56:35", "False", "システム管理者", "", "LocalU
"admin2", "Administrator", "2013/01/08 4:56:35", "False", "システム管理者", "", "Local
"oper", "Operator", "2013/01/08 5:56:35", "False", "操作者", "", "LocalUser", "2013/01/
"user", "Observer", "2013/01/08 6:56:35", "False", "参照者", "", "LocalUser", "2013/01/
"user-a", "UserSetting", "2013/01/08 7:56:35", "False", "RoleA", "", "LocalUser", "2013
```

## 2.2.4. ユーザアカウントのパスワード変更

ユーザアカウントのパスワード、または仮想マシンサーバのアカウントのパスワードを変更します。

## [構文]

```
ssc change-passwd Type Name NewPassword [-l Account] [-p Password]
```

## [引数/オプション]

<i>Type</i> (必須)	パスワードを変更する対象を指定します。 "manager" : 仮想マシンサーバのアカウントのパスワードを変更する場合に指定します。 "user" : ユーザアカウントのパスワードを変更する場合に指定します。
<i>Name</i> (必須)	対象の名前を指定します。 <i>Type</i> が "manager" の場合、ホスト名、もしくは対象の仮想マシンサーバまでのフルパスを指定します。 (例: VirtualCenter/DataCenter/ESX) 同一のホスト名が存在する場合、パス指定で指定します。 <i>Type</i> が "user" の場合、ユーザ名を指定します。
<i>NewPassword</i> (必須)	新しいパスワードを指定します。

[-l <i>Account</i> ]	<p>アカウント名を指定します。Typeが "manager" の場合は、仮想マシンサーバのアカウント名を指定します。</p> <p>省略した場合、アカウント名は変更されません。</p> <p>Typeが "user" の場合は、認証情報として、Administrator権限ユーザのアカウント名を指定します。</p> <p>省略した場合は、認証情報として、-pオプションに旧パスワードを指定します。</p>
[-p <i>Password</i> ]	<p>Typeが "user" の場合のみ有効です。</p> <p>-lオプション利用時はAdministrator権限ユーザのパスワードを指定します。-lオプションを利用しない場合は対象ユーザの旧パスワードを指定します。</p>

## [構文例]

```

仮想マシンサーバのパスワードを変更する
>ssc change-passwd manager Host1 "*****" -l user1
>ssc change-passwd manager "VirtualCenter/New DataCenter/Esx1" "*****"
ユーザのパスワードを変更する
1) 認証情報として対象ユーザの旧パスワードを指定する
>ssc change-passwd user user1 "****" -p "****"
2) 認証情報としてAdministrator権限ユーザを指定する
>ssc change-passwd user user2 "****" -l Administrator -p "****"

```

## 2.3. 環境設定

### 2.3.1. 環境設定の更新

環境設定を行います。

#### [構文]

```
ssc update environment Key Value
```

#### [引数/オプション]

Key (必須)	以下のKeyのうち、設定する項目を指定します。 VMSDefaultCapacity: 仮想マシンサーバのキャパシティ値 1以上100000以下で指定してください。 VMDefaultCost: 仮想マシンのコスト値 1以上1000以下で指定してください。 VMSRootPassword: 仮想マシンサーバのrootパスワード ULogSize: 運用ログの最大出力件数 1000以上で指定してください。 DLogSize: デバックログの最大出力サイズ (MB) 1以上16以下で指定してください。 DLogLevel: デバックログのレベル 0以上7以下で指定してください。 0: エラーログを取得します。 1: 警告ログを取得します。 2: 情報ログを取得します。 3~7: トレースログを取得します。(トレースレベル1~5) EnableMACAddressRange : MACアドレスプール機能のON / OFF (Hyper-V のみ有効) TrueまたはFalseで指定してください。 TempWorkingDir : ファイル転送に使用する作業フォルダ
Value (必須)	Keyで指定した項目の設定値を指定します。

#### [構文例]

```
>ssc update environment vmsdefaultcapacity 1  
>ssc update environment vmdefaultcost 100  
>ssc update environment vmsrootpassword xxxxxx  
>ssc update environment enablemacaddressrange True  
>ssc update environment tempworkingdir D:\Work
```

### 2.3.2. 起動時収集の設定

PVMサービス起動時の収集のオン / オフを指定します。

#### [構文]

```
ssc startup-collect-mode < on | off >
```

#### [引数/オプション]

< on   off > (必須)	on: PVMサービス起動時に実行する全収集をオンにします。 off: PVMサービス起動時に実行する全収集をオフにします。
----------------------	---

**[構文例]**

```
>ssc startup-collect-mode on  
>ssc startup-collect-mode off
```

## 2.4. サブシステム

### 2.4.1. サブシステムの追加

サブシステムを追加します。

#### [構文]

```
ssc add manager Type [-name HostName] [-account Account]  
[-port PortNumber] [-url URL] [-p Password]
```

#### [引数/オプション]

<i>Type</i> (必須)	以下の <i>Type</i> のうち、追加するサブシステムを指定します。 dpm: DPM Server vcenter、virtualcenter: VMWare vCenter Server esxi: ESXi xen: Citrix XenServer Pool Master hyper-v: Hyper-V hyper-v-cluster: Hyper-V Cluster kvm: KVM network: WebSAM NetvisorPro slb: Software Load Balancer pfc: Programmable Flow Controller
[-name <i>HostName</i> ]	ホスト名、またはIPアドレスを指定します。 <i>URL</i> を入力している場合、自動生成されるため、省略することができます。
[-account <i>Account</i> ]	接続対象のアカウント名、またはドメイン名を指定します。
[-port <i>PortNumber</i> ]	接続対象のポート番号を指定します。
[-url <i>URL</i> ]	<i>URL</i> を指定します。 <i>HostName</i> を指定している場合、 自動生成されるため、省略することができます。
[-p <i>Password</i> ]	接続対象に登録されているパスワードを指定します。

- *Type*に“esxi”、“hyper-v”を指定した場合、オプション (-name、-account、-port、-url、-p) は指定できません。
- *Type*に“dpm”、“network”、“slb”、“pfc”を指定した場合、オプション (-name) は省略することはできません。
- *Type*に“vcenter”、“xen”を指定した場合、オプション (-account、-p) は省略することはできません。

#### [構文例]

```
>ssc add manager esxi  
>ssc add manager hyper-v  
>ssc add manager kvm  
>ssc add manager dpm -name 192.168.1.50 -p xxxxx  
>ssc add manager vcenter -name 192.168.1.100 -account user01 -port 443  
-url "https://192.168.1.100:443/sdk" -p xxxxx  
>ssc add manager xen -name 192.168.1.200 -account user02 -p xxxxx  
>ssc add manager hyper-v-cluster -name 192.168.1.100  
-account domain¥userA -p xxxxx
```

## 2.5. 収集

### 2.5.1. 収集

収集を行います。

#### [構文]

```
ssc collect Type [-name Name...] [-uuid Uuid] [-path Path]  
[-target < basic | sensor | software >]  
[-priority < high | middle | low >]
```

#### [引数/オプション]

<i>Type</i> (必須)	以下のうち、指定した対象の情報を収集します。 all: 全サブシステム vms: 仮想マシンサーバ machine: 物理マシン、仮想マシンサーバ、仮想マシン group: -pathで指定したグループ配下のマシン
[-name <i>Name...</i> ]	<i>Type</i> が "vms"、"machine" の場合に有効です。 vms: サブシステムのホスト名 (またはIPアドレス) を指定します。 machine: マシン名を指定します。 複数指定することができます。
[-uuid <i>Uuid</i> ]	対象のUUIDを指定します。 <i>Type</i> が "machine" の場合に有効です。 複数指定可能です。
[-path <i>Path</i> ]	<i>Type</i> が "all" 以外の時、有効です。 収集対象までの各ビューからのフルパスを指定し、収集します。 "machine" [仮想] ビュー: virtual:/VC1/DataCenter/VMServer1/VM001 [リソース] ビュー: resource:/Group1/VM001 "vms" [仮想] ビュー: virtual:/VC1/DataCenter/VMServer1 [リソース] ビュー: resource:/Group1/VMServer1 "group" [仮想] ビュー: virtual:/VC1/DataCenter [リソース] ビュー: resource:/Group1
[-target <basic   sensor   software>]	<i>Type</i> が "machine"、または "group" の時のみ有効。 収集を行う区分を選択します。 basic: 基本情報を収集します。 sensor: センサの瞬間値を収集します。 software: ソフトウェア情報を収集します。
[-priority <high   middle   low>]	<i>Type</i> が "machine"、または "group" の時のみ有効。 収集処理の優先度を選択します。

#### [構文例]

```
>ssc collect all  
>ssc collect vms -name 192.168.1.1  
>ssc collect vms -path virtual:/Manager/DataCenter/VMServer
```

## 2.6. マシン

### 2.6.1. マシンの登録

管理外マシンを指定したリソースグループ、またはラックに登録します。  
また、新規にSigmaSystemCenterにマシンを登録することができます。このときDPMサーバにも新規にマシンを登録します。

#### [構文]

```
ssc register machine GroupName MachineName... [-e [GroupType]] [-n | < -c  
[DPMServerAddress] -uuid UUID [-mac PrimaryMacAddress] [-force] >
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	マシンを登録するリソースグループ、またはラックを指定します。 リソースグループ、またはラックのパスを指定します。
<i>MachineName...</i> (必須)	対象のマシンを指定します。 管理状態のマシンを指定することはできません。 また、マシンを作成する場合は、複数指定できません。
[-e [ <i>GroupType</i> ]]	<i>GroupName</i> で指定したグループもしくはラックを作成します。 group : グループを作成します。 rack : ラックを作成します。 <i>GroupType</i> を省略した場合グループを作成します。
[-n]	[リソース] ツリーの [マシン] アイコン直下にあるリソースを移動します。 [リソース] ツリーの [マシン] アイコン直下にあるリソースをすべて指定する場合、 <i>MachineName</i> は、"/" を指定します。
[-c [ <i>DPMServerAddress</i> ]]	SigmaSystemCenter、およびDPMサーバにマシンを作成する場合に指定します。 複数のDPMサーバを管理している場合、 [ <i>DPMServerAddress</i> ] に対象のDPMサーバのアドレスを指定します。 [-n] と同時に指定することはできません。
[-uuid <i>UUID</i> ]	マシンのUUIDを指定します。 マシンを作成する場合は、省略することはできません。
[-mac <i>PrimaryMacAddress</i> ]	マシンのMACアドレスを指定します。マシンを作成する場合に、有効なオプションです。
[-force]	SigmaSystemCenter上に存在するマシンをDPMサーバに作成する際、 稼動中でもDPMサーバにマシンを作成します (対象のマシンがメンテナンスモードの場合)。 マシンを作成する場合に、有効なオプションです。

#### [構文例]

```
>ssc register machine Group1 machine01  
>ssc register machine Group1/Rack01 machine02 machine03  
>ssc register machine Group1/Group2 machine04  
>ssc register machine Group1/Group2/Group3 machine05 -e  
>ssc register machine Group1 / -n  
>ssc register machine Group2 blade1 -e -c  
-uuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000  
>ssc register machine Group2 blade1 -c 192.168.1.101  
-uuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000  
>ssc register machine Group2 blade1 -c 192.168.1.101  
-uuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000 -mac 00:16:97:A7:00:00
```

```
>ssc register machine Group2 blade1 -c 192.168.1.101
-uuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000 -mac 00:16:97:A7:00:00 -force
```

## 2.6.2. マシン対象外

マシンをリソースグループ、もしくはラックから対象外にします。  
また、SigmaSystemCenter、およびDPMサーバからマシンを削除することができます。

### [構文]

```
ssc unregister machine GroupName MachineName... [-d]
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	対象外にするマシンが登録されているリソースグループ、またはラックを指定します。 リソースグループ、またはラックまでのパスを指定します。 "/" のみを指定した場合、[リソース] ツリーの[マシン] アイコン直下にある管理対象マシンが対象となります。
<i>MachineName...</i> (必須)	対象のマシン名を指定します。 運用グループで稼働、または待機中のマシンは指定できません。 複数指定することができます。
[-d]	SigmaSystemCenter、およびDPMサーバからマシンを削除する場合に指定します。

### [構文例]

```
>ssc unregister machine / machine01
>ssc unregister machine Group1 machine02
>ssc unregister machine Group1/Rack01 machine03 machine04
>ssc unregister machine Group1/Group2 machine05
>ssc unregister machine Group1/Group2 machine05 -d
```

## 2.6.3. マシンの割り当て、マシン登録、プールに追加

マシンの割り当て、マスタマシン登録、プールに追加を行います。

### [構文]

```
ssc assign machine GroupName [MachineName...] [-sharedpool | -master | -addpool
| -import]
[-host HostName] [-resource ResourcePool/Name]
[-type Type] [-filePath FilePath] [-vms VmsName]
[-datastore DatastoreName] [-newhost NewHostName]
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	マシンの割り当て、マスタマシン登録、プールに追加を行うグループを指定します。 グループまたはモデルまでのパスを指定します。 テナント、カテゴリは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ/モデル、グループ/モデル)
<i>[MachineName...]</i>	マシンの割り当て、マスタマシン登録、プールに追加を行うマシン名を指定します。 <i>MachineName</i> を省略した場合、グループプールのマシンが対象になります。 [-sharedpool]、[-master]、[-addpool] を指定している場合、省略することはできません。



	プールに追加する場合は、 <i>MachineName</i> を複数指定することができます。
<code>[-sharedpool]</code>	共通プールのマシンをグループに追加する場合、指定します。 <code>[-sharedpool]</code> を省略した場合、グループプールのマシンをグループに追加します。 <code>[-master]</code> 、および <code>[-addpool]</code> と同時に指定できません。
<code>[-master]</code>	マスタマシンの登録を行う場合、指定します。 <code>[-master]</code> を省略した場合、グループプールのマシンをグループに追加します。 <code>[-sharedpool]</code> 、および <code>[-addpool]</code> と同時に指定できません。
<code>[-addpool]</code>	プールにマシンを追加する場合、指定します。 <code>[-sharedpool]</code> 、 <code>[-master]</code> 、および <code>[-host HostName]</code> と同時に指定できません。
<code>[-import]</code>	仮想マシンをインポートしてマスタ登録します。
<code>[-host HostName]</code>	対象のマシンが稼動するホスト名を指定します。 <code>[-import]</code> を指定した場合、省略することはできません。 <code>[-addpool]</code> と同時に指定できません。
<code>[-resource ResourcePoolName]</code>	使用するリソースプール名を指定します。 GroupNameのモデルの種別が "VM" の場合に有効です。 <code>[-addpool]</code> と同時に指定できません。
<code>[-type Type]</code>	FilePath に指定するタイプを指定します。 <code>-import</code> を指定する場合、指定できます。
<code>[-filePath FilePath]</code>	OVF、OVAまたは VHD ファイルのファイルパスを指定します。 Type が指定されていない場合は自動判別します。
<code>[-vms VmsName]</code>	仮想マシンサーバを指定します。 <code>-import</code> が指定されている場合に指定する必要があります。
<code>[-datastore DatastoreName]</code>	データストアを指定します。 <code>-import</code> が指定されている場合に指定する必要があります。
<code>[-newhost NewHostName]</code>	ホストを新規に作成する場合に指定します。省略した場合、 <i>MachineName</i> でホストを作成します。 <code>[-master]</code> を指定する場合、指定できます。 <code>[-hostname]</code> と同時に指定できません。

## 【構文例】

```

* リソース割り当て(マシンを自動選択)
>ssc assign machine Category/Group1/Model001
* リソース割り当て(グループプールのマシンが対象)
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 machine001
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 machine002 -host host002
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 -host03
* リソース割り当て(共通プールのマシンが対象)
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 machine001 -sharedpool
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 machine002 -sharedpool
-host host002
* マスタマシン登録
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 machine001 -master -host host001
* プールに追加
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 machine001 machine002 -addpool
* リソースプールを指定したリソース割り当て
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 machine002 -host host002
-resource MyPool

```

## 2.6.4. 割り当て解除、プールから削除

割り当て解除、プールから削除を行います。

### [構文]

```
ssc release machine GroupName <[HostName...] [-sharedpool] [-force] | -del
MachineName...> <[-c] [-x [lm]] | [-t] >
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	割り当て解除、プールから削除するマシンのグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
[ <i>HostName...</i> ]	対象マシンが稼動しているホスト名を指定します。 <i>HostName</i> を省略した場合、稼動しているマシン1台が自動選択され、グループのプールに戻します。 [-sharedpool]、および [-force] が指定されている場合、省略することはできません。 -delと同時に指定することはできません。 複数指定することができます。
[-sharedpool]	稼動しているマシンをグループから共通プールに戻します。 [-sharedpool] を省略した場合、グループのプールに戻します。 [ <i>HostName...</i> ] は省略することはできません。 -delと同時に指定することはできません。
[-force]	データベースを操作して、強制的に割り当て解除を行います。 [-force] を省略した場合、ジョブを実行します。 [ <i>HostName...</i> ] は省略することはできません。また、複数のホスト名は指定できません。 [-sharedpool]、および -del と同時に指定はできません。
-del <i>MachineName...</i>	対象マシンをプールから削除する場合、指定します。 [ <i>HostName...</i> ]、[-sharedpool]、および [-force] と同時に指定はできません。
-c	マシンの解体を行う場合、指定します。 仮想マシンに対して指定した場合、仮想マシンは削除されます。 仮想マシンに対して指定する場合、[-sharedpool]と同時に指定できません。
-x [ <i>lm</i> ]	解体しない部分を指定します。 論理化マシンを解体しないケースのみサポートしております。 このオプションを利用する場合、[-c]と同時に指定してください。
-t	マシンの解体を行わない場合、指定します。

### [注]

- SigmaSystemCenter 2.1 update 3まではssc release machineにおいてスケールインが実行されていましたが、SigmaSystemCenter 3.0においてスケールインはssc scaleinに移行しました。

### [構文例]

```
=====
割り当て解除(グループプール) 解体あり 論理解体あり
(物理マシン、仮想マシンサーバが対象)
=====
```

```
>ssc release machine Category/Group1 -c
物理マシンの場合は、以下の指定も可能
>ssc release machine Category/Group1
>ssc release machine Category/Group1 host001
```

=====  
割り当て解除(グループプール) 解体あり 論理解体なし  
(物理マシン、仮想マシンサーバが対象)  
=====

```
>ssc release machine Category/Group1 -c -x lm  
>ssc release machine Category/Group1 host001 -c -x lm
```

=====  
割り当て解除(グループプール) 解体なし  
(物理マシン、仮想マシンが対象)  
=====

```
>ssc release machine Category/Group1 -t  
>ssc release machine Category/Group1 host001 -t  
仮想マシンの場合は、以下の指定も可能  
>ssc release machine Category/Group1  
>ssc release machine Category/Group1 host001
```

=====  
割り当て解除(共通プール) 解体あり 論理解体あり  
(物理マシン、仮想マシンサーバが対象)  
=====

```
>ssc release machine Category/Group1 host001 -sharedpool -c  
物理マシンの場合は、以下の指定も可能  
>ssc release machine Category/Group1 host001 -sharedpool
```

=====  
割り当て解除(共通プール) 解体あり 論理解体なし  
(物理マシン、仮想マシンサーバが対象)  
=====

```
>ssc release machine Category/Group1 host001 -sharedpool -c -x lm
```

=====  
割り当て解除(共通プール) 解体なし  
(物理マシン、仮想マシンサーバ、仮想マシンが対象)  
=====

```
>ssc release machine Category/Group1 host001 -sharedpool -t  
仮想マシンの場合は、以下の指定も可能  
>ssc release machine Category/Group1 host001 -sharedpool  
仮想マシンサーバの場合は、以下の指定も可能  
>ssc release machine Category/Group1  
>ssc release machine Category/Group1 host001  
>ssc release machine Category/Group1 host001 -sharedpool  
>ssc release machine Category/Group1 -t  
>ssc release machine Category/Group1 host001 -t
```

=====  
仮想マシン削除  
(仮想マシンが対象)  
=====

```
>ssc release machine Category/Group1 -c  
>ssc release machine Category/Group1 host001 -c
```

=====  
仮想マシンの場合、以下の指定はできません  
=====

```
>ssc release machine Category/Group1 -c -x lm  
>ssc release machine Category/Group1 host001 -c -x lm  
>ssc release machine Category/Group1 host001 -sharedpool -c  
>ssc release machine Category/Group1 host001 -sharedpool -c -x lm
```

=====  
プールから削除  
=====

```
>ssc release machine Category/Group1 -del machine001 machine002
```

=====  
割り当て解除(強制:グループプール)

```

=====
>ssc release machine Category/Group1 host001 -force
=====
割り当て解除(強制:共通プール)
=====
>ssc release machine Category/Group1 host002 -sharedpool -force
=====

```

## 2.6.5. マシンの表示

マシン情報を表示します。

### [構文]

```

ssc show machine [ -ms [on | off] ] [ [-vms [VMSName] ] [ -vm [VMName] ] |
[-smartgroup SmartGroupName] ] [ [-perf] [-resource] | [-spec] ] [-vertical]

```

### [引数/オプション]

[-ms [ on   off ]]	表示対象となるマシンの管理状態を指定します。 省略した場合、すべてのマシンが対象となります。 -msに "on" を指定した場合、管理中のマシンを表示します。 -msに "off" を指定した場合、管理外のマシンを表示します。 "on"、または "off" を省略した場合、すべてのマシンを表示します。
[-vms [VMSName]]	表示対象となる仮想マシンサーバを指定します。 仮想マシンサーバ名を省略すると、全仮想マシンサーバを表示します。 仮想マシンサーバ名を指定した場合は、配下の仮想マシン (VM) 一覧、および テンプレート情報を表示します。
[-vm [VMName]]	表示対象となる仮想マシンを指定します。 仮想マシン名を省略すると、全仮想マシンを表示します。
[-smartgroup SmartGroupName]	指定したスマートグループの条件に合致するマシンの情報を表示します。 グループのパスは、存在するパスを指定します。  パスの先頭には、対象のビューを示す以下のいずれかを指定します。 * operations : [運用] ビュー * resource : [リソース] ビュー (マシンノード配下)  (設定例) operations:/category1/group11/smartgroup101 : [運用] ビューのcategory1配下のgroup11直下のsmartgroup101を指定します。 resource:/smartgroup102 : [リソース] ビューのルートノード直下のsmartgroup102を指定します。
[-perf]	性能情報 (パフォーマンス) を表示します。 仮想マシンサーバ、仮想マシンのみ情報が取得可能です。 最新の情報を取得するため、時間がかかる場合があります。
[-resource]	性能情報 (仮想リソース) を表示します。 仮想マシンサーバ、仮想マシンのみ情報が取得可能です。 最新の情報を取得するため、時間がかかる場合があります。
[-spec]	スペック情報を表示します。
[-vertical]	表示形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) 省略した場合、CSV形式で表示します。

## [構文例]

```
>ssc show machine -ms
>ssc show machine -ms on
>ssc show machine -ms on -perf
>ssc show machine -vms HYPER-V222 -perf
>ssc show machine -vertical
>ssc show machine -vm -resource
>ssc show machine -smartgroup resource:/smartgroup102
>ssc show machine -ms on -smartgroup resource:/smartgroup102 -spec
>ssc show machine -vms XenServer01 -vm VM-W2K8
```

## [表示例]

```
>ssc show machine -ms on
#Name, ManagedStatus, Uuid, MacAddress, Type, SummaryStatus, RunningStatus, ExecuteStatus
"192.168.10.174", "Managed", "80dfbf4d-2de0-d811-8001-003013f10162", "00:30:13:F1:01:62",
"MasterMachine", "Managed", "42043949-9fde-6cb5-297c-bc5cd39a6de7", "00:50:56:84:78:F1",
"MasterVM", "Managed", "42049b63-168e-86d0-83c8-e57319cb622d", "00:50:56:84:09:86", "V
```

```
>ssc show machine -ms on -vms 192.168.10.174 -resource
[VMServer]
#MachineName, MachineType, Uuid, MacAddress, ProductName, ModelName, ManagedStatus, SummaryStatus, RunningStatus, ExecuteStatus
"192.168.10.174", "Blade, VMware, VM Server", "80dfbf4d-2de0-d811-8001-003013f10162", "00:30:13:F1:01:62",
[VirtualMachine]
#MachineName, MachineType, Uuid, MacAddress, ProductName, ModelName, ManagedStatus, SummaryStatus, RunningStatus, ExecuteStatus
"MasterMachine", "VMware, Virtual Machine", "42043949-9fde-6cb5-297c-bc5cd39a6de7", "00:50:56:84:78:F1",
"MasterVM", "VMware, Virtual Machine", "42049b63-168e-86d0-83c8-e57319cb622d", "00:50:56:84:09:86",
[Template]
#SoftwareName, CreateTime, SoftwareCost, SoftwareType, VMServerName, SoftwareLocation, ImageName, ImageType
"FullCloneTemplate", "", "0", "Template, FullClone", "192.168.10.174", "Storage1", "FullClone"
```

```
>ssc show machine -ms on -vms 192.168.10.174 -perf -vertical
[VMServer-01]
MachineName      : 192.168.10.174
MachineType     : Blade, VMware, VM Server
Uuid            : 80dfbf4d-2de0-d811-8001-003013f10162
MacAddress      : 00:30:13:F1:01:62
ProductName     :
ModelName       :
ManagedStatus  : Managed
SummaryStatus   : -
PowerState      : Running
HardwareStatus  : -
MaintenanceStatus : Off
RunningStatus   : -
ExecuteStatus   : -
EventPolicyStatus : -
OperatingSystem : VMware ESX
OSVersion       : 4.0.0 Build-208167
HostName        :
IPAddress       : 192.168.10.174, 192.168.10.58
ConnectionStatus :
VmsTotalCost    : 0
Capacity        : 200
VmCount         : 0
MemorySize (MB) : 3071
Uptime          : 1 days, 06:52:49
LastStartTime   : 2010/07/12 9:29:19
CpuUsage (%)    : 5
```

```

HostCpuUsage (%) : 0
MemoryUsage (%) : 24
HostMemoryUsage (%) : 0
[VirtualMachine-01]
MachineName      : MasterMachine
MachineType      : VMware, Virtual Machine
Uuid             : 42044847-c340-8ec6-a0bf-36b248db25eb
:
:
:
[VirtualMachine-02]
:
:
:
[Template-01]
SoftwareName     : FullCloneTemplate
CreateTime      :
SoftwareCost     : 0
SoftwareType     : Template, FullClone
VMServerName    : 192.168.10.174
SoftwareLocation : Storage1
ImageName       : FullCloneTemplate
DiskSize (MB)   :
Description     :

```

```

>ssc show machine -ms on -smartgroup resource://"Usable ESX" -spec
#UnitName, Uuid, MachineType, MacAddress, SummaryStatus, HardwareStatus, VendorID, Machin
"esx41-1.local", "1b29e313-3000-0180-dc11-f0e92b2e8004", "Unitary, VMware, VM Server
"esx41-9.local", "1429e313-3000-0180-dc11-be70a8d0808a", "Unitary, VMware, VM Server

```

```

>ssc show machine -vms XenServer01 -vm VM-W2K8
[VirtualMachine]
#Name, ManagedStatus, Uuid, MacAddress, Type, SummaryStatus, RunningStatus, ExecuteStatus,
"VM-W2K8", "Managed", "f72af3f3-5a91-27a9-c555-6a3021a58854", "96:62:7A:57:23:BC", "Uni
[VMServer]
#Name, ManagedStatus, Uuid, MacAddress, Type, SummaryStatus, RunningStatus, ExecuteStatus,
"XenServer01", "Managed", "ae3cd500-c0ca-11da-8001-001d924476bb", "00:1D:92:44:78:91",
[Datastore]
#DatastoreName, DatastoreSize (GB), DatastoreUsage (GB), DatastoreFree (GB), DatastoreU
"SAN1", "200.0", "98.5", "101.5", "49", "virtual:/172.16.0.16/XS61", "XenServer01, XenServ

```

## [注]

- 仮想マシンサーバに接続できない場合や一時的に情報が取得できない場合、仮想マシンサーバ、および仮想マシンの性能情報（パフォーマンス、仮想リソース）を空白で表示する場合があります。

## 2.6.6. マシン情報の更新

指定したマシンの情報を更新します。

### [構文]

```

ssc update machine < -name Machine | -uuid UUID > [-model ModelName] [-location
Location] [-unitname name] [-tag Tag...] [-slot SlotNo] [-type Type] [-network
NICNo, MAC, Switch, Port...] [-storage HBANo, WWN...] [-vendor [Vendor]] [-cpu
[Clock (MHz), ProductName]] [-socket SocketCount] [-thread ThreadCount] [-lcpu
LCPUCount] [-core CoreCount] [-memory [size (MB)]] [-newuuid Uuid]

```

## [引数/オプション]

< -name <i>Machine</i>   -uuid <i>UUID</i> > (必須)	対象マシンのマシン名、あるいはUUIDを指定します。
[-model <i>ModelName</i> ]	モデル名を指定します
[-location <i>Location</i> ]	ロケーションを指定します。 仮想マシンは指定できません。
[-unitname <i>name</i> ]	ユニット名を指定します。
[-tag <i>Tag...</i> ]	タグを指定します。複数指定可能です。
[-slot <i>SlotNo</i> ]	スロット番号を指定します。
[-type <i>Type</i> ]	マシン種別を指定します。 "unitary"、または "blade" が指定可能です。 Unitary、あるいはBladeマシンが対象です。
[-network <i>NICNo,MAC,Switch,Port[...]</i> ]	以下のネットワーク情報を指定します。 NIC番号、MACアドレス、スイッチ、ポート データは "," で区切って指定してください。 複数指定可能です。 NIC番号には1以上10以下を指定します。 仮想マシンは指定できません。
[-storage <i>HBANo,WWN[...]</i> ]	以下のストレージ情報を指定します。 HBA番号、アドレス データは "," で区切って指定してください。 複数指定可能です。 HBA番号には0以上9999以下を指定します。 仮想マシンは指定できません。
[-vendor [ <i>Vendor</i> ]]	ベンダーを指定します。 "IBM"、"HP"、"NEC"、"DELL"、"Cisco" が指定可能です。 上記以外にベンダーに対応する数値を指定可能です。 <a href="http://www.iana.org/assignments/enterprise-numbers">http://www.iana.org/assignments/enterprise-numbers</a> Vendor省略時はUnknown(0) を設定します。 仮想マシン、仮想マシンサーバは指定できません。
[-cpu [ <i>Clock(MHz),ProductName</i> ]]	以下のCPU情報を指定します。 CPU周波数、CPU種別 データは "," で区切って指定してください。 CPU周波数はMHz単位で指定してください。 <i>Clock,ProductName</i> 共に省略時はCPU情報を削除します。 ただしCPUソケット数、スレッド数、論理CPU数、 CPUコア数は削除しません。 仮想マシン、仮想マシンサーバは指定できません
[-socket <i>SocketCount</i> ]	CPUソケット数を指定します。 仮想マシン、仮想マシンサーバは指定できません。
[-thread <i>ThreadCount</i> ]	スレッド数を指定します。 仮想マシン、仮想マシンサーバは指定できません。
[-lcpu <i>LPCUCount</i> ]	論理CPU数を指定します。 仮想マシン、仮想マシンサーバは指定できません。
[-core <i>CoreCount</i> ]	CPUコア数を指定します。 仮想マシン、仮想マシンサーバは指定できません。
[-memory [ <i>size(MB)</i> ]]	メモリ総量をMB単位で指定します。 <i>size</i> を省略した場合、メモリ情報を削除します。 仮想マシン、仮想マシンサーバは指定できません。
[-newuuid <i>Uuid</i> ]	UUIDを指定します。

- 更新は情報項目（全般、ネットワーク、ストレージ、スペック）ごとにされます。  
エラーが含まれる項目は更新されません。また、そこで処理は打ち切られます。

## [構文例]

```

全般情報設定
>ssc update machine -name machine1 -model "Express5800 110Rd-1" -location web
>ssc update machine -uuid 00B9771D-29BB-DB11-8001-003013B8F50D -slot 1 -type blade
ネットワーク情報設定
>ssc update machine -name machine1 -network 1,00:31:13:B8:F6:1D, switch1, lan2
>ssc update machine -name machine1 -network 1,00:31:13:B8:F6:1D, switch1, lan2
2,00:31:13:B8:F6:1E
ストレージ情報設定
>ssc update machine -name machine1 -storage 0,00:10:48:60:69:00:60:48
>ssc update machine -name machine1 -storage 0,00:10:48:60:69:00:60:48
1,00:10:48:60:68:00:60:48
スペック情報設定
>ssc update machine -name machine1 -vendor NEC
-cpu 1600,"Intel (R) Xeon(R) CPU 5110 @ 1.60GHz"
>ssc update machine -name machine1 -socket 2 -thread 4 -lcpu 4 -core 4
-memory 2048

```

## 2.6.7. マシンの電源操作

グループで稼働中のホスト、あるいは管理中マシンに対して、電源操作を行います。

### [構文]

```

ssc power-control machine Operation <GroupName [HostName[...]] |
<-name MachineName[...] | -path Path[...] | -uuid UUID[...] | -mac MAC[...]>>
[-quick]

```

### [引数/オプション]

<i>Operation</i> (必須)	操作内容を指定します。 startup: 起動します。 shutdown: シャットダウンします。 reboot: 再起動します。 suspend: サスペンドにします。(仮想マシンのみ)
<i>GroupName</i>	対象グループを指定します。 テナント、カテゴリ、グループ、またはモデルのパスを指定します。 <i>HostName</i> を指定する場合は、グループを指定してください。
[ <i>HostName</i> ]	稼働中のホスト名を指定します。 指定したグループに存在しているホストのみ複数指定できます。 省略時、対象グループで稼働するすべてのマシンを対象とします。
-name <i>MachineName</i>   -path <i>Path</i>   -uuid <i>UUID</i>   -mac <i>MAC</i>	設定する対象を指定します。 -name, -path, -uuid, -macはいずれか1つを指定する必要があります。 指定する対象は複数指定が可能です。 -name : マシンの名称で指定します。 -path : 対象までのパスを指定します。 ・各ビューのマシンまでのパス ・[リソース] ビューでのグループ、またはラックのパス ・[運用] ビューでのグループのパス -uuid : マシンのUUIDで指定します。 -mac : マシンのプライマリMACアドレスで指定します。 -path指定時、ビューを指定しない場合、[リソース] ビューの指定となります。
[-quick]	起動時の確認処理を簡易的に行います。 本オプションを指定しない場合と比べて、短時間で処理が完了します。 VMwareのVMのみ有効です。



## [注]

-quickオプションによる起動は、電源起動後の完了確認を簡略化して行いますので、操作完了後にまだ使用できない状態、もしくは操作自体がエラーになる可能性が、通常の起動操作より高くなりますが、その分短時間で処理が完了します。

## [構文例]

```
[運用] ビューのグループ全体に対して起動
>ssc power-control machine startup Category1
>ssc power-control machine startup Category1/Group1
[運用] ビューの指定ホストに対してシャットダウン
>ssc power-control machine shutdown Category1/Group1 Host01
>ssc power-control machine shutdown Category1/Group1 Host01 Host02 Host03
[リソース] ビューのグループ全体に対して起動 (簡易起動)
>ssc power-control machine on -path resource:/VMGroup -quick
指定マシンに対して再起動 (マシン名指定)
>ssc power-control machine reboot -name machine1
指定マシンに対して再起動 (UUID指定)
>ssc power-control machine reboot -uuid 00B9771D-29BB-DB11-8001-003013B8F50D
指定マシンに対して再起動 (MACアドレス指定)
>ssc power-control machine reboot -mac 00:31:13:B8:F6:1D
```

## 2.6.8. バックアップ

バックアップを実行します。

### [構文]

```
ssc machine backup Path -host HostName... [-concurrent Value] [-interval Value]
```

### [引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	グループまでのフルパスを指定します。
-host <i>HostName...</i> (必須)	稼働中のホスト名を指定します。(複数指定可能)
[-concurrent <i>Value</i> ]	最大同時実行数を指定します。(既定値は1) 1 から 100 の範囲で指定します。
[-interval <i>Value</i> ]	実行間隔を指定します。(既定値は0) 0 秒から 99999 秒の範囲で指定します。

### [構文例]

```
>ssc machine backup category1/group1 -host host1
>ssc machine backup category1/group1 -host host1 host2 host3
>ssc machine backup category1/group1 -host host1 host2 host3
  -concurrent 2 -interval 500
```

## 2.6.9. リストア

リストアを実行します。

### [構文]

```
ssc machine restore Path -host HostName... [-concurrent Value] [-interval Value]
```

## [引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	グループまでのフルパスを指定します。
<i>-host HostName...</i> (必須)	稼働中のホスト名を指定します。(複数指定可能)
<i>[-concurrent Value]</i>	最大同時実行数を指定します。(既定値は1) 1 から 100 の範囲で指定します。
<i>[-interval Value]</i>	実行間隔を指定します。(既定値は0) 0 秒から 99999 秒の範囲で指定します。

## [構文例]

```
>ssc machine restore category1/group1 -host host1
>ssc machine restore category1/group1 -host host1 host2 host3
>ssc machine restore category1/group1 -host host1 host2 host3
  -concurrent 2 -interval 500
```

## 2.6.10. ハードウェアの登録

ハードウェアを管理対象にします。

## [構文]

```
ssc register hardware Type HardwareName [-account Account] [-p Password]
```

## [引数/オプション]

<i>Type</i> (必須)	ハードウェアの種別を指定します。 switch: 物理スイッチ lb: ロードバランサ firewall: ファイアウォール
<i>HardwareName</i> (必須)	ハードウェア名、またはIPアドレスを指定します。 ファイアウォールの場合、IPアドレスを指定します。
<i>[-account Account]</i>	ハードウェアのアカウントを指定します。 スイッチとロードバランサの場合は、指定できません。
<i>[-p Password]</i>	ハードウェアのパスワードを指定します。 スイッチとロードバランサの場合は、指定できません。

## [構文例]

```
>ssc register hardware switch Switch01
>ssc register hardware lb LB01
>ssc register hardware firewall 192.168.1.2 -account root -p xxxxx
```

## 2.7. マシンアカウント

### 2.7.1. アカウントの作成

管理対象、または管理対象外マシンのアカウントを作成します。  
SigmaSystemCenter では、管理対象の管理 / 監視 / 制御で使用する  
接続の種別ごとにアカウントを設定することができます。

#### [構文]

```
ssc machine-account create < -uuid UUID | -machine MachineName > -type  
ConnectionType -ip IPAddress -u UserName [-p Password] [-overwrite]
```

#### [引数/オプション]

< -uuid <i>UUID</i>   -machine <i>MachineName</i> > (必須)	アカウント登録する対象のマシンのUUID、またはマシン名を指定します。管理対象外のマシンも指定できます。
-type <i>ConnectionType</i> (必須)	接続種別を指定します。“oob”のみサポートします。OOBは、Out-of-Band-Managementで使用されます。
-ip <i>IPAddress</i> (必須)	IPアドレスを指定します。
-u <i>UserName</i> (必須)	ユーザ名を指定します。 接続先のログインシステムによっては、大文字 / 小文字が区別されることがあります。
[-p <i>Password</i> ]	パスワードを指定します。 [-p <i>Password</i> ] を省略した場合、パスワード指定なしとなります。 <i>Password</i> に、空文字 (“”) を指定した場合、省略した場合と同じ扱いとなります。
[-overwrite]	マシンアカウントが既に登録済みの場合、上書きをします。 [-overwrite] を省略した場合、マシンアカウントが既に登録されているとエラーになります。

#### [構文例]

```
>ssc machine-account create -machine SV0100 -type oob -ip 192.168.1.100 -u User01  
-p xxxxxx  
>ssc machine-account create -uuid 7DEB0F09-0BC6-495f-9CF6-A15EBC88BCC9 -type oob  
-ip 192.168.1.101 -u User02  
>ssc machine-account create -machine SV0200 -type oob -ip 192.168.1.102 -u User01  
-p "" -overwrite  
>ssc machine-account update -uuid 1CC9EBCC-7091-498d-84D2-B2F168690BC8 -type oob  
-p xxxxxxxx
```

### 2.7.2. アカウントの更新

管理対象、または管理対象外マシンのアカウントを更新します。

#### [構文]

```
ssc machine-account update < -uuid UUID | -machine MachineName > -type  
ConnectionType [-ip IPAddress] [-u UserName] [-p Password]
```

## [引数/オプション]

< -uuid <i>UUID</i>   -machine <i>MachineName</i> > (必須)	対象マシンのUUID、またはマシン名を指定します。
-type <i>ConnectionType</i> (必須)	接続種別を指定します。“oob”のみサポートします。OOBは、Out-of-Band-Managementで使用されます。
[-ip <i>IPAddress</i> ]	更新するIPアドレスを指定します。
[-u <i>UserName</i> ]	更新するユーザ名を指定します。 接続先のログインシステムによっては、大文字 / 小文字が区別されることがあります。
[-p <i>Password</i> ]	更新するパスワードを指定します。 <i>Password</i> に、空文字("")を指定した場合は、パスワードを削除します。

- -ip、-u、-pオプションをすべて省略することはできません。

## [構文例]

```
>ssc machine-account update -machine SV0100 -type oob -ip 192.168.1.100  
-u User01a -p xxxxxx  
>ssc machine-account update -uuid 1CC9EBCC-7091-498d-84D2-B2F168690BC8 -type oob  
-ip 192.168.1.200  
>ssc machine-account update -machine SV0200 -type oob -u User02a  
>ssc machine-account update -uuid 3571C728-EE55-4a43-A8AE-DDDA3ED8EBA0 -type oob  
-p xxxxxxxx
```

## 2.7.3. アカウントの削除

管理対象、または管理対象外マシンのアカウントを削除します。

### [構文]

```
ssc machine-account delete < -uuid UUID | -machine MachineName > -type  
ConnectionType
```

## [引数/オプション]

< -uuid <i>UUID</i>   -machine <i>MachineName</i> > (必須)	対象マシンのUUID、またはマシン名を指定します。
-type <i>ConnectionType</i> (必須)	接続種別を指定します。“oob”のみサポートします。OOBは、Out-of-Band-Managementで使用されます。

## [構文例]

```
>ssc machine-account delete -machine SV0100 -type oob  
>ssc machine-account delete -uuid 503BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEC439 -type oob
```

## 2.7.4. アカウントの表示

管理対象、または管理対象外マシンのアカウント情報を表示します。

### [構文]

```
ssc machine-account show [ -uuid UUID | -machine MachineName ] [-setting]
```

## [引数/オプション]

[ -uuid <i>UUID</i>   -machine <i>MachineName</i> ]	対象マシンのUUID、またはマシン名を指定します。 <i>UUID</i> 、もしくは <i>MachineName</i> を省略した場合、すべての登録されたマシンが対象になります。
[-setting]	CSV形式で表示します。

## [構文例]

```
>ssc machine-account show
>ssc machine-account show -setting
>ssc machine-account show -machine SV0100
>ssc machine-account show -machine SV0100 -setting
>ssc machine-account show -uuid 503BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEC439
>ssc machine-account show -uuid 503BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEC439 -setting
```

## [表示例]

```
>ssc machine-account show
[1]
MachineName      : SV0100
UUID             : 503BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEC439
MachineAccount
  UserName       : user01
  HostName      : 192.168.1.100
  Connection Status : Connected [2009/06/09 13:00:00]
[2]
MachineName      : SV0101
UUID             : 555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE
MachineAccount
  UserName       : user02
  HostName      : 192.168.1.101
  Connection Status : Connected [2009/06/09 13:15:00]
```

```
>ssc machine-account show -setting
#MachineName, UUID, UserName, HostName, Connection Status
SV0100, 503BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEC439, user01, 192.168.1.100, Connected [2009/0
SV0101, 555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE, user02, 192.168.1.101, Connected [2009/0
```

```
>ssc machine-account show -machine SV0101
MachineName      : SV0101
UUID             : 555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE
MachineAccount
  UserName       : user02
  HostName      : 192.168.1.101
  Connection Status : Connected [2009/06/09 13:15:00]
```

```
>ssc machine-account show -uuid
555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE
MachineName      : SV0101
UUID             : 555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE
MachineAccount
  UserName       : user02
  HostName      : 192.168.1.101
  Connection Status : Connected [2009/06/09 13:15:00]
```

```
>ssc machine-account show -uuid
555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE -setting
#MachineName, UUID, UserName, HostName, Connection Status
```



## 2.8. グループ

### 2.8.1. グループの作成

テナント、カテゴリ、グループ、またはモデルを作成します。

#### [構文]

```
ssc create group GroupName <[-tenant] | [-category] | [-ostype
OperatingSystemType] | [-modeltype ModelType] > [-machinetype MachineType]
[-count Count] [-priority Priority] [-pool <group | shared>] [-dpmmanager
DPMManager] [-vnet VirtualNetworkName...] [-optimized <on | off>] [-dc
DatacenterName] [-prestriction] [-resource ResourcePoolName] [-resourceid Id]
[-scaleoutgroup <off | [max=Value] [min=Value] [scaleoutcount=Value]
[scaleincount=Value] [shutdown=<on | off>]>] [-mailto E-mailAddress]
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	作成するテナント、カテゴリ、グループ、またはモデルを指定します。 カテゴリ、グループ、またはモデルまでのパスを指定します。 ※カテゴリ、グループのパスに未作成のカテゴリがある場合は、そのカテゴリを作成します。また、モデルのパスにあるグループは、既存のグループでなければなりません。 -tenant を指定した場合は、テナント作成、 -category を指定した場合は、カテゴリ作成、 -ostype を指定した場合は、グループ作成、 -modeltype を指定した場合は、モデル作成となります。 (例: テナント、カテゴリ、カテゴリ/グループ、カテゴリ/グループ/モデル)
[-tenant]	テナントを作成する場合に指定します。
[-category]	カテゴリを作成する場合に指定します。
[-ostype <i>OperatingSystemType</i> ]	OS種別を指定します。 グループ作成時は、省略することはできません。 以下の <i>OperatingSystemType</i> を指定できます。 いずれか1つを指定してください。 <i>OperatingSystemType</i> : OS種別 Linux: Linux Windows-client: Windows Client Windows: Windows Server
[-modeltype <i>ModelType</i> ]	モデルに設定するモデル種別を指定します。 <i>ModelType</i> : モデル種別 Physical: 物理モデル VM: VMモデル VMServer: VMサーバモデル モデル作成時は、省略することはできません。 省略するとグループを作成します。
[-machinetype <i>MachineType</i> ]	グループに設定するマシン種別を指定します。 <i>MachineType</i> : マシン種別 Physical: 物理 VM: VM VMServer: VMサーバ 省略するとVMが指定されます。
[-count <i>Count</i> ]	作成するグループ数、またはモデル数を指定します。 1以上を指定してください。 2以上の場合は、 <i>GroupName</i> に1から順に通し番号を付加します。 既定値は (1) です。

[-priority <i>Priority</i> ]	グループ、またはモデルのプライオリティを指定します。 1以上10以下で指定してください。既定値は (1) です。
[-pool <group   shared>]	プールマシンの検索モードを指定します。 グループ作成時のみ指定できます。 group: グループプールのマシンのみ検索します(GroupOnly)。 shared: グループプールに対象マシンがない場合、 共通プールも検索します(GroupAndShared)。
[-dpmmanager <i>DPMManager</i> ]	DPMサーバのIPアドレスを指定します。 テナント、カテゴリ、あるいは <i>ModelType</i> や <i>MachineType</i> が "VM" の場合に有効です。
[-vnet <i>VirtualNetworkName...</i> ]	仮想ネットワーク名を指定します。 <i>ModelType</i> や <i>MachineType</i> が "VM" の場合に有効です。 最大4つ (NIC#1からNIC#4まで) 指定できます(空白区切り)。 記述順に、NIC#1から割り当てます。  ※仮想ネットワーク設定でエラーになった場合でも、モデルは作成されています。その場合、Webコンソールで該当モデルの仮想ネットワークを設定し直す必要があります。
[-optimized<on   off>]	最適起動の有効 / 無効 / 解除を指定します。 テナント、カテゴリ、あるいは <i>ModelType</i> や <i>MachineType</i> が "VM" の場合に有効です。
[-dc <i>DatacenterName</i> ]	DataCenter名を指定します。[仮想] ビューのパスを指定します。 <i>ModelType</i> や <i>MachineType</i> が "VMServer" の場合に有効です。 (例: 仮想マネージャ/DataCenter)
[-prestriction]	配置制約の設定を有効にします。 [-prestriction] を省略した場合は、配置制約の設定は無効になります。 <i>ModelType</i> や <i>MachineType</i> が "VMServer" の場合に有効です。
[-resource <i>ResourcePoolName</i> ]	使用するリソースプール名を指定します。 カテゴリ、あるいは <i>ModelType</i> や <i>MachineType</i> が "VM" の場合に 有効です。
[-resouceid <i>Id</i> ]	リソース管理IDを指定します。 テナント作成の場合に有効です。
[-scaleoutgroup <off   [max= <i>Value</i> ] [min= <i>Value</i> ] [scaleoutcount= <i>Value</i> ] [scaleincount= <i>Value</i> ] [shutdown=<on   off>]>]	スケールアウトグループとしての設定を行います。 "=" の前後に空白は指定できません。  off : スケールアウトグループとしての設定を行いません。 他のパラメータと同時指定はできません。  max= <i>Value</i> : 最大稼働台数を設定します。 1 から 10000 の範囲で指定します。  min= <i>Value</i> : 最低稼働台数を設定します。 0 から 10000 の範囲で指定します。  scaleoutcount= <i>Value</i> : スケールアウト台数を設定します。 1 から 100 の範囲で指定します。  scaleincount= <i>Value</i> : スケールイン台数を設定します。 1 から 100 の範囲で指定します。  shutdown=<on   off> : スケールイン時に、稼働中マシンの シャットダウン有無を設定します。 on : シャットダウンします。 off : シャットダウンしません。



[-mailto *E-mailAddress*]

通報先メールアドレスを指定します。  
グループ作成時のみ指定できます。

## 【構文例】

VMグループを作成（リソースプールを指定、DPMサーバを指定）

```
>ssc create group VMGroup -ostype Windows -machinetype VM -resource ResourcePool -
```

VMサーバモデルを作成（データセンタ名指定、配置制約を有効設定）

```
>ssc create group Category1/Group01/VmsModel01 -modeltype VMServer  
-dc VC/Datacenter1 -prestriction
```

### • 作成タイプ別指定可能オプション

作成タイプ	オプション
Tenant	-tenant -resourceid -dpmmanager -optimized
Category	-category -resource -dpmmanager -optimized
Group (Physical)	-ostype -machinetype -count -priority -pool -scaleoutgroup -mailto
Group (VM)	-ostype -machinetype -count -priority -pool -scaleoutgroup -mailto -dpmmanager -resource -vnet -optimized
Group (VMServer)	-ostype -machinetype -count -priority -pool -scaleoutgroup -mailto -dc -prestriction
Model (Physical)	-modeltype -count -priority
Model (VM)	-modeltype -count -priority -dpmmanager

	-resource -vnet -optimized
Model (VMServer)	-modeltype -count -priority -dc -prestriction

## 2.8.2. グループ設定情報の更新

テナント、カテゴリ、グループ、またはモデルの設定内容を編集、または更新します。

### [構文]

```
ssc update group GroupName [-pool <group | shared>] [-policy PolicyName...]
[-higherpolicy <on | off>] [-priority Priority] [-dpmmanager DPMManager] [-vnet
VirtualNetworkName...] [-optimized <on | off | none>] [-dc [DatacenterName]]
[-vmoptimize <on | off>] [-loadbound <[low=value] [high=value] [dl=value]
[du=value]] [-reserve ReserveMachineNumber] [-prestriction <on | off>]
[-domain name [account] [password]] [-dns [primary] [secondary] [tertiary]]
[-resource[ResourcePoolName]] [-balancelevel n] [-scaleoutgroup <off | [on]
[max=Value] [min=Value] [scaleoutcount=Value] [scaleincount=Value]
[shutdown=<on | off>]] [-mailto E-mailAddress]
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	更新するテナント、カテゴリ、グループ、またはモデルを指定します。 グループ、またはモデルまでのパスを指定します。 (例: テナント、カテゴリ、カテゴリ/グループ、カテゴリ/グループ/モデル)
[-pool <group   shared>]	プールマシンの検索モードを指定します。 <i>GroupName</i> にグループを指定した場合に有効です。 group: グループプールのマシンのみ検索します。 shared: グループプールに対象マシンがない場合、共通プールも検索します。
[-policy <i>PolicyName...</i> ]	ポリシー名を更新します。 <i>PolicyName</i> を省略した場合、ポリシー設定がされていない状態になります。
[-higherpolicy <on   off>]	グループのポリシー設定を使用するか指定します。 <i>GroupName</i> がモデルの場合、有効です。 on: グループのポリシー設定を使用する設定を有効にします。 off: グループのポリシー設定を使用する設定を無効にします。
[-priority <i>Priority</i> ]	グループ、またはモデルのプライオリティを更新します。 1以上10以下で指定してください。
[-dpmmanager <i>DPMManager</i> ]	DPMサーバのIPアドレスを指定します。 <i>DPMManager</i> を省略した場合、未設定となります。 <i>GroupName</i> のモデル種別やマシン種別が "VM" の場合に有効です。
[-vnet <i>VirtualNetworkName...</i> ]	仮想ネットワークを指定します。 <i>GroupName</i> のモデル種別やマシン種別が "VM" の場合に有効です。 最大4つ (NIC#1からNIC#4まで) 指定できます。 既存の設定をすべて削除して、再設定します。 既存の設定に対して、追加、編集、削除はできません。 変更のない仮想ネットワーク名も含めて指定する必要があります。

	<i>VirtualNetworkName</i> を省略した場合、未設定となります。
[-optimized <on   off   none>]	最適起動を設定します。 <i>GroupName</i> のモデルやマシンの種別が "VM" の場合に有効です。 on: 最適起動を有効にします。 off: 最適起動を無効にします。 none: 最適起動の設定を解除します。
[-dc [ <i>DatacenterName</i> ]]	データセンター名を指定します。[仮想] ビューのパスを指定します。 (例: 仮想マネージャ/DataCenter) <i>DatacenterName</i> を省略した場合、未設定となります。 <i>GroupName</i> のモデル種別やマシン種別が "VMサーバ" の場合に有効です。
[-vmoptimize <on   off>]	最適起動を設定します。 <i>GroupName</i> のモデル種別やマシン種別が "VMサーバ" の場合に有効です。 on: VM最適配置の設定を有効にします。 off: VM最適配置の設定を無効にします。
[-loadbound <[low= <i>value</i> ] [high= <i>value</i> ] [dl= <i>value</i> ] [du= <i>value</i> ]>]	VM最適配置の負荷分散、省電力を設定します。 <i>value</i> には0以上100以下 (単位 : %) の値を指定します。 "=" の前後に空白は指定できません。 low、high、dl、duのいずれか1つ指定する必要があります。 <i>GroupName</i> のモデル種別やマシン種別が "VMサーバ" の場合に有効です。 low: 低負荷境界を指定します。 high: 高負荷境界を指定します。 dl: 稼動目標域の下限値を指定します。 du: 稼動目標域の上限値を指定します。
[-reserve <i>ReserveMachineNumber</i> ]	VM最適配置の予備マシン台数を指定します。 0以上9以下の範囲で指定します。 <i>GroupName</i> のモデル種別やマシン種別が "VMサーバ" の場合に有効です。
[-prestriction <on   off>]	配置制約を設定します。 <i>GroupName</i> のモデル種別やマシン種別が "VMサーバ" の場合に有効です。 on: 配置制約の設定を有効にします。 off: 配置制約の設定を無効にします。
[-domain <i>name</i> [ <i>account</i> ] [ <i>password</i> ]]	ドメイン (サフィックス) 名を指定します。 Windows系の場合は、アカウントとパスワードもあわせて指定します。
[-dns [ <i>primary</i> ] [ <i>secondary</i> ] [ <i>tertiary</i> ]]	DNSサーバのIPアドレスを指定します。 <i>primary</i> : プライマリDNSを指定します。 <i>secondary</i> : セカンダリDNSを指定します。 (Windows, Linux系) <i>tertiary</i> : ターシャリDNSを指定します。 (Linux系) 上記設定がない場合は、現在の値がクリアされます。  例) -dns 192.168.10.1 172.10.1.5 192.168.1.1 primary=192.168.10.1 secondary=172.10.1.5 tertiary =192.168.1.1  -dns 192.168.10.1 172.10.1.5 primary=192.168.10.1 secondary=172.10.1.5 tertiary=

	<pre>-dns 192.168.10.1 primary=192.168.10.1 secondary= tertiary=  -dns primary= secondary= tertiary</pre>
<code>[-resource[ResourcePoolName]]</code>	<p>リソースプールを指定します。  <i>ResourcePoolName</i>を省略した場合、未設定となります。  <i>GroupName</i>がテナント、カテゴリ、あるいは配下のモデル種別やマシン種別が "VM" の場合に有効です。</p>
<code>[-balancelevel n]</code>	<p>最適起動の分散レベルを指定します。  <i>n</i>には0,1,2,3,inherit のいずれかを指定してください。</p> <p>0 : 仮想マシン起動時に現在の仮想マシンサーバが優先されます。  -現在の仮想マシンサーバでキャパシティ超過となる場合は、他の仮想マシンサーバで起動されます。このとき、起動状態でキャパシティの空きが、大きい仮想マシンサーバを決定する際には、仮想マシンサーバが優先されます。  -現在の仮想マシンサーバが停止状態の場合は、起動状態でキャパシティの空きが大きい仮想、マシンサーバが優先されます。</p> <p>-起動先仮想マシンサーバを決定する際には、仮想マシンサーバのCPU使用率・メモリ使用量は考慮されません。</p> <p>1 : 仮想マシン起動時に現在のサーバが優先されます。  -現在の仮想マシンサーバでキャパシティ超過となる場合は、他の仮想マシンサーバで起動されます。このとき、起動状態で低負荷の仮想マシンサーバが優先されます。  -現在の仮想マシンサーバが停止状態の場合は、起動状態で低負荷の仮想マシンサーバが優先されます。  -現在の仮想マシンサーバが高負荷である (CPU使用率がVMサーバモデルの移動目標域上限を超過する / メモリ使用量が上限を超過する) と判断された場合は、起動状態で低負荷の仮想マシンサーバが優先されます。</p> <p>2 : 仮想マシン起動時に起動状態で低負荷の仮想マシンサーバが優先されます。</p> <p>3 : 仮想マシン起動時に停止状態のものを含む全仮想マシンサーバ中で、低負荷の仮想マシンサーバが優先されます。停止状態の仮想マシンサーバは負荷 "0" とみなされるため基本的に停止状態の仮想マシンサーバが優先されます。</p> <p>inherit : 上位階層の設定を継承します。すべての階層で "inherit" が指定されている場合は、分散レベル1として動作します。</p>
<pre>[-scaleoutgroup &lt;off   [on] [max=Value] [min=Value] [scaleoutcount=Value] [scaleincount=Value] [shutdown=&lt;on   off&gt;]&gt;]</pre>	<p>スケールアウトグループとしての設定を行います。  "=" の前後に空白は指定できません。</p> <p>off : スケールアウトグループの設定を無効にします。  他のパラメータと同時指定はできません。  on : スケールアウトグループの設定を有効にします。</p> <p>max=Value : 最大稼働台数を設定します。  1 から 10000 の範囲で指定します。</p> <p>min=Value : 最低稼働台数を設定します。  0 から 10000 の範囲で指定します。</p> <p>scaleoutcount=Value :  スケールアウト台数を設定します。</p>

	<p>1 から 100 の範囲で指定します。</p> <p>scaleincount = <i>Value</i> :  スケールイン台数を設定します。  1 から 100 の範囲で指定します。</p> <p>shutdown = &lt;on   off&gt; :  スケールイン時に、稼動中マシンの  シャットダウン有無を設定します。  on : シャットダウンします。  off : シャットダウンしません。</p>
[-mailto <i>E-mailAddress</i> ]	<p>通報先メールアドレスを指定します。  GroupNameにグループを指定した場合に有効です。</p>

## 【構文例】

### VMグループの設定を更新

```
>ssc update group VMGroup -resource ResourcePool -dpmmanager 127.0.0.1
```

### VMサーバモデルの設定を更新

```
>ssc update group Category1/Group01/VmsModel01 -vmoptimize on
-loadbound low=10 dl=20 du=60 high=80 -reserve 2
>ssc update group Category1/Group01/VmsModel01 -dc VC/Datacenter1
-prestriction on
```

### • 更新対象別指定可能オプション

更新対象	オプション
Tenant	-tenant -dpmmanager -optimized
Category	-category -resource -dpmmanager -optimized
Group (Physical)	-priority -pool -policy -domain -dns -scaleoutgroup -mailto
Group (VM)	-priority -pool -policy -domain -dns -scaleoutgroup -mailto -dpmmanager -vnet -optimized -resource -balancelevel
Group (VMServer)	-priority -pool -policy -domain

	-dns -scaleoutgroup -mailto -dc -vmoptimize -loadbound -reserve -prestriction
Model (Physical)	-priority -policy -higherpolicy
Model (VM)	-priority -policy -higherpolicy -dpmmanager -vnet -optimized -resource -balancelevel
Model (VMServer)	-priority -policy -higherpolicy -dc -vmoptimize -loadbound -reserve -prestriction

### 2.8.3. グループ設定の表示

テナント、カテゴリ、グループの設定内容を表示します。

**【構文】**

```
ssc show group GroupName [-group] [-model [ModelName...]]
```

**【引数/オプション】**

<i>GroupName</i> (必須)	グループ設定を表示するグループを指定します。 テナント、カテゴリ、グループまでのパスを指定します。 テナント、カテゴリ指定時は、その配下のグループが対象です。 全グループの設定を表示するには "/" を指定します。 (例: カテゴリ、カテゴリ/グループ)
[-group]	グループの設定内容を表示します。
[-model[ <i>ModelName...</i> ]]	モデルの設定内容を表示します。 対象となるモデル名を指定することができます。

**【構文例】**

```
>ssc show group Category1
>ssc show group Category1/Group01
>ssc show group Group-A001 -group
>ssc show group Group-B001 -model
>ssc show group Group-B001 -model Model-B001 Model-B002
```

### 2.8.4. マシンプロファイルの設定

マシンプロファイルを設定します。

[構文]

```
ssc set profile Path <ProfileName | [-cost costValue] [-cpu count=value
[share=value] [reservation=value] [limit=value]] [-mem size=value [share=value]
[reservation=value] [limit=value]] [-vnet VirtualNetworkName...] [-vnettype
<vlan | network | edit>...] [-systemdisk [size=value] [type=<thin | thick>]
[independent] [datastoretag=value | datastore] [file=value]] [-extdisk
[size=value] [ctrl=value [position=value]] [type=<thin | thick | rdm-p |
rdm-v>] [independent] [datastoretag=value | datastore] [/lun] [file=value], ...]
| -delete [cost | cpu | mem | vnet | systemdisk | extdisk]>
```

[引数/オプション]

<p><i>Path</i> (必須)</p>	<p>設定対象運用グループ、モデル、またはホストまでのフルパスを指定します。 ビュータイプ (operations:/) は省略可能です。 テナント、カテゴリは指定できません。</p> <p>例: グループ指定の場合 Category/Group モデル指定の場合 Category/Group/Model ホスト指定の場合 Category/Group/Host ホスト指定の場合 (ビュータイプ指定時) operations:/Category/Group/Host</p>
<p><i>ProfileName</i></p>	<p>名前付きプロファイル名を指定します。</p>
<p>[-cost <i>costValue</i>]</p>	<p>コスト値を指定します。1から1000の範囲で指定します。</p>
<p>[-cpu count=<i>value</i> [share=<i>value</i>] [reservation=<i>value</i>] [limit=<i>value</i>]]</p>	<p>CPU数とシェア値、予約値、および制限値を指定します。 CPU数は必ず指定してください。 "=" の前後に空白は指定できません。</p> <p>count : CPU数を指定します。 value に、1以上9999以下を指定します。 (例: count=2)</p> <p>share : CPU のシェア値を指定します。 CPUシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り VMware 設定値 * CPU数 Hyper-V 設定値 / 10 Xen 設定値 * 256 / 1000 KVM 設定値 * 1024 / 1000 value に、以下の値を指定します。 省略時は share=n が設定されます。 he: 最高 (4000) h : 高 (2000) n : 標準 (1000) l : 低 (500) le : 最低 (250) 1-99999 : 手動 (例: share=h, share=30)</p> <p>reservation : CPU の予約値 (MHz) を指定します。 value に、0以上99999以下を指定します。 (例: reservation=1000) 省略時はreservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : CPU の制限値 (MHz) を指定します。</p>

	<p><i>value</i> に、0以上999999以下を指定します。 (例: limit=1500) 省略時はlimit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
<pre>[-mem size=<i>value</i> [share=<i>value</i>] [reservation=<i>value</i>] [limit=<i>value</i>]]</pre>	<p>メモリサイズとシェア値、予約値、および制限値を指定します。 "=" の前後に空白は指定できません。</p> <p>size : メモリのサイズ (MB) を指定します。 <i>value</i> に、1 (MB) 以上9999999 (MB) 以下。 を指定します (例: size=512)</p> <p>share : メモリのシェア値を指定します。 メモリシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り VMware 設定値 * メモリサイズ / 100 Hyper-V 設定値 * 5 Xen 設定不可 KVM 設定不可 <i>value</i> に、以下の値を指定します。 省略時は share=n が設定されます。 h : 高 (2000) n : 標準 (1000) l : 低 (500) 0-10000 : 手動 (例: share=h, share=30)</p> <p>reservation : メモリの予約値 (MB)を指定します。 <i>value</i> に、0以上999999以下を指定します。 (例: reservation=2048) 省略時はreservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : メモリの制限値 (MB) を指定します。 <i>value</i> に、0以上999999以下を指定します。 (例: limit=4096) 省略時はlimit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
<pre>[-vnet <i>VirtualNetworkName</i>...]</pre>	<p>仮想ネットワークを指定します。 最大10 (NIC#1からNIC#10まで) 指定できます。 (空白区切りで指定します。) 記述順に、NIC#1から順に割り当てます。</p> <p>DPMの固有情報反映を利用し、設定可能なNIC数の上限は対象OS がWindows Vista 以降の場合 "8"、Windows 2000、Windows Server 2003、Windows XP の場合 "4" です。</p>
<pre>[-vnettype &lt;vlan   network   edit&gt;...]</pre>	<p>ネットワークタイプを指定します。 設定するネットワーク数分指定してください。 記述順にNIC#1から順に割り当てます。 VLAN名を指定する場合は、"vlan" 論理ネットワーク名を指定する場合は、"network" 任意のネットワーク名を指定する場合は、"edit" 省略した場合は、VLAN、あるいは任意の指定となります。</p>
<pre>[-systemdisk [size=<i>value</i>] [type=&lt;thin   thick&gt;] [independent] [datastoretag=<i>value</i>   <i>datastore</i>] [file=<i>value</i>]]</pre>	<p>システムディスク情報の設定をします。</p> <p>size : システムディスクのサイズ (MB) を指定します。</p> <p>type : ディスクのタイプを指定します。</p>



	<p>thin / thick のどちらかを指定します。 省略可能です。省略時は thick が設定されます。</p> <p>independent : "independent" と指定することで、 ディスクの独立型モードが設定されます。 VMware環境で有効です。</p> <p>datastore : システムディスクの位置を指定します。 datastoretag : データストアのタグを指定します。 "datastore" か "datastoretag" のどちらかを指定しま す。 省略可能です。</p> <p>file : 既存のファイルパスを指定します。 省略可能です。</p>
<pre>[-extdisk [size=value] [ctrl=value [position=value]] [type=&lt;thin   thick   rdm-p   rdm-v&gt;] [independent] [datastoretag=value   datastore] [lun] [file=value], ...]</pre>	<p>拡張ディスク情報の設定をします。(複数指定可) 複数指定するときは、"," (カンマ) で区切って 次のディスク情報を指定してください。(6個まで)</p> <p>size : ディスクのサイズを指定します。 value に、10 (MB) 以上99999999 (MB) 以下を指定 します。 ディスクのタイプがrdm-p / rdm-vいずれかの場合は、1 (GB) 以上10000000 (GB) 以下でLUNサイズ範囲 (既定 値10) の倍数を指定します。</p> <p>ctrl : 拡張ディスクを付けるコントローラ value に以下を指定します。 PCIx IDEx SCSIx AutoDetect (自動選択)</p> <p>xはバス番号</p> <p>position : 拡張ディスクを付ける位置 value に以下の値が指定できます。 PCIの場合 0~31 IDEの場合 0~1 SCSIの場合 0~63</p> <p>ctrl=AutoDetect時は指定できません。</p> <p>拡張ディスクを付けるコントローラ、位置は 仮想基盤によって指定できる値が異なります。 指定可能な値は、「3.2.1. 仮想マシンの構成変更」の【各仮 想基盤で対応するコントローラ、位置】を参照してください。</p> <p>type : ディスクのタイプを指定します。 thin / thick / rdm-p / rdm-v のいずれかを指定しま す。 省略可能です。省略時はthickが設定されます。 rdm-p: RDM (物理) rdm-v: RDM (仮想)</p> <p>independent : "independent" と指定することで、 ディスクの独立型モードが設定されます。 VMware環境で有効です。 ディスクタイプにRDM (物理) 指定時は "independent" は指定できません。</p> <p>*type=thick / thinの場合</p>

	<p>datastoretag : データストアのタグを指定します。 datastore: 拡張ディスクの位置を指定します。 "datastore" か "datastoretag" のどちらかを指定します。 省略可能です。省略時は、システムディスクと同じ位置に作成されます。</p> <p>*type=rdm-p / rdm-vの場合 lun : ターゲットLUN (タグ) を指定します。</p> <p>file : 既存のファイルパスを指定します。 省略可能です。</p>
<pre>[-delete [cost   cpu   mem   vnet   systemdisk   extdisk]]</pre>	<p>設定情報を消去します。 オプション名を指定する場合、オプション名の設定情報を消去します。 その他のオプションとは分けて実行してください。 オプション名を指定しない場合は、すべての設定情報を消去します。</p>

#### [注]

- -cpuオプション、-memオプション、-systemdiskオプション、-extdiskオプション指定時、オプションの設定内容をすべて設定して下さい。

#### [構文例]

```
>ssc set profile Group1 middle
>ssc set profile Group1 -cost 100
>ssc set profile Group1 -cpu count=2 share=h
>ssc set profile Group1/model -cpu count=2 share=600 -mem size=1024
>ssc set profile Group1/model -vnet "VM Network"
>ssc set profile Group1/host1 -systemdisk type=thin Storage1
>ssc set profile Group1/host1 -extdisk size=2048
>ssc set profile Group1 -systemdisk type=thick independent tag1
>ssc set profile Group1 -extdisk size=100 ctrl=SCSI0 position=0
type=rdm-p LUN1, size=100 ctrl=AutoDetect type=rdm-v independent LUN2
>ssc set profile Group1 -delete
>ssc set profile operations:/Group1/model -delete cpu
```

## 2.8.5. ホストプロファイルの設定

ホストプロファイルを設定します。

#### [構文]

```
ssc set hostprofile Path <ProfileName | [-os [osname=<name | code>]
[password=value] [SysprepFile=value] [owner=value] [orgname=value]
[timezone=value] [productkey=value] [ConnectedNumber=value] [DomainType=
<workgroup | domain>] [DomainName=value] [DomainAccount=value]
[DomainPassword=value]] [-dns NICNo,
<Primary, Secondary, PrimaryWINS, SecondaryWINS | Primary, Secondary, Tertiary> ...]
[-extend Command=value] | -delete [os | dns | extend]> [-dns4 NICNo, <Primary |
Primary, Secondary | Primary, Secondary, Tertiary> ...] [-dns6 NICNo, <Primary |
Primary, Secondary | Primary, Secondary, Tertiary> ...] [-wins4 NICNo, <Primary |
Primary, Secondary> ...]
```

#### [引数/オプション]

<p>Path (必須)</p>	<p>設定対象運用グループ、モデル、ホストまでのフルパスを指定します。 ビュータイプ (operations:/) を省略可能です。</p>
----------------------	--

	<p>テナント、カテゴリは指定できません。</p> <p>例:  グループ指定の場合  Category/Group  ホスト指定の場合  Category/Group/Host  ホスト指定の場合 (ビュータイプ指定時)  operations:/Category/Group/Host</p>
<i>ProfileName</i> (必須)	<p>公開されたプロファイル名を指定します。</p>
<pre>[-os [osname &lt;name   code&gt;] [password= value] [SysprepFile= value] [owner= value] [orgname= value] [timezone= value] [productkey= value] [ConnectedNumber= value] [DomainType= &lt;workgroup   domain&gt;] [DomainName= value] [DomainAccount= value] [DomainPassword= value]]</pre>	<p>OS情報を指定します。  "=" の前後に空白は指定できません。</p> <p>osname : OS名  OS名のコード、またはWebUIで表示されている文字列を指定します。  「3.2.6. テンプレートの作成」の【参考資料】を参照してください。  解除する場合は、"0" を指定してください。</p> <p>password : パスワード  SysprepFile : インポートするSysprepファイル  OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。</p> <p>owner : Owner名  OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。</p> <p>orgname : 組織名  OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。</p> <p>timezone : タイムゾーン  OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。  タイムゾーンのコード、またはWebUIで表示されている文字列を指定します。  「3.2.6. テンプレートの作成」の【参考資料】を参照してください。  値は Microsoft Time Zone Index Values で既定されたものと同じです。</p> <p>productkey : プロダクトキー  OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。  「xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx」の形式で入力してください。</p> <p>ConnectedNumber : 同時接続サーバ数  OS種別がWindows Serverの場合のみ指定できます。  指定しない場合は、ライセンスモードが「接続クライアント」になります。</p> <p>DomainType : ワークグループ設定  ワークグループの場合workgroup、ドメインの場合domainと指定します。  OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。</p> <p>DomainName : ドメイン (ワークグループ) 名  DomainAccount : ドメインアカウント  OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。</p> <p>DomainPassword : ドメインパスワード</p>

	OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。
<code>[-dns NICNo, &lt;Primary,Secondary, PrimaryWINS,SecondaryWINS   Primary,Secondary,Tertiary&gt; ...]</code>	DNS情報を指定します。  NICNo : NIC番号を指定します。 Primary : 優先 (プライマリ) DNS Secondary : 代替 (セカンダリ) DNS Tertiary : ターシャリDNS OS種別がLinuxの場合のみ指定できます。 PrimaryWINS : 優先 (プライマリ) WINS OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。 SecondaryWINS : 代替 (セカンダリ) WINS OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。 [-dns4]、[-dns6]、および [-wins4] と同時に指定できません。
<code>[-extend Command=value]</code>	拡張情報の設定をします。 "=" の前後に空白は指定できません。 Command : 追加するコマンドを指定します。 複数指定時は、"," で区切ってください。
<code>-delete [os   dns   extend]</code>	設定情報を消去します。 オプション名を指定する場合、オプション名の設定情報を消去します。 その他のオプションとは分けて実行してください。 オプション名を指定しない場合は、すべての設定情報を消去します。 OS情報のみを消去することはできません。
<code>[-dns4 NICNo, &lt;Primary   Primary,Secondary   Primary,Secondary,Tertiary&gt; ...]</code>	DNS情報 (IPv4) を指定します。  NICNo : NIC番号を指定します。 Primary : 優先 (プライマリ) DNS Secondary : 代替 (セカンダリ) DNS Tertiary : ターシャリDNS OS種別がLinuxの場合のみ指定できます。 [-dns] と同時に指定できません。
<code>[-dns6 NICNo, &lt;Primary   Primary,Secondary   Primary,Secondary,Tertiary&gt; ...]</code>	DNS情報 (IPv6) を指定します。  NICNo : NIC番号を指定します。 Primary : 優先 (プライマリ) DNS Secondary : 代替 (セカンダリ) DNS Tertiary : ターシャリDNS OS種別がLinuxの場合のみ指定できます。 [-dns] と同時に指定できません。
<code>[-wins4 NICNo, &lt;Primary   Primary,Secondary&gt; ...]</code>	WINS情報 (IPv4) を指定します。 OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。  NICNo : NIC番号を指定します。 Primary : 優先 (プライマリ) WINS Secondary : 代替 (セカンダリ) WINS [-dns] と同時に指定できません。

#### [注]

- -osオプション指定時、オプションの設定内容をすべて設定して下さい。

#### [構文例]

```
Public Profile
>ssc set hostprofile category1/wingroup1 PublicHostProfile
Windows OS
>ssc set hostprofile category1/wingroup1 -os osname=11
password="pass" owner="ABC Corporation" orgname="1st section"
```

```

timezone=235 productkey=12345-67890-ABCD1-EFG21-HI123
DomainType=workgroup DomainName="WorkGroup"
-dns 1,192.168.1.1,192.168.1.2 2,10.108.110.1,10.108.110.2,10.108.110.3
>ssc set hostprofile category1/wingroup1 -os osname="Windows Server 2008
Enterprise (x64)" password="pass"
owner="ABC Corporation" orgname="1st section" timezone=235
productkey=12345-67890-ABCD1-EFG21-HI123 ConnectedNumber=10
DomainType=domain DomainName="Domain1" DomainAccount="admin"
DomainPassword=adminpass -dns 1,192.168.1.1,192.168.1.2
2,10.108.110.1,10.108.110.2,10.108.110.3
>ssc set hostprofile category1/wingroup1 -os osname="Windows Server 2008
Enterprise (x64)" password="pass"
owner="ABC Corporation" orgname="1st section" timezone=235
productkey=12345-67890-ABCD1-EFG21-HI123 ConnectedNumber=10
DomainType=domain DomainName="Domain1" DomainAccount="admin"
DomainPassword=adminpass -dns4 1,192.168.1.100,192.168.1.101
-dns6 1,::192.168.1.150 3,::192.168.1.152 -wins4 1,192.168.1.200 2,192.168.1.201
Linux OS
>ssc set hostprofile category1/linuxgroup1 -os
osname="SUSE Linux Enterprise Server 9"
password="pass" DomainName="Domain1"
-dns 1,192.168.1.1,192.168.1.2,192.168.1.3
>ssc set hostprofile category1/linuxgroup1 -os
osname="SUSE Linux Enterprise Server 9"
password="pass" DomainName="Domain1"
-dns4 1,192.168.1.100,192.168.1.101,192.168.1.102
-dns6 1,::192.168.1.150,::192.168.1.151
-extend
>ssc set hostprofile category1/wingroup1 -extend Command=startcmd1,startcmd2
-delete
>ssc set hostprofile -delete os dns
>ssc set hostprofile -delete

```

## 2.8.6. マシン置換

指定したマシンを置換します。

### [構文]

```

ssc replace machine GroupName HostName [ -pool MachineName | -shared
MachineName ]

```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	グループ、またはモデルをフルパスで指定します。
<i>HostName</i> (必須)	置換元マシンが稼動しているホスト名を指定します。
[-pool <i>MachineName</i> ]	指定グループのプールマシンを置換先マシンとして指定します。 -sharedと同時に指定することはできません。
[-shared <i>MachineName</i> ]	共通プールのマシンを置換先マシンとして指定します。 -poolと同時に指定することはできません。

### [注]

- ユニット名の設定を行った場合、*MachineName* には、ユニット名を指定してください。

## [構文例]

```
置換先マシンを指定しない場合
>ssc replace machine Category1/Group1 Host01
>ssc replace machine Category1/Group1/Model1 Host01
グループプールマシンを置換先マシンとして指定する場合
>ssc replace machine Category1/Group1 Host01 -pool PoolMachine1
>ssc replace machine Category1/Group1/Model1 Host01 -pool PoolMachine1
共通プールマシンを置換先マシンとして指定する場合
>ssc replace machine Category1/Group1 Host01 -shared SharedMachine1
>ssc replace machine Category1/Group1/Model1 Host01 -shared SharedMachine1
```

## 2.8.7. スケールイン

スケールインを行います。

### [構文]

```
ssc scalein GroupName
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	スケールインを行うグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。 テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ、グループ)
--------------------------	--

### [構文例]

```
>ssc scalein category1/wingroup1
>ssc scalein tenant1/vmgroup1
>ssc scalein vmsgroup1
```

## 2.8.8. スケールアウト

スケールアウトを行います。

### [構文]

```
ssc scaleout GroupName
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	スケールアウトを行うグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。 テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント、カテゴリ/グループ、グループ)
--------------------------	---

### [構文例]

```
>ssc scaleout category1/wingroup1
>ssc scaleout tenant1/vmgroup1
>ssc scaleout vmsgroup1
```

## 2.8.9. 指定したグループの階層をDPMに反映

指定したグループの階層をDPMに反映します。

## [構文]

```
ssc dpm-location notify <Path | -all>
```

## [引数/オプション]

<i>Path</i>	DPMに階層を反映するテナント/カテゴリ/グループをフルパスで指定します。
-all	すべてのテナント/カテゴリ/グループの階層を反映させる場合に指定します。

## [注]

*Path* または -all どちらか片方を指定する必要があります。

## [構文例]

```
>ssc dpm-location notify category1/group1  
>ssc dpm-location notify -all
```

## 2.9. ホスト

### 2.9.1. ホストの作成

グループにホストを作成します。

#### [構文]

```
ssc create host GroupName HostName [IPAddress SubNetMask [DefaultGateway]  
[-monitor]] [-hc HostCount] [-product ProductKey] [-p Password]
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	ホストを作成するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	グループに作成するホスト名を指定します。 入力できる文字数は63文字以内です。 ただし、数字のみで構成されたホスト名、あるいはホスト名の語尾に入力できる数字の文字数は、9文字 (9桁) 以内です。
[ <i>IPAddress</i> ]	作成するホストに設定するIPアドレスを指定します。 NIC#1に設定されます。 <i>HostCount</i> が2以上の場合は、指定したIPアドレスから順に+1します。 <i>SubNetMask</i> 、 <i>DefaultGateway</i> 、[-monitor] を指定した場合、省略することはできません。
[ <i>SubNetMask</i> ]	作成するホストのIPアドレスのサブネットマスクを指定します。 <i>IPAddress</i> を指定する必要があります。 <i>IPAddress(IPv4)</i> を指定した場合は、省略することはできません。
[ <i>DefaultGateway</i> ]	デフォルトゲートウェイを指定します。 <i>IPAddress</i> を指定する必要があります。
[-monitor]	指定すると、 <i>IPAddress</i> を管理用IPアドレスとして設定します。 <i>IPAddress</i> を指定する必要があります。
[-hc <i>HostCount</i> ]	グループに作成するホスト数を指定します。 2以上を指定すると、 <i>HostName</i> に1から順に通し番号を付加します。 <i>IPAddress</i> を指定した場合、IPアドレスが割り当てられる範囲内で指定してください。
[-product <i>ProductKey</i> ]	プロダクトキーを指定します。 グループのOS種別が以下の場合、指定できます。 Windows Client / Windows Server for IPF / Windows Server
[-p <i>Password</i> ]	Administratorのパスワードを指定します。 ホストに設定されている管理者パスワードを使用する場合に指定してください。 省略すると、グループに設定されているパスワードを使用します。

#### [構文例]

```
>ssc create host Category1/Group01 HOST-001  
>ssc create host Group-A001 Host-A001 192.168.10.100 255.255.255.0 -hc 50  
>ssc create host Group-B001 Host-B001 192.168.20.200 255.255.255.0 192.168.20.1  
-monitor  
>ssc create host Group-C001 Host-C001 -product xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx  
>ssc create host Group-D001 Host-D001 -p xxxxxxxx
```



## 2.9.2. ホストの更新

ホストの設定内容を編集、または更新します。

### [構文]

```
ssc update host GroupName HostName [-name NewHostName] [-product ProductKey]
[-tag TagName] [-change group DestinationGroupName] [-p [Password]]
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	編集、更新するホストが存在するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	編集、更新するホスト名を指定します
[-name <i>NewHostName</i> ]	<i>HostName</i> の設定内容を <i>NewHostName</i> に更新します。
[-product <i>ProductKey</i> ]	プロダクトキーを更新します。 グループのOS種別が以下の場合に更新ができます。 Windows Client Windows Server
[-tag <i>TagName</i> ]	タグを更新します。
[-change group <i>DestinationGroupName</i> ]	グループ間移動 (仮想マシンメンテナンス) を行います。 このオプションは、仮想マシンのみ指定できます。 <i>HostName</i> の移動先グループを指定します。 グループで稼働している仮想マシンのホストを別のグループに 移動させるために、ホストの設定内容を更新します。 モデルまでのパスを指定します。 ホストは稼働状態 (リソース割り当て済み) である必要があります。 他のオプションと同時に指定はできません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ/モデル、グループ/モデル)
[-p <i>Password</i> ]	ホストに設定されている管理者パスワードを使用する場合の パスワードを指定します。-pのみを指定した場合、グループ に 設定されたパスワードを使用するように変更されます。 -pオプションは単独で指定してください。

-name、-product、-tag、-p、-change groupのうち、いずれか1つは必ず指定する必要があります。

### [注]

- ホストのグループ間移動 (-change group) を行うには、以下の条件を満たしている必要があります。コマンド実行前に、移動元と移動先のグループ、モデル設定を確認してください。
  - 変更元、変更先グループのモデル種別がVM
  - 変更元、変更先グループのOS種別、および仮想ネットワークの設定が同じ
  - 移動対象と同じ名前のホストが、変更先のグループに存在しない
  - 移動対象と同じ仮想マシンが、変更先の同じモデルグループのプールに存在しない
- データベースに対する操作のみで、ホストのグループ間移動を行いますので、ストレージ、ロードバランサ、ネットワーク、電源制御、DPM上のグループ移動は行いません。

## [構文例]

```
>ssc update host Category1/Group-01 Host-001 -name Host-A01
>ssc update host Category1/Group-01 Host-002
-product xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx
>ssc update host Category1/Group-01 Host-003 -tag tag001
>ssc update host Category1/Group-01 Host-003 -p xxxxxx
>ssc update host Category1/Group-01 Host-003
-changegroup Category1/Group-02/Mode-0201
```

## 2.9.3. ホスト定義の表示

ホスト定義の設定内容を表示します。

### [構文]

```
ssc show host <GroupName [HostName...] | SmartGroupName> [-vertical]
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i>	ホスト定義を表示するグループを指定します。 テナント、カテゴリやグループまでのパスを指定します。モデルは指定できません。 (例: テナント、カテゴリ、カテゴリ/グループ)
[ <i>HostName...</i> ]	対象となるホスト名を指定します。
<i>SmartGroupName</i>	指定したスマートグループの条件に合致するホスト定義の情報を表示します。 グループのパスは、存在するパスを指定します。  [運用] ビューのスマートグループが指定可能です。  (設定例) category1/group11/smartgroup101 : [運用] ビューの category1配下のgroup11直下の smartgroup101 を指定します。 smartgroup102 : [運用] ビュー のルートノード直下の smartgroup102 を指定します。
[-vertical]	表示形式を指定します。 省略した場合、CSV形式で表示します。

### [構文例]

```
>ssc show host Category1/Group01 HOST-01
>ssc show host Group-A001
>ssc show host Group-B001 -vertical
>ssc show host category1/group11/smartgroup101
```

## 2.9.4. ホストの依存関係の削除

ホストの依存関係を削除します。

### [構文]

```
ssc dependency delete SourceName DestinationName
```

### [引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	依存元 (依存する側) のホストの名前を指定します。
---------------------------	----------------------------

<i>DestinationName</i> (必須)	依存先 (依存される側) のホストの名前を指定します。
--------------------------------	-----------------------------

**[構文例]**

```
>ssc dependency delete group/host1 group/host2
```

## 2.9.5. ホストの依存関係の設定

ホストの依存関係を設定します。

**[構文]**

```
ssc dependency set SourceName DestinationName
```

**[引数/オプション]**

<i>SourceName</i> (必須)	依存元 (依存する側) のホストの名前を指定します。
<i>DestinationName</i> (必須)	依存先 (依存される側) のホストの名前を指定します。

**[構文例]**

```
>ssc dependency set group/host1 group/host2
```

## 2.9.6. ホストの依存関係の表示

ホストの依存関係を表示します。

**[構文]**

```
ssc dependency show
```

**[引数/オプション]**

なし

**[構文例]**

```
>ssc dependency show
```

**[表示例]**

```
>ssc dependency show
SourceHost, DestinationHost
group/host1, group/host2
group/host3, group/host4
```

## 2.10. IP アドレス

### 2.10.1. IP アドレス情報の追加

グループのホストにIP アドレス（ネットワーク）を追加します。

#### 【構文】

```
ssc add ipaddress GroupName HostName NicNumber IPAddress SubNetMask  
[DefaultGateway] [-monitor] [-hc HostCount]
```

#### 【引数/オプション】

<i>GroupName</i> (必須)	IPアドレス情報を追加するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	IPアドレスを追加するホスト名を指定します。 -hcに2以上を指定した場合、 <i>HostName</i> は、末尾が数字でなければなりません。
<i>NicNumber</i> (必須)	対象となるNIC番号を指定します。
<i>IPAddress</i> (必須)	IPアドレスを指定します。 IPアドレスは、指定した <i>IPAddress</i> を基準にホスト数分+1します。 <i>SubNetMask</i> 、[ <i>DefaultGateway</i> ]、[-monitor] を指定した場合、省略することはできません。
<i>SubNetMask</i> (必須)	サブネットマスクを指定します。 <i>IPAddress</i> を指定する必要があります。
[ <i>DefaultGateway</i> ]	デフォルトゲートウェイを指定します。 <i>IPAddress</i> を指定する必要があります。
[-monitor]	指定すると、 <i>IPAddress</i> を管理用IPアドレスとして設定します。 <i>IPAddress</i> を指定する必要があります。
[-hc <i>HostCount</i> ]	IPアドレスを設定するホスト数を指定します。 2以上を指定すると、 <i>HostName</i> の末尾の数字を基準に通し番号を付加した名前のホストに追加します。 <i>IPAddress</i> を指定した場合、IPアドレスが割り当てられる範囲内で指定してください。

#### 【構文例】

```
>ssc add ipaddress Category1/Group01 HOST-01 1 192.168.100.100 255.255.255.0  
>ssc add ipaddress Group-A001 Host-A001 2 192.168.1.100 255.255.255.0 -hc 50  
>ssc add ipaddress Group-A001 Host-A001 2 192.168.2.100 255.255.255.0 192.168.1.1  
-monitor
```

## 2.11. ソフトウェア

### 2.11.1. ソフトウェアの追加

グループ（グループ / モデル）、ホスト、マシンにソフトウェアを追加します。  
ソフトウェアを配布ポイントに追加します。

#### [構文]

```
ssc add software Path [-host HostName] -soft SoftwareName -point PointNumber
```

#### [引数/オプション]

<p><i>Path</i> (必須)</p>	<p>ソフトウェアを追加する運用グループ、モデル、または [リソース]ビューのマシンまでのパスを指定します。 (設定例) 運用グループ、モデルの場合(ビュータイプは operations:) operations:/category1/group11/smartgroup101 [運用] ビューの category1配下の group11直下の smartgroup101 リソースグループの場合(ビュータイプは resource:) resource:/rack/machineA [リソース] ビューのルート</p> <p>ビュータイプ省略時、operations: となります。 -hostを指定した場合、運用グループ名までのパスを指定してください。</p>
<p>[-host <i>HostName</i>]</p>	<p>ホスト名を指定します。 指定したホストにソフトウェアを追加します。 <i>Path</i>に運用グループを指定した場合に有効です。</p>
<p>-soft <i>SoftwareName</i> (必須)</p>	<p>追加するソフトウェアを指定します。</p>
<p>-point <i>PointNumber</i> (必須)</p>	<p>追加するソフトウェアの配布ポイントを指定します。</p> <p>グループ / モデルを指定した場合、以下の配布ポイントを指定できます。 <i>PointNumber</i>: 配布ポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1: マシン稼動時に配布</li> <li>2: マシン待機時に配布</li> <li>3: 待機時・シャットダウン後</li> <li>4: マシン置換時に配布</li> <li>5: リソース割り当て時</li> <li>6: バックアップ実行時</li> <li>7: リストア実行時</li> <li>8: 論理マシン構築時</li> <li>9: 論理マシン解体時</li> </ol> <p>ホストを指定した場合、以下の配布ポイントを指定できます。 <i>PointNumber</i>: 配布ポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1: 稼動時・グループ配布前</li> <li>2: 稼動時・配布</li> <li>3: 稼動時・グループ配布後</li> <li>4: 待機時・グループ配布前</li> <li>5: 待機時・配布</li> <li>6: 待機時・グループ配布後</li> <li>7: 待機時・シャットダウン後</li> <li>8: マシン置換時に配布</li> <li>9: リソース割り当て時</li> <li>10: バックアップ実行時</li> <li>11: リストア実行時</li> </ol>

- 12: 論理マシン構築時
- 13: 論理マシン解体時

マシンを指定した場合、以下の配布ポイントを指定できます。

*PointNumber*: 配布ポイント

- 1: 稼働時・グループ配布前
- 2: 稼働時・グループ配布後
- 3: 待機時・グループ配布前
- 4: 待機時・グループ配布後
- 5: 待機時・シャットダウン後
- 6: レプリカ作成時
- 7: バックアップ実行時
- 8: リストア実行時

### 【構文例】

```
>ssc add software operations:/Category1/Group01 -soft Soft-001 -point 1
>ssc add software operations:/Category1/Group01/Model001 -soft Soft-002 -point 2
>ssc add software operations:/Group-A001 -host Host01 -soft Soft-001 -point 1
>ssc add software resource:/SmartGroup01/Machine-A -soft Soft-001 -point 5
```

## 2.11.2. ソフトウェアの配信

指定マシンに対してソフトウェア配信を行います。

### 【構文】

```
ssc deploy software < GroupName [HostName[...]] | < -name MachineName[...] |
-path path[...] | -uuid UUID[...] | -mac MAC[...] > > [-s SoftwareName[...]]
[-force] [-seq]
```

### 【引数/オプション】

<i>GroupName</i>	対象グループを指定します。 グループ、またはモデルのパスを指定します。テナント、カテゴリは指定できません。 <i>HostName</i> を指定する場合は、グループを指定してください。
[ <i>HostName</i> ]	対象マシンが稼働しているホスト名を指定します。 指定したグループに存在しているホストのみ複数指定できます。 省略時、グループで稼働するすべてのマシンを対象とします。
-name <i>MachineName</i>   -path <i>Path</i>   -uuid <i>UUID</i>   -mac <i>MAC</i>	配信する対象を指定します。 -name, -path, -uuid, -macはいずれか1つを指定する必要があります。 指定する対象は複数指定が可能です。 -name : マシンの名称で指定します。 -path : 対象までのパスを指定します。 ・各ビューのマシンまでのパス ・[リソース] ビューでのグループ、またはラックのパス ・[運用] ビューでのグループのパス -uuid : マシンのUUIDで指定します。 -mac : マシンのプライマリMACアドレスで指定します。 -path指定時、ビューを指定しない場合、[リソース] ビューの指定となります。
[-s <i>SoftwareName</i> ]	配信するソフトウェアを指定します。 グループに登録していないソフトウェアでも指定可能です。 ソフトウェアの指定には、Webコンソールの[リソース] ビューの [ソフトウェア] アイコンで表示されるソフトウェア名を" "で囲んで入力してください。 複数のソフトウェアを指定する場合には、間に スペースを挿入して指定します。 グループに登録されたソフトウェアの配布状況に関わらず、指定したソフトウェアのみ配布します。 -name -path -uuid -mac 指定時は必須です。

[-force]	グループに登録されたソフトウェアを、強制再配布 (既に配布済みのソフトウェアも配布) します。 [HostName] と同時に指定することはできません。 ※SoftwareNameを指定しない時に有効です。
[-seq]	シーケンシャル (1台ずつ順番) 配布します。省略時は一斉配布します。

## [構文例]

```

[運用] ビューのグループ全体に対してソフトウェア配信
>ssc deploy software Category1/Group1
>ssc deploy software Category1/Group1 -s "Software [1]" "Patch-1"
>ssc deploy software Category1/Group1 -force
[運用] ビューの指定ホストに対してソフトウェア配信
>ssc deploy software Category1/Group1 Host01
>ssc deploy software Category1/Group1 Host01 Host02 Host03
>ssc deploy software Category1/Group1 Host01 Host02 Host03
-s "Software [1]" "Patch-1"
[リソース] ビューのグループ全体に対してソフトウェア配信
>ssc deploy software -path resource:/VMGroup -s "Software [1]" "Patch-1" -seq
指定マシンに対してソフトウェア配信 (マシン名指定)
>ssc deploy software -name machine1 machine2 -s "Software [1]" "Patch-1"
指定マシンに対してソフトウェア配信 (UUID指定)
>ssc deploy software -uuid 00B9771D-29BB-DB11-8001-003013B8F50D
-s "Software [1]" "Patch-1"
指定マシンに対してソフトウェア配信 (MACアドレス指定)
>ssc deploy software -mac 00:31:13:B8:F6:1D -s "Software [1]" "Patch-1"

```

## 2.12. ストレージ

### 2.12.1. ストレージの追加

グループ、モデル、ホストにストレージを追加します。  
ディスクアレイのディスクボリュームをホストに追加します。

#### [構文]

```
ssc add storage GroupName [HostName] DiskArrayName DiskVolumeName  
[-hbanum HBANumber] [-lun LUNNumber] [-after]  
[<-hostip ExportIPAddress | -nicno NicNumber>]
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	ストレージを追加するグループかモデル、もしくはホストが存在するグループを指定します。 グループ、モデルまでのパスを指定します。テナント、カテゴリは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ、カテゴリ/グループ/モデル)
[ <i>HostName</i> ]	ストレージを追加するホスト名を指定します。
<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
<i>DiskVolumeName</i> (必須)	ディスクボリューム名を指定します。 NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、大文字と小文字を区別します。
[-hbanum <i>HBANumber</i> ]	接続するHBA番号を指定します。 1から9999までの範囲で指定できます。 省略すると、すべてのHBA番号に接続します。 NetAppストレージの場合は、無効です。
[-lun <i>LUNNumber</i> ]	LUN番号を設定します。 0以上の番号を指定できます。 EMC Symmetrix のディスクボリュームを指定した場合、指定できません。 NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、無効です。
[-after]	ソフトウェア配布後にストレージへ接続します。 省略すると、配布前に接続します。
[-hostip <i>ExportIPAddress</i> ]	接続するIPアドレスを指定します。 ホスト定義に設定したIPアドレスが指定可能です。 DHCPを利用する場合は、省略してください。その場合、ホスト名が利用されます。 NetAppストレージの場合かつホストに追加する場合のみ、指定可能です。
[-nicno <i>NicNumber</i> ]	接続するIPアドレスを持つNICの番号を指定します。 「1/2」のように半角スラッシュ区切りで数値を入力することで、NICに割り当てている2つ目以降のIPアドレスを指定できます。 DHCPを利用する場合は省略してください。 その場合、指定したグループ、モデルで稼動するホストのホスト名が利用されます。 NetAppストレージの場合かつグループかモデルに追加する場合のみ、指定可能です。

#### [注]

- NetAppストレージの接続設定を行う場合、SigmaSystemCenter 3.0 update 1 までは、ソフトウェア配布後にストレージへ接続する設定のみが可能でしたが、SigmaSystemCenter 3.1 において、他のストレージ製品と同様にソフトウェア配布前にストレージへ接続する設定が可能となりました。  
[-after] オプションの指定有無で、ソフトウェア配布前、配布後のストレージ接続設定が可



能です。

### [設定対象の決定方法]

本コマンドでは運用グループ、モデル、ホストを対象にストレージ設定を追加します。設定対象はGroupNameとHostNameの指定方法で以下のように決定します。

設定対象	GroupNameに指定する値	HostNameに指定する値
運用グループ	グループ名	省略する
モデル	モデル名	省略する
ホスト	ホストの所属するグループ名	ホスト名

### [構文例]

```
>ssc add storage Category1/Group01 HOST-01 DiskArray-001 Volume-001 -hbanum 1  
-lun 5 -after  
>ssc add storage Group-A001 Host-A001 DiskArray-001 Volume-002  
>ssc add storage Category1/ESX esx200 DiskArray-002 Volume-001  
-hostip 10.34.11.4
```

## 2.12.2. ディスクアレイのパスを表示

ディスクアレイのパスを表示します。

### [構文]

```
ssc show diskarraypath DiskArrayName [-serialno SerialNumber]
```

### [引数 / オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
[-serialno <i>SerialNumber</i> ]	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。

### [構文例]

```
>ssc show diskarraypath s1400
```

## 2.12.3. HBAの設定

HBAをディスクアレイに関連付けます。

### [構文]

```
ssc set hba DiskArrayName DiskArrayPath WWPN [-wwnn WWNN] [-serialno  
SerialNumber]
```

### [引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイの名前を指定します。
<i>DiskArrayPath</i> (必須)	ディスクアレイのパスを指定します。
<i>WWPN</i> (必須)	WWPNを指定します。

<code>[-wwnn <i>WWNN</i>]</code>	WWNNを指定します。 ディスクアレイの種別がCLARiXの場合は必須です。
<code>[-serialno <i>SerialNumber</i>]</code>	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。

#### [構文例]

```
>ssc set hba ck1000 "SG20(SP A/10.15.22.176/0)" 1000-0000-C96F-E240
```

#### [注]

- ディスクアレイの種別がCLARiXとSymmetrixのみ使用できます。
- WWPN、およびWWNNに含まれるアルファベットは必ず大文字で指定して下さい。

## 2.12.4. HBAの解除

HBAをディスクアレイから関連解除します。

#### [構文]

```
ssc release hba DiskArrayName DiskArrayPath WWPN [-wwnn WWNN] [-serialno  
SerialNumber]
```

#### [引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイの名前を指定します。
<i>DiskArrayPath</i> (必須)	ディスクアレイのパスを指定します。
<i>WWPN</i> (必須)	WWPNを指定します。
<code>[-wwnn <i>WWNN</i>]</code>	WWNNを指定します。 ディスクアレイの種別がCLARiXの場合必須です。
<code>[-serialno <i>SerialNumber</i>]</code>	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。

#### [構文例]

```
>ssc release hba CK100000 "SG20(SP A/10.15.22.176/0)" 1000-0000-C96F-E240
```

#### [注]

- ディスクアレイの種別がCLARiXとSymmetrixのみ使用できます。

## 2.12.5. ディスクボリュームの作成

ディスクボリュームを作成します。

#### [構文]

```
ssc create diskvolume DiskArrayName PoolId [-num DiskVolumeNumber]  
-capacity Capacity [-name DiskVolumeName] [-type Type]  
[-serialno SerialNumber] [-snapshot SnapshotReserve]
```

## [引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
<i>PoolId</i> (必須)	プールIDを指定します。 NetAppストレージの場合は、UUIDを指定します。
<code>[-num <i>DiskVolumeNumber</i>]</code>	ディスクボリューム番号を指定します。 省略した場合は、自動採番します。 NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、無効です。
<code>-capacity <i>Capacity</i></code> (必須)	容量をGB単位で指定します。 容量にはシステム領域は含まれません。
<code>[-name <i>DiskVolumeName</i>]</code>	ディスクボリュームの名前を指定します。 省略した場合、自動で名前が付与されます。 NetAppストレージの場合は、省略できません。 NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、大文字と小文字を区別します。
<code>[-type <i>Type</i>]</code>	ディスクボリュームの形式を指定します。 以下が指定可能なタイプです。 WN : Windows (MBR) の場合に指定します。 WG : Windows (GPT) の場合に指定します。 LX : Linuxの場合に指定します。 iStorage以外では指定しないでください。 -nameを省略した場合、-typeは指定できません。
<code>[-serialno <i>SerialNumber</i>]</code>	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。
<code>[-snapshot <i>SnapshotReserve</i>]</code>	ディスクボリュームのスナップショットに使用する領域を指定します。 0から100まで指定可能です (単位:パーセンテージ)。 省略した場合、スナップショット領域の設定はストレージ装置の既定値に依存します。 NetAppストレージの場合のみ有効です。

## [注]

- 本コマンドは、ディスクアレイの種別が Symmetrix の場合は、サポートしていません。
- CLARiX/VNX の Virtual Provisioning プールからの作成は、サポートしていません。
- コントロールボリューム (CV) は、サポートしていません (iStorage)。
- RANK によるディスクボリューム作成は、サポートしていません (iStorage)。
- ディスクボリュームの名前を指定して本コマンドを実行し、コマンドが失敗した場合は、既定名で作成されている場合があります。必要に応じてディスクボリュームの名前を更新してください。
- *DiskVolumeName*を指定する場合、使用可能な文字列は各ストレージの仕様を確認してください。
- -typeを省略した場合は下記の通りの動作となります (iStorage)。
  - Sシリーズ、Dシリーズの場合、ディスクボリュームの形式はLXが指定された場合と同様に動作します。
    - 詳細は、「SigmaSystemCenterリファレンスガイド 概要編」の「5.6.4. iStorageの論理ディスクの形式について」を参照してください。
  - Mシリーズの場合、ディスクボリュームの形式は未指定として動作します。
- 階層プールからの作成は、サポートしていません (iStorage)。
- SMI-Sサービスの場合、*PoolId*の大文字と小文字を区別します。

## [構文例]

```
>ssc create diskvolume DiskArray-001 1 -capacity 200
>ssc create diskvolume DiskArray-001 1 -capacity 200 -name Volume-001
>ssc create diskvolume DiskArray-001 1 -capacity 200 -name Volume-001 -type lx
>ssc create diskvolume DiskArray-001 1 -capacity 200 -num 1
>ssc create diskvolume DiskArray-002 5e0a90ca-d9c6-11e0-8c89-005056b50006
  -capacity 5 -name Volume-001 -snapshot 0
```

## 2.12.6. ディスクボリュームの編集

ディスクボリュームを編集します。

### [構文]

```
ssc update diskvolume DiskArrayName  
<-num DiskVolumeNumber | -name DiskVolumeName>  
[-serialno SerialNumber] [-newname NewDiskVolumeName] [-type Type] [-tag  
Tag...]
```

### [引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	対象となるディスクボリュームが存在するディスクアレイ名を指定します。
-num <i>DiskVolumeNumber</i>	対象となるディスクボリューム番号を指定します。 NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、指定できません。
-name <i>DiskVolumeName</i>	対象となるディスクボリューム名を指定します。 NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、大文字小文字を区別します。
[-serialno <i>SerialNumber</i> ]	対象となるディスクボリュームが存在するディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。
[-newname <i>NewDiskVolumeName</i> ]	更新後のディスクボリューム名を指定します。
[-type <i>Type</i> ]	更新後のディスクボリュームの形式を指定します。 以下が指定可能なタイプです。 WN : Windows (MBR) の場合に指定します。 WG : Windows (GPT) の場合に指定します。 LX : Linuxの場合に指定します。 省略された場合は変更しません。ただし、機種によってはLXになるケースがあります。 iStorage以外では指定しないで下さい。
[-tag <i>Tag...</i> ]	タグを指定します。複数指定可能です。

- -newname 、 -type 、 -tagオプションをすべて省略することはできません。

### [注]

- 本コマンドでのボリューム名変更(-newname指定) は、ディスクアレイの種別が Symmetrix、NetApp の場合は、サポートしておりません。
- -typeを省略した場合は下記の通りの動作となります (iStorage)。
  - 変更対象のディスクボリュームに既に形式が設定されている場合
    - 変更しません。
  - 変更対象のディスクボリュームに形式が設定されていない場合
    - Sシリーズ、Dシリーズの場合、ディスクボリュームの形式はLXが指定された場合と同様に動作します。
      - 詳細は、「SigmaSystemCenterリファレンスガイド概要編」の「5.6.4. iStorageの論理ディスクの形式について」を参照してください。
    - Mシリーズの場合、形式指定なしのまま変更しません。
- タグ文字列に空白を含めることはできません。-tagに "" で空白を含むタグ文字列を設定しても、空白を含むタグは登録されません。

## [構文例]

```
>ssc update diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001 -newname Volume-001-newname
>ssc update diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001 -newname Volume-001-newname
>ssc update diskvolume DiskArray-001 -num 1 -newname Volume-001-newname -type lx
>ssc update diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001 -newname Volume-001-newname
```

## 2.12.7. ディスクボリュームの削除

ディスクボリュームを削除します。

### [構文]

```
ssc delete diskvolume DiskArrayName
<-num DiskVolumeNumber | -name DiskVolumeName>
[-serialno SerialNumber]
```

### [引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
-num <i>DiskVolumeNumber</i>	ディスクボリューム番号を指定します。 NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、指定できません。
-name <i>DiskVolumeName</i>	ディスクボリューム名を指定します。 NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、大文字小文字を区別します。
[-serialno <i>SerialNumber</i> ]	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。

### [注]

- 本コマンドは、ディスクアレイの種別が Symmetrix の場合は、サポートしておりません。

### [構文例]

```
>ssc delete diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001
>ssc delete diskvolume DiskArray-001 -num 1
```

## 2.12.8. ディスクボリュームの割当

ディスクボリュームをマシンに接続します。

### [構文]

```
ssc assign diskvolume MachineName DiskArrayName
<-num DiskVolumeNumber... | -name DiskVolumeName...>
[-ostype OperatingSystemType] [-lun LUN]
[-hbanumber HBANumber...] [-serialno SerialNumber]
[-hostip ExportIPAddress]
```

### [引数/オプション]

<i>MachineName</i> (必須)	割り当てを行うマシンのパスを指定します。 例) [運用] ビューの場合: operations:/category/group/host [リソース] ビューの場合: resource:/group/machine
----------------------------	--

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
<code>-num <i>DiskVolumeNumber</i></code>	割り当てを行うディスクボリューム番号を指定します。 複数指定可能です。 NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、指定できません。
<code>-name <i>DiskVolumeName</i></code>	割り当てを行うディスクボリュームの名前を指定します。 複数指定可能です。 NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、大文字小文字を 区別します。
<code>[-ostype <i>OperatingSystemType</i>]</code>	ホストのOSタイプを指定します。 以下が指定可能なタイプです。 WN : Windowsの場合に指定します。 LX : Linuxの場合に指定します。 iStorage以外では指定できません。 マシンがホストで稼働中の場合、省略可能です。
<code>[-lun <i>LUN</i>]</code>	LUN番号を指定します。 省略した場合は、自動採番します。 0 以上が指定可能です。 ディスクボリュームを複数指定する場合、開始番号とします。 NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、無効です。
<code>[-hbanumber <i>HBA</i>Number...]</code>	割り当てを行うマシンの使用するHBA番号を指定します。 0 から 9999までの間で指定可能です。 省略すると、マシンに設定されているすべてのHBAに接続されま す。 NetAppストレージの場合は、無効です。
<code>[-serialno <i>SerialNumber</i>]</code>	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合に シリアル番号を指定します。
<code>[-hostip <i>ExportIP</i>Address]</code>	割り当てを行うマシンのIPアドレスを指定します。 ホスト定義に設定したIPアドレスが指定可能です。 DHCPを利用する場合は、省略してください。その場合、ホスト名が 利用されます。 NetAppストレージの場合のみ、指定可能です。

#### [注]

- 本コマンドは、ディスクアレイの種別が Symmetrix の場合は、サポートしていません。
- ディスクアレイの種別がCLARiX、NetAppストレージの場合、稼働中のマシン以外に実行できません。

#### [構文例]

```
>ssc assign diskvolume machine001 DiskArray-001 -name Volume-001
>ssc assign diskvolume machine001 DiskArray-001 -num 1
>ssc assign diskvolume machine001 DiskArray-001 -name Volume-001 Volume-002
  Volume-003 -lun 0 -hbaNumber 1
>ssc assign diskvolume machine001 DiskArray-001 -name Volume-001 -ostype lx
>ssc assign diskvolume VmServer-g/esx/esx10 DiskArray-002 -name Volume-001
  -hostip 10.34.11.4
```

## 2.12.9. ディスクボリュームの割当解除

ディスクボリュームをマシンから割り当て解除します。

## [構文]

```
ssc release diskvolume MachineName DiskArrayName  
<-num DiskVolumeNumber... | -name DiskVolumeName...>  
[-hbanumber HbaNumber...] [-serialno SerialNumber]
```

## [引数/オプション]

<i>MachineName</i> (必須)	割り当て解除を行うマシンのパスを指定します。 例) [運用] ビューの場合: operations:/category/group/host [リソース] ビューの場合: resource:/group/machine
<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
-num <i>DiskVolumeNumber</i>	割り当て解除を行うディスクボリューム番号を指定します。 複数指定可能です。 NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、指定できません。
-name <i>DiskVolumeName</i>	割り当て解除を行うディスクボリュームの名前を指定します。 複数指定可能です。 NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、大文字小文字を区別します。
[-hbanumber <i>HbaNumber</i> ...]	割り当て解除を行うマシンの使用するHBA番号を指定します。 0 から 9999までの間で指定可能です。 省略すると、マシンに設定されているすべてのHBAが切断されます。 NetAppストレージの場合は、無効です。
[-serialno <i>SerialNumber</i> ]	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合に シリアル番号を指定します。

## [注]

- 本コマンドは、ディスクアレイの種別が Symmetrix の場合は、サポートしていません。
- ディスクアレイの種別が CLARiX の場合、稼動中のマシン以外に実行できません。

## [構文例]

```
>ssc release diskvolume machine001 DiskArray-001 -name Volume-001  
>ssc release diskvolume machine001 DiskArray-001 -num 1  
>ssc release diskvolume machine001 DiskArray-001 -name Volume-001 Volume-002  
Volume-003 -hbaNumber 1
```

## 2.12.10. ディスクボリューム情報の表示

ディスクボリューム情報を表示します。

## [構文]

```
ssc show diskvolume DiskArrayName  
[-num DiskVolumeNumber | -name DiskVolumeName]  
[-serialno SerialNumber] [-vertical]
```

## [引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
[-num <i>DiskVolumeNumber</i> ]	指定したディスクボリューム番号のディスクボリューム情報を 表示します。ディスクボリューム番号を省略すると、 全ディスクボリュームが対象となります。 NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、無効です。

<code>[-name <i>DiskVolumeName</i>]</code>	指定したディスクボリューム名のディスクボリューム情報を表示します。ディスクボリューム名を省略すると、全ディスクボリュームが対象となります。NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、大文字と小文字を区別します。
<code>[-serialno <i>SerialNumber</i>]</code>	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。
<code>[-vertical]</code>	表示形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値)省略した場合、CSV形式で表示します。

## [構文例]

```
>ssc show diskvolume DiskArray-001
>ssc show diskvolume DiskArray-001 -vertical
>ssc show diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001
>ssc show diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001 -vertical
>ssc show diskvolume DiskArray-001 -num 1
```

## [表示例]

```
>ssc show diskvolume DiskArray-001 -vertical
[DiskVolume-01]
DiskVolumeName      : Volume-001
DiskVolumeNumber    : 1
UniqueId             : 20000030138400540000
DiskVolumeSize (GB) : 250.0
Type                 : LX
Format               : -
ConsumedCapacity (GB) : 12.8
Tag                  : Gold
[DiskVolume-02]
DiskVolumeName      : Volume-002
DiskVolumeNumber    : 2
UniqueId             : 20000030138400540001
DiskVolumeSize (GB) : 250.0
Type                 : LX
Format               : 20%
Tag                  : Silver
```

```
>ssc show diskvolume DiskArray-001
#DiskVolumeName, DiskVolumeNumber, UniqueId, DiskVolumeSize (GB), Type, Format, ConsumedC
"Volume-001", "1", "20000030138400540000", "250.0", "LX", "-", "12.8", "Gold"
"Volume-002", "2", "20000030138400540001", "250.0", "LX", "-", "", "Silver"
```

```
>ssc show diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001 -vertical
[DiskVolume-01]
DiskVolumeName      : Volume-001
DiskVolumeNumber    : 1
UniqueId             : 20000030138400540000
DiskVolumeSize (GB) : 250.0
Type                 : LX
Format               : -
ConsumedCapacity (GB) : 12.8
Tag                  : Gold
```

```
>ssc show diskvolume DiskArray-001 -name Volume-001
#DiskVolumeName, DiskVolumeNumber, UniqueId, DiskVolumeSize (GB), Type, Format, ConsumedC
"Volume-001", "1", "20000030138400540000", "250.0", "LX", "-", "12.8", "Gold"
```



```
>ssc show diskvolume DataONTAP -name vol1 -vertical
[DiskVolume-01]
DiskVolumeName      : vol1
DiskVolumeNumber    : 0
UniqueId            : 07c0cfc2-e187-11e0-8682-000c2989b168
DiskVolumeSize (GB) : 0.0
Type                : -
Format              : -
Tag                 : Bronze
```

**[注]**

- 本コマンドは、ディスクアレイの種別が Symmetrix の場合は、サポートしていません。
- ディスクボリュームのtypeはWN、WG、LXのみ表示します。それ以外は「-」となります。
- ディスクボリューム情報のFormatはディスクボリュームのフォーマットの進捗率を表示します (iStorage)。
  - CLARiX、NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、常に「-」となります。
- 仮想ディスクの場合のみ ConsumedCapacity を表示します。

## 2.12.11. ストレージプール情報の表示

ストレージプール情報を表示します。

**[構文]**

```
ssc show storagepool DiskArrayName [-num PoolId]
[-serialno SerialNumber] [-vertical]
```

**[引数/オプション]**

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
[-num <i>PoolId</i> ]	プールIDを指定します。 指定したプールIDのストレージプール情報とストレージプールに所属するディスクボリューム情報を表示します。 <i>PoolId</i> を省略した場合、全ストレージプール情報が対象となります。 NetAppストレージの場合は、UUIDを指定します。
[-serialno <i>SerialNumber</i> ]	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。
[-vertical]	表示形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) 省略した場合、CSV形式で表示します。

- PoolTypeの示す値

Basic	iStorageのBasicプール、CLARiX (VNX) のRaidGroup、NetAppのAggregate
Dynamic	iStorageのDynamicプール
Thin	iStorageの仮想容量プール、CLARiX (VNX) のStoragePool
Hybrid	iStorageの階層プール

**[注]**

- 本コマンドは、ディスクアレイの種別が Symmetrix の場合は、サポートしていません。
- RANK についてはサポートしていません (iStorage)。

**[構文例]**

```
>ssc show storagepool DiskArray-001
>ssc show storagepool DiskArray-001 -vertical
```

```
>ssc show storagepool DiskArray-001 -num 1
>ssc show storagepool DiskArray-001 -num 1 -vertical
```

### [表示例]

```
>ssc show storagepool DiskArray-001 -vertical
[StoragePool-01]
StoragePoolName      : Pool-001
StoragePoolId       : 1
Capacity (GB)       : 20480.0
FreeCapacity (GB)   : 20255.5
PhysicalCapacity (GB) : 1066.8
ConsumedCapacity (GB) : 21.5
PoolType            : Thin
Tag                 : Gold
[StoragePool-02]
StoragePoolName      : Pool-002
StoragePoolId       : 2
Capacity (GB)       : 130.5
FreeCapacity (GB)   : 130.5
PoolType            : Dynamic
Tag                 : Silver
[StoragePool-03]
StoragePoolName      : Pool-003
StoragePoolId       : 3
Capacity (GB)       : 4096.0
FreeCapacity (GB)   : 1024.0
PoolType            : Hybrid
Tag                 :
```

```
>ssc show storagepool DiskArray-001
#StoragePoolName,StoragePoolId,Capacity (GB),FreeCapacity (GB),PhysicalCapacity (GB)
"Pool-001","1","20480.0","20255.5","1066.8","21.5","Thin","Gold"
"Pool-002","2","130.5","130.5","","","Dynamic","Silver"
"Pool-003","3","4096.0","1024.0","","","Hybrid",""
```

```
>ssc show storagepool DiskArray-001 -num 1 -vertical
[StoragePool-01]
StoragePoolName      : Pool-001
StoragePoolId       : 1
Capacity (GB)       : 20480.0
FreeCapacity (GB)   : 20255.5
PhysicalCapacity (GB) : 1066.8
ConsumedCapacity (GB) : 21.5
PoolType            : Thin
Tag                 : Gold
[DiskVolume-01]
DiskVolumeName      : Volume-001
DiskVolumeNumber    : 1
Tag                 : Gold
[DiskVolume-02]
DiskVolumeName      : Volume-002
DiskVolumeNumber    : 2
Tag                 : Gold
```

```
>ssc show storagepool DiskArray-001 -num 1
[StoragePool]
#StoragePoolName,StoragePoolId,Capacity (GB),FreeCapacity (GB),PhysicalCapacity (GB)
"Pool-001","1","20480.0","20255.5","1066.8","21.5","Thin","Gold"
[Diskvolume]
```

```
#DiskVolumeName, DiskVolumeNumber, Tag
"Volume-001", "1", "Gold"
"Volume-002", "2", "Gold"
```

```
>ssc show storagepool dataontap -vertical
[StoragePool-01]
StoragePoolName : aggr0
StoragePoolId   : 786e2870-c3ee-11e0-a56c-005056b50006
Capacity (GB)  : 0.8
FreeCapacity (GB) : 0.0
PoolType       : Basic
Tag            : Gold
[StoragePool-02]
StoragePoolName : aggr1
StoragePoolId   : 8f5700ca-c641-11e0-8ca2-005056b50006
Capacity (GB)  : 0.8
FreeCapacity (GB) : 0.3
PoolType       : Basic
Tag            : Silver
[StoragePool-03]
StoragePoolName : aggr2
StoragePoolId   : 5e0a90ca-d9c6-11e0-8c89-005056b50006
Capacity (GB)  : 2.5
FreeCapacity (GB) : 2.5
PoolType       : Basic
Tag            : Bronze
```

#### [注]

- 仮想容量プールの場合のみ PhysicalCapacity、ConsumedCapacity を表示します。

## 2.12.12. RDM用Diskの一覧表示

RDM用Diskの一覧表示します。

#### [構文]

```
ssc rdmstorage show -vms VmsName [-vertical]
```

#### [引数/オプション]

-vms <i>VmsName</i> (必須)	対象となる仮想マシンサーバをフルパスで指定します。
[-vertical]	表示形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) 省略した場合、CSV形式で表示します。

#### [構文例]

```
>ssc rdmstorage show -vms vc1/datacenter1/esx1
>ssc rdmstorage show -vms vc1/datacenter1/esx1 -vertical
```

## 2.12.13. RDM用Diskの用途、あるいは状態の更新

RDM用Diskの用途、あるいは状態を更新します。

## [構文]

```
ssc rdmstorage update <[rdm | none | clean] | [-tag Tag... [-overwrite]]>  
-vms VmsName [-size Size | -id UniqueId | -name LunName]
```

## [引数/オプション]

[rdm   none   clean]	以下からオペレーションを指定します。 rdm : 通常 Disk をRDM用途に設定します。 none : 未使用、使用済みのDisk をRDM用途から除きます。 clean : 使用済みのDisk を [未使用] にします。
[-tag Tag...]	対象Diskにタグを設定します。複数設定可能です。 -overwriteオプションを指定しない場合、既にタグが設定済みのDiskは設定対象外になります。 Tagを設定しない (-tag のみ指定する) 場合、既に設定済みのタグ情報を削除します。
[-overwrite]	タグを上書き設定します。 -tagオプション指定時有効です。
-vms VmsName (必須)	対象となる仮想マシンサーバをフルパスで指定します。
[-size Size]	対象となるDiskのサイズ (Allocation Size) を指定します。
[-id UniqueId]	対象となるUniqueIdを指定します。
[-name LunName]	対象となるLUN名を指定します。

## [注]

- 仮想マシンサーバのみの指定:  
仮想マシンサーバに接続されているすべてのLUN (データストア除く) が対象となります。
- 仮想マシンサーバ + サイズ指定:  
仮想マシンサーバに接続されている指定サイズ (Allocation Size) のDiskが対象となります。
- 仮想マシンサーバ + UniqueId指定:  
仮想マシンサーバに接続されている指定UniqueIdを持つDiskが対象となります。
- 仮想マシンサーバ + LUN名指定:  
仮想マシンサーバに接続されている指定LUN名を持つDiskが対象となります。
- -tagオプション指定時、-idオプション、もしくは-nameオプションと同時に指定する場合、-overwriteオプション指定の有無に関わらず、既にタグ設定済みのDiskに対しても上書き設定されます。

## [構文例]

```
>ssc rdmstorage update rdm -vms vc1/datacenter1/esx1  
>ssc rdmstorage update rdm -vms vc1/datacenter1/esx1 -size 50  
>ssc rdmstorage update rdm -vms vc1/datacenter1/esx1 -id 20000030138400540000  
>ssc rdmstorage update rdm -vms vc1/datacenter1/esx1  
-name "NEC Fibre Channel Disk (eui.003013840e640021)"  
>ssc rdmstorage update none -vms vc1/datacenter1/esx1  
>ssc rdmstorage update clean -vms vc1/datacenter1/esx1  
>ssc rdmstorage update -vms 192.168.1.10/DC/192.168.1.20 -tag bronze  
>ssc rdmstorage update -vms 192.168.1.10/DC/192.168.1.20 -tag gold -size 20  
-overwrite  
>ssc rdmstorage update -vms 192.168.1.10/DC/192.168.1.20 -tag gold  
-id 003013840e640005
```

## 2.12.14. ストレージトポロジ情報の表示

ストレージトポロジ情報を表示します。

## [構文]

```
ssc show storagetopology DiskArrayName
```

```
[-poolid PoolId | -num DiskVolumeNumber | -name DiskVolumeName]
[-serialno SerialNumber]
[-all]
```

## [引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
[-poolid PoolId]	指定したプールIDのストレージポロジ情報を表示します。 NetAppストレージの場合は、UUIDを指定します。
[-num DiskVolumeNumber]	指定したディスクボリューム番号のストレージポロジ情報を表示します。 NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、無効です。
[-name DiskVolumeName]	指定したディスクボリューム名のストレージポロジ情報を表示します。 NetAppストレージ、SMI-Sサービスの場合は、大文字小文字を区別します。
[-serialno SerialNumber]	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合に指定します。
[-all]	すべてのストレージポロジ情報を表示します。 省略した場合、管理対象リソースのストレージポロジ情報のみを表示します。

## [ストレージポロジの対応環境]

本コマンドがサポートする環境は、以下の通りです。

	VMware	Hyper-V	KVM	Xen
iStorage	o	o	x	x
CLARiX	o	o	x	x
Symmetrix	x	x	x	x
NetApp	o	x	o	x

## [構文例]

```
管理対象リソースのストレージポロジ情報のみを表示する
>ssc show storagetopology M100
すべてのリソースのストレージポロジ情報を表示する
>ssc show storagetopology M100 -all
```

## [表示例]

```
>ssc show storagetopology m100
#DiskArrayName, StoragePoolId, StoragePoolName, DiskVolumeName, DiskVolumeNumber, DiskV
"M100", "1", "Pool0001", "st_LD02", "10", "LD", "Managed", "-", "", "", "", "", "", "", "", "", ""
"M100", "1", "Pool0001", "TopoLD04", "22", "Datastore", "Managed", "-", "[HVC]cluster] C:¥C
"M100", "1", "Pool0001", "TopoLD04", "22", "Datastore", "Managed", "-", "[HVC]cluster] C:¥C
"M100", "2", "Pool0002", "st_LD00", "23", "LD", "Managed", "-", "", "", "", "", "", "", "", "", ""
"M100", "2", "Pool0002", "st_LD01", "8", "LD", "Managed", "-", "", "", "", "", "", "", "", "", ""
"M100", "0", "SystemPool", "Yamato2DataStore", "7", "LD", "Managed", "-", "", "", "", "", "", "", "", ""
```

## [表示内容]

- -all を省略した場合、管理対象リソースのみが表示されます。
  - ディスクボリュームが管理対象外の場合、コマンド実行結果には出力されません。
  - 仮想マシンサーバが管理対象外の場合、ディスクボリュームまでが出力されます。

- 仮想マシンが管理対象外の場合、仮想マシンサーバまでが出力されます。
- 物理マシンが管理対象外の場合、ディスクボリュームまでが出力されます。

## 2.12.15. ストレージプールの編集

ストレージプールを編集します。

### 【構文】

```
ssc update storagepool DiskArrayName PoolId
-tag Tag... [-pooltype StoragePoolType] [-serialno SerialNumber]
```

### 【引数/オプション】

<i>DiskArrayName</i> (必須)	対象となるストレージプールが存在するディスクアレイ名を指定します。
<i>PoolId</i> (必須)	プールIDを指定します。 NetAppストレージの場合は、UUIDを指定します。
-tag <i>Tag...</i> (必須)	タグを指定します。複数指定可能です。
[-pooltype <i>StoragePoolType</i> ]	ストレージプールのタイプを指定します。 <i>PoolId</i> でストレージプールが一意に特定できない場合に指定します。
[-serialno <i>SerialNumber</i> ]	対象となるストレージプールが存在するディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。

### 【注】

- タグ文字列に空白を含めることはできません。-tagに "" で空白を含むタグ文字列を設定しても、空白を含むタグは登録されません。
- *PoolId*は大文字と小文字を区別します。

### 【構文例】

```
>ssc update storagepool DiskArray-001 1 -tag tag1 tag2 tag3
```

## 2.13. ネットワーク

### 2.13.1. VLAN の追加

ネットワーク設定を追加します。

#### [構文]

```
ssc group set-network GroupPath NicNumber  
<SwitchName VlanName | -network NetworkName>  
[-tag < on | off >]
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	グループ、もしくはモデルまでのパスを指定します。 VMグループ / モデルを指定することはできません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
<i>NicNumber</i> (必須)	NIC番号を指定します。1から10の範囲で指定します。
<i>SwitchName</i>	スイッチ名を指定します。
<i>VlanName</i>	VLAN名を指定します。
-network <i>NetworkName</i>	ネットワーク名を指定します。
[-tag < on   off >]	タグ情報を設定します。 on: VLANにタグを設定します。 off: VLANにタグを設定しません。 [-tag <on   off>] を省略した場合、"off" の指定と同じになります。

#### [構文例]

```
>ssc group set-network Category1/Group01 1 SW-001 VLAN-001  
>ssc group set-network Group-A001 1 SW-A001 VLAN-A001 -tag on  
>ssc group set-network Group-A001 2 -network Network2  
>ssc group set-network Category1/Group01/VMSModel01 1 -network Network1
```

#### [注]

- SigmaSystemCenter 3.0より、add vlan コマンドからコマンド名が変更になりました。

### 2.13.2. ネットワークの作成

ネットワークの作成をします。

#### [構文]

```
ssc network create NetworkName [-scope < public | private >] [-tenant  
TenantName] [-tag value] [-description value]
```

#### [引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
[-scope < public   private >]	公開範囲を設定します。 省略時は、public が設定されます。
[-tenant <i>TenantName</i> ]	公開するテナントを指定します。 公開範囲が public の場合は、指定できません。
[-tag <i>value</i> ]	タグを指定します。
[-description <i>value</i> ]	説明を入力します。

## [構文例]

```
>ssc network create VMNetwork1
>ssc network create VMNetwork1 -scope public
>ssc network create VMNetwork1 -scope private
>ssc network create VMNetwork1 -tenant Tenant1
>ssc network create VMNetwork1 -scope private -tenant Tenant1
>ssc network create VMNetwork1 -scope public -tag resource -description cloud
```

### 2.13.3. VLAN(ポートグループ)定義の追加

ネットワークにVLAN (ポートグループ) 定義を追加します。

#### [構文]

```
ssc network add-vlan NetworkName SwitchType [SwitchName] -vlanname VlanName
[-vlantype <vlan | private>] [-vlanid VlanId [secondaryId]]
```

#### [引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>SwitchType</i> (必須)	スイッチタイプを指定します Physicals : 全スイッチ(物理) Physical : 物理スイッチ Virtual : 仮想スイッチ Distributed: 分散スイッチ
[ <i>SwitchName</i> ]	スイッチ名を指定します。 <i>SwitchType</i> が「Physicals」の場合、指定できません。 <i>SwitchType</i> が「Physical」「Distributed」の場合、省略できません。
-vlanname <i>VlanName</i>	VLAN名を指定します。
[-vlantype <vlan   private>]	VLAN種別を指定します。 <i>SwitchType</i> が「Physicals」「Physical」の場合、省略できません。 vlan: VLAN private: プライベートVLAN <i>VlanName</i> が指定したスイッチに既に存在している場合は、省略できません。
[-vlanid <i>VlanId</i> [ <i>secondaryId</i> ]]	VLAN IDを指定します。プライベートVLANの場合に <i>secondaryId</i> を指定できます。 <i>SwitchType</i> が「Physicals」「Physical」の場合、省略できません。 <i>VlanName</i> が指定したスイッチに既に存在している場合は、省略できません。

#### [構文例]

```
>ssc network add-vlan VMNetwork1 Virtual dvSwitch -vlanname vPortGroup
-vlantype vlan -vlanid 1
>ssc network add-vlan VMNetwork1 Physical Switch1 -vlanname PortGroup
-vlantype private -vlanid 100 101
>ssc network add-vlan VMNetwork1 Virtual -vlanname vPortGroup
-vlantype vlan -vlanid 1
```



## 2.13.4. アドレスプールの追加

ネットワークにアドレスプールを追加します。

### [構文]

```
ssc network add-addresspool NetworkName RangeName StartIP [EndIP] [Division]  
[-manage <off | on>] [-public StartIP EndIP] [-subnetmask SubnetMask] [-gateway  
Gateway]
```

### [引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>RangeName</i> (必須)	IPレンジ名を指定します
<i>StartIP [EndIP]</i>	IPアドレスの範囲を指定します。 特定のアドレスのみを指定する場合は、 <i>StartIP</i> のみ指定してください ( <i>Division</i> : 除外のときに有効です)。
[ <i>Division</i> ]	区分を指定します。 assign: 割り当て exclude: 除外 省略時はassignを設定します。
[-manage <off   on>]	管理用IPアドレスかどうかを指定します。 省略時はoffを設定します。
[-public <i>StartIP EndIP</i> ]	Public IPアドレスの範囲を指定します。 Public IPアドレスを指定することで、対応するNAT変換アドレス範囲を設定 できます。
[-subnetmask <i>SubnetMask</i> ]	サブネットマスクを指定します
[-gateway <i>Gateway</i> ]	デフォルトゲートウェイを指定します。

### [構文例]

```
>ssc network add-addresspool VMNet privateRange 192.168.1.1 192.168.1.255 assign  
-manage off -public 192.168.1.1 192.168.1.10 -subnetmask 255.255.127.0  
-gateway 192.168.1.0  
>ssc network add-addresspool VMNet privateRange 192.168.1.1 192.168.1.255  
-manage on  
>ssc network add-addresspool VMNet privateRange 192.168.1.1 exclude
```

## 2.13.5. ポートグループの作成

指定スイッチ (NetworkDevice) 上にポートグループを作成します。

### [構文]

```
ssc portgroup create PortGroupName NetworkDeviceName Path VlanType [primary]  
[secondary]
```

### [引数 / オプション]

<i>PortGroupName</i> (必須)	作成するポートグループ名
<i>NetworkDeviceName</i> (必須)	ポートグループを作成するスイッチ名

<i>Path</i> (必須)	スイッチが存在する仮想マシンサーバ、もしくはDataCenterの仮想 / リソースパスを指定します。 仮想スイッチを操作する場合は、仮想マシンサーバを指定 [仮想] ビュー : virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1 [リソース] ビュー : resource:/Group1/VMServer1 分散スイッチを操作する場合は、DataCenterのパスを指定 [仮想] ビュー : virtual:/VC1/DataCenter1/ (ビューを指定しない場合は、[仮想] ビュー)
<i>VlanType</i> (必須)	VLANタイプを指定します。 VLANタイプは以下の3種。 none vlan private
[ <i>primary</i> ]	VLANID (PrimaryID) を指定します。 VLANタイプがvlanの場合は、2～4094まで指定可能 VLANタイプがprivateの場合は、1～4094まで指定可能
[ <i>secondary</i> ]	SecondaryIdを指定します。 1～4094まで指定可能

VLANタイプがnone指定の場合は、*primary*, *secondary*ともに指定不要。  
VLANタイプがvlan指定の場合は、*primary*を指定。  
VLANタイプがprivate指定の場合は、*primary*, *secondary*両方指定が必須。  
*PortGroupName*は100文字以内。101文字以上の場合は、異常終了します。  
また、禁則文字として記号 ¥ / : . ; \* ? < > | が入力された場合も異常終了します。

#### [構文例]

```
>ssc portgroup create vPortGroup1 vSwitch1
VC1/DataCenter1/VMServer1 none
>ssc portgroup create vPortGroup2 vSwitch1
virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1 vlan 2
>ssc portgroup create vPortGroup3 vSwitch1
resource:/Group1/VMServer1 private 1 2
>ssc portgroup create dvPortGroup1 dvSwitch1
virtual:/VC1/DataCenter1 vlan 2
```

### 2.13.6. ポートグループの削除

指定スイッチ (NetworkDevice) 上のポートグループを削除します。

#### [構文]

```
ssc portgroup delete PortGroupName NetworkDeviceName Path
```

#### [引数 / オプション]

<i>PortGroupName</i> (必須)	削除するポートグループ名
<i>NetworkDeviceName</i> (必須)	ポートグループを削除するスイッチ名
<i>Path</i> (必須)	スイッチが存在する仮想マシンサーバ、もしくはDataCenterの仮想 / リソースパスを指定します。 仮想スイッチを操作する場合は、仮想マシンサーバを指定 [仮想] ビュー : virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1 [リソース] ビュー : resource:/Group1/VMServer1 分散スイッチを操作する場合は、DataCenterのパスを指定 [仮想] ビュー : virtual:/VC1/DataCenter1/ (ビューを指定しない場合は、[仮想] ビュー)

## [構文例]

```
>ssc portgroup delete vPortGroup1 vSwitch1 VC1/DataCenter1/VMServer1
>ssc portgroup delete vPortGroup2 vSwitch1 virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1
>ssc portgroup delete vPortGroup3 vSwitch1 resource:/Group1/VMServer1
>ssc portgroup delete dvPortGroup1 dvSwitch1 virtual:/VC1/DataCenter1
```

## 2.13.7. ポートグループ一覧の表示

ポートグループ一覧を表示します。

### [構文]

```
ssc portgroup show Path [-private] [-bandcontrol] [-vertical]
```

### [引数 / オプション]

Path	仮想スイッチのポートグループを表示する場合は、 仮想マシンサーバを指定 [仮想] ビュー : virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1 [リソース] ビュー : resource:/Group1/VMServer1 分散スイッチのポートグループを表示する場合は、 DataCenterのパスを指定 [仮想] ビュー : virtual:/VC1/DataCenter1/ (ビューを指定しない場合は、[仮想] ビュー)
[-private]	プライベートVLAN一覧が表示されます。
[-bandcontrol]	ネットワーク帯域制御情報が表示されます。
[-vertical]	表示形式を指定します。 省略した場合、CSV形式で表示します。

### [注]

- ネットワーク帯域制御機能はVMware環境でのみサポートしています。  
ポートグループのネットワーク帯域制御（トラフィックシェーピング）情報を表示できます。

### [構文例]

```
>ssc portgroup show virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1
>ssc portgroup show resource:/Group1/VMServer1 -private
>ssc portgroup show virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1 -bandcontrol
>ssc portgroup show VC1/DataCenter1 -vertical
```

### [表示例]

```
* ポートグループ一覧
#NetworkDeviceName, PortGroupName, NetworkType, VlanType, VlanId (PrimaryId), SecondaryId
"vSwitch0", "Service Console", "ServiceConsole", "None", "-", "-"
"vSwitch0", "VM Network", "VirtualMachine", "None", "-", "-"
"vSwitch1", "VLAN10", "VirtualMachine", "Vlan", "10", "-"
"vSwitch1", "VLAN20", "VirtualMachine", "Vlan", "20", "-"
* PrivateVlan一覧
#NetworkDeviceName, PrimaryId, SecondaryId, PrivateType
"dvSwitch", "10", "10", "Promiscuous"
"dvSwitch", "10", "11", "Community"
"dvSwitch", "10", "12", "Isolated"
"dvSwitch", "10", "13", "Community"
"dvSwitch", "10", "14", "Community"
* ネットワーク帯域制御情報
#NetworkDeviceName, PortGroupName, Type, AverageBandWidth (Kbits/s), PeakBandWidth (Kbits
```

```
"vSwitch0", "VirtualVLAN", "in/out", "1000", "2100", "100"
"vSwitch1", "VirtualVLAN", "in", "1500", "2000", "200"
```

## 2.13.8. ポートグループの編集

指定スイッチ (NetworkDevice) 上のポートグループを編集します。

### [構文]

```
ssc portgroup update PortGroupName NetworkDeviceName Path [-vlan VlanType [primary]
[secondary]] [-bandcontrol <on | off> [ave=value peak=value burstsize=value] [type=<in |
out>]]
```

### [引数 / オプション]

<i>PortGroupName</i> (必須)	編集するポートグループ名
<i>NetworkDeviceName</i> (必須)	ポートグループが存在するスイッチ名
<i>Path</i> (必須)	スイッチが存在する仮想マシンサーバ、もしくはDataCenterの仮想 / リソースパスを指定します。 仮想スイッチを操作する場合は、仮想マシンサーバを指定 [仮想] ビュー : virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1 [リソース] ビュー : resource:/Group1/VMServer1 分散スイッチを操作する場合は、DataCenterのパスを指定 [仮想] ビュー : virtual:/VC1/DataCenter1/ (ビューを指定しない場合は、[仮想] ビュー)
[-vlan VlanType [primary] [secondary]]	VlanType VLANタイプを指定します。 VLANタイプは以下の3種。 none vlan private [primary] VLANID (PrimaryID) を指定します。 VLANタイプがvlanの場合は、2～4094まで指定可能 VLANタイプがprivateの場合は、1～4094まで指定可能 [secondary] SecondaryIdを指定します。 1～4094まで指定可能  VLANタイプがnone指定の場合は、 <i>primary,secondary</i> ともに指定不要。 VLANタイプがvlan指定の場合は、 <i>primary</i> を指定。 VLANタイプがprivate指定の場合は、 <i>primary,secondary</i> 両方指定が必須。
[-bandcontrol <on   off> [ave=value peak=value burstsize=value] [type=<in   out>]]	<on   off> ネットワーク帯域制御有効 / 無効指定 on : 制御を有効にします。 off : 制御を無効にします。 ave 平均バンド幅 [kbits/s] を指定します。 peak ピークバンド幅 [kbits/s] を指定します。 burstsize バーストサイズ [kbytes] を指定します。 type 制御タイプを指定します。(分散スイッチで有効です) in : 入力 out : 出力

## [注]

- ネットワーク帯域制御の各値は以下の範囲で指定できます。
  - ave  
0 < ave < 9,000,000,000,000,000
  - peak  
0 < peak < 9,000,000,000,000,000
  - burstsize  
0 < burstsize < 9,007,199,254,740,991
- ネットワーク帯域制御機能はVMware環境でのみサポートしています。  
ポートグループに対してネットワーク帯域制御（トラフィックシェーピング）を設定できません。

## [構文例]

```
>ssc portgroup update dvPortGroup1 dvSwitch1 virtual:/VC1/DataCenter1 -vlan none
>ssc portgroup update VLAN1 vSwitch1 resource:/Group1/VMServer1 -vlan vlan 2
>ssc portgroup update VLAN2 vSwitch1 VC1/DataCenter1/VMServer1 -vlan private 1 2
>ssc portgroup update VLAN1 vSwitch1 VC1/DataCenter1/VMServer1
-bandcontrol on ave=1024 peak=2048 burstsize=100
>ssc portgroup update dvPortGroup1 dvSwitch1 virtual:/VC1/DataCenter1
-bandcontrol on ave=1024 peak=2048 burstsize=100 type=in
>ssc portgroup update dvPortGroup1 dvSwitch1 virtual:/VC1/DataCenter1
-bandcontrol off type=out
```

## 2.13.9. プライベートVLANの作成

対象分散スイッチにプライベートVLANを作成します。

### [構文]

```
ssc privatevlan create NetworkDeviceName Path PrimaryId SecondaryId PrivateVlanType
```

### [引数 / オプション]

<i>NetworkDeviceName</i> (必須)	プライベートVLANを作成する分散スイッチ名
<i>Path</i> (必須)	スイッチが存在するDataCenterの仮想パスを指定します。 virtual:/VC1/DataCenter1/ (virtual:/は省略可能)
<i>PrimaryId</i> (必須)	プライベートVLANのプライマリIDを指定します。 1~4094まで指定可能
<i>SecondaryId</i> (必須)	プライベートVLANのセカンダリIDを指定します。 1~4094まで指定可能
<i>PrivateVlanType</i> (必須)	プライベートVLANのタイプを指定します。 タイプは以下の3種。 community isolated promiscuous

### [構文例]

```
ssc privatevlan create dvSwitch1 VC1/DataCenter1 1 2 community
ssc privatevlan create dvSwitch1 VC1/DataCenter1 2 3 solated
ssc privatevlan create dvSwitch1 virtual:/VC1/DataCenter1 3 4 promiscuous
```

## 2.13.10. プライベートVLANの削除

対象分散スイッチのプライベートVLANを削除します。

### [構文]

```
ssc privatevlan delete NetworkDeviceName Path PrimaryId SecondaryId
```

### [引数 / オプション]

<i>NetworkDeviceName</i> (必須)	プライベートVLANを削除する分散スイッチ名
<i>Path</i> (必須)	スイッチが存在するDataCenterの仮想パスを指定します。 virtual:/VC1/DataCenter1/ (virtual:/は省略可能)
<i>PrimaryId</i> (必須)	プライベートVLANのプライマリIDを指定します。
<i>SecondaryId</i> (必須)	プライベートVLANのセカンダリIDを指定します。

### [構文例]

```
>ssc privatevlan delete dvSwitch1 VC1/DataCenter1/ 1 2  
>ssc privatevlan delete dvSwitch1 virtual:/VC1/DataCenter1/ 2 3
```

## 2.13.11. プライベートVLANの更新

対象分散スイッチのプライベートVLANを編集します。

プライマリIDとセカンダリIDが一致したものを編集します。

無差別 (promiscuous) への変更は不可

無差別 (promiscuous) のPrivateVlanの変更は不可

### [構文]

```
ssc privatevlan update NetworkDeviceName Path PrimaryId SecondaryId PrivateVlanType
```

### [引数 / オプション]

<i>NetworkDeviceName</i> (必須)	プライベートVLANを編集する分散スイッチ名
<i>Path</i> (必須)	スイッチが存在するDataCenterの仮想パスを指定します。 virtual:/VC1/DataCenter1/ (virtual:/は省略可能)
<i>PrimaryId</i> (必須)	プライベートVLANのプライマリIDを指定します。 1~4094まで指定可能
<i>SecondaryId</i> (必須)	プライベートVLANのセカンダリIDを指定します。 1~4094まで指定可能
<i>PrivateVlanType</i> (必須)	プライベートVLANのタイプを指定します。 community isolated

### [構文例]

```
>ssc privatevlan update dvSwitch1 VC1/DataCenter1 1 2 isolated  
>ssc privatevlan update dvSwitch1 virtual:/VC1/DataCenter1 2 3 community
```

## 2.13.12. VLANの新規作成

物理スイッチにVLANを新規作成します。

### [構文]

```
ssc vlan create VlanName VlanId [-manager HostName]
```

### [引数/オプション]

<i>VlanName</i> (必須)	作成するVLANの名前を入力します。
<i>VlanId</i> (必須)	作成するVLANのVLAN IDを指定します。 2~4094の任意の数字を指定できます。
[-manager <i>HostName</i> ]	マネージャのホスト名、またはIPアドレスを指定します

### [構文例]

```
>ssc vlan create VLAN_008 8  
>ssc vlan create vlan_014 14 -manager Switch-A  
>ssc vlan create vlan_118 18 -manager 192.168.10.1
```

## 2.13.13. VLANの削除

物理スイッチのVLANを削除します。

### [構文]

```
ssc vlan delete VlanName [-manager HostName]
```

### [引数/オプション]

<i>VlanName</i> (必須)	削除するVLANの名前を入力します。
[-manager <i>HostName</i> ]	マネージャのホスト名、またはIPアドレスを指定します

### [構文例]

```
>ssc vlan delete VLAN_008  
>ssc vlan delete vlan_014 -manager Switch-A  
>ssc vlan delete vlan_118 -manager 192.168.10.1
```

## 2.13.14. 仮想ブリッジの追加

ネットワークに仮想ブリッジを追加します。

### [構文]

```
ssc network add-virtualbridge NetworkName BridgeName VlanId [-controller  
ControllerName] [-othername VirtualNetworkName]
```

### [引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>BridgeName</i> (必須)	仮想ブリッジ名を指定します。

<i>VlanId</i> (必須)	仮想ブリッジに設定するVLAN IDを指定します。
<code>[-controller <i>ControllerName</i>]</code>	コントローラ名を指定します。 コントローラを1つしか管理していない場合は、省略することができます。
<code>[-othername <i>VirtualNetworkName</i>]</code>	ネットワーク名にP-Flow用の別名を指定します。

#### [構文例]

```
>ssc network add-virtualbrige Network VBR1 10
>ssc network add-virtualbrige Network VBR1 10 -controller PFC
>ssc network add-virtualbrige Network VBR1 10 -othername VTN1
```

### 2.13.15. ネットワーク設定の適用

ネットワークの設定を適用します。

#### [構文]

```
ssc network apply NetworkName Type
```

#### [引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>Type</i> (必須)	適用する設定種別を指定します。 firewall: ファイアウォール設定 pflow: P-Flow設定 all: すべて

#### [構文例]

```
>ssc network apply Network firewall
>ssc network apply Network pflow
>ssc network apply Network all
```

### 2.13.16. ネットワーク設定の削除

ネットワークを削除します。

#### [構文]

```
ssc network delete NetworkName
```

#### [引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
----------------------------	----------------

#### [構文例]

```
>ssc network delete Network
```

### 2.13.17. アドレスプールの削除

ネットワークからアドレスプールを削除します。



### [構文]

```
ssc network delete-addresspool NetworkName RangeName
```

### [引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>RangeName</i> (必須)	IPレンジ名を指定します。

### [構文例]

```
>ssc network delete-addresspool Network Range1
```

## 2.13.18. 仮想ブリッジの削除

ネットワークから仮想ブリッジを削除します。

### [構文]

```
ssc network delete-virtualbridge NetworkName BridgeName
```

### [引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>BridgeName</i> (必須)	仮想ブリッジ名を指定します。

### [構文例]

```
>ssc network delete-virtualbridge Network VBR1
```

## 2.13.19. VLAN(ポートグループ)定義の削除

ネットワークからVLAN (ポートグループ) 定義を削除します。

### [構文]

```
ssc network delete-vlan NetworkName SwitchType [SwitchName] -vlanname VlanName
```

### [引数/オプション]

<i>NetworkName</i> (必須)	ネットワーク名を指定します。
<i>SwitchType</i> (必須)	スイッチタイプを指定します。 Physicals : 全スイッチ (物理) Physical : 物理スイッチ Virtual : 仮想スイッチ Distributed: 分散スイッチ
[ <i>SwitchName</i> ]	スイッチ名を指定します。 <i>SwitchType</i> が「Physicals」の場合、指定できません。 <i>SwitchType</i> が「Physical」、「Distributed」の場合、省略できません。
-vlanname <i>VlanName</i> (必須)	VLAN名を指定します。

### [構文例]

```
>ssc network delete-vlan Network Physicals -vlanname VLAN10
>ssc network delete-vlan Network Physical Switch01 -vlanname VLAN10
>ssc network delete-vlan Network Virtual -vlanname "VM Network 1"
>ssc network delete-vlan Network Distributed dvSwitch -vlanname "VM Network 1"
```

## 2.13.20. ネットワーク情報の表示

ネットワークの情報を表示します。

### [構文]

```
ssc network show [NetworkName] [-vertical]
```

### [引数/オプション]

[ <i>NetworkName</i> ]	ネットワーク名を指定します。
[-vertical]	出力形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) 省略した場合、CSV形式で出力します。

### [構文例]

```
>ssc network show
>ssc network show Network
>ssc network show -vertical
```

## 2.14. ロードバランサ

### 2.14.1. ロードバランサの追加

グループにロードバランサを追加します。

#### [構文]

```
ssc add lb GroupName LbGroupName
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	ロードバランサを追加するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ、グループ)
<i>LbGroupName</i> (必須)	ロードバランサグループを指定します。

#### [構文例]

```
>ssc add lb Category1/Group01 LBGroup-001  
>ssc add lb Group-A001 LBGroup-A001
```

## 2.15. 論理マシン

### 2.15.1. 指定マシンの論理化

指定マシンを論理化します。  
また、指定したマシンとマシンの関連を作成します。

#### [構文]

```
ssc logicalmachine assign < -luuid UUID | -lname MachineName > < -puuid UUID |  
-pname MachineName > -profile ProfileName [-force]
```

#### [引数/オプション]

< -luuid <i>UUID</i>   -lname <i>MachineName</i> > (必須)	論理マシンのUUID、またはマシン名を指定します。
< -puuid <i>UUID</i>   -pname <i>MachineName</i> > (必須)	物理マシンのUUID、またはマシン名を指定します。
-profile <i>ProfileName</i> (必須)	適用しているサービス プロファイル名、またはブートコンフィグ名を指定します。
[-force]	指定した論理マシンが他の物理マシンと関連を持つ場合、指定した物理マシンとの関連を再作成します。 [-force] を省略した場合、論理マシンに関連する物理マシンが存在した場合は、指定した物理マシンが一致しないとエラーとなります。

#### [構文例]

```
>ssc logicalmachine assign -lname esx01 -pname blade1 -profile  
org-root/org-SSC-org/ls-ssc-slot01  
>ssc logicalmachine assign -luuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000 -puuid  
1C4D8E80-24F0-11DF-8001-001697E72265 -profile org-root/org-SSC-org/ls-ssc-slot01  
>ssc logicalmachine assign -lname esx01 -pname blade2 -profile  
org-root/org-SSC-org/ls-ssc-slot01 -force
```

### 2.15.2. 論理マシンの解体・削除

指定マシンの論理化を解除します。または、論理マシンを削除します。

#### [構文]

```
ssc logicalmachine release < -luuid UUID | -lname MachineName > [-force]
```

#### [引数/オプション]

< -luuid <i>UUID</i>   -lname <i>MachineName</i> > (必須)	論理マシンのUUID、またはマシン名を指定します。
[-force]	指定した論理マシンをSigmaSystemCenter、およびDPMサーバから削除します。 省略した場合、論理マシンと物理マシンの関連のみ削除し、論理化を解除します。

## [構文例]

```
>ssc logicalmachine release -lname esx01
>ssc logicalmachine release -luuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000
>ssc logicalmachine release -lname esx01 -force
```

### 2.15.3. 論理マシンの表示

論理マシン情報を表示します。

## [構文]

```
ssc logicalmachine show [-luuid UUID | -lname MachineName] [-vertical]
```

## [引数/オプション]

<code>[-luuid <i>UUID</i>   -lname <i>MachineName</i>]</code>	論理マシンのUUID、またはマシン名を指定します。
<code>[-vertical]</code>	表示形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) [-vertical] を省略した場合、CSV形式で表示します。

## [構文例]

```
>ssc logicalmachine show
>ssc logicalmachine show -vertical
>ssc logicalmachine show -lname esx01
>ssc logicalmachine show -lname esx01 -vertical
>ssc logicalmachine show -luuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000
>ssc logicalmachine show -luuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000 -vertical
```

## [表示例]

```
>ssc logicalmachine show -vertical
[1]
MachineName      : esx01
UUID             : 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000
MACAddress       : 00:16:97:A7:00:00
ProductName      : Express5800/B120a [N8400-082]
MachineType     : LogicalMachine, VMware, VM Server
ProfileName     : #11_config
SlotNumber      : 11
Location        : 192.168.1.40/11
Tag              :
UnitName        :
Description     :
Physical MachineName : Blade11
Physical UUID    : 1C4D8E80-24F0-11DF-8001-001697E72265
Physical MACAddress : 00:16:97:E7:22:66
Physical ProductName : Express5800/B120a [N8400-082]
Physical MachineType : Unitary
Physical ProfileName :
Physical SlotNumber : 11
Physical Location  : 192.168.1.40/11
Physical Tag       :
Physical UnitName  :
Physical Description :
[2]
MachineName      : esx02
UUID             : 30381C00-D797-11DD-0100-001697A70400
MACAddress       : 00:16:97:A7:04:00
```

```

ProductName      : Express5800/B120a [N8400-082]
MachineType     : LogicalMachine, VMware, VM Server
ProfileName     : #12_config
SlotNumber      : 12
Location        : 192.168.1.40/12
Tag             :
UnitName        :
Description     :
Physical MachineName : Blade12
Physical UUID   : 0A211F80-24F4-11DF-8001-001697E72264
Physical MACAddress : 00:16:97:E7:22:62
Physical ProductName : Express5800/B120a [N8400-082]
Physical MachineType : Unitary
Physical ProfileName :
Physical SlotNumber : 12
Physical Location : 192.168.1.40/12
Physical Tag     :
Physical UnitName :
Physical Description :

```

```

>ssc logicalmachine show
#MachineName, UUID, MACAddress, ProductName, MachineType, ProfileName, SlotNumber, Location
"esx01", "30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000", "00:16:97:A7:00:00", "Express5800/B120a", "LogicalMachine, VMware, VM Server", "#12_config", 12, "192.168.1.40/12"
"esx02", "30381C00-D797-11DD-0100-001697A70400", "00:16:97:A7:04:00", "Express5800/B120a", "LogicalMachine, VMware, VM Server", "#11_config", 11, "192.168.1.40/11"

```

```

>ssc logicalmachine show -lname esx01 -vertical
[1]
MachineName      : esx01
UUID             : 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000
MACAddress       : 00:16:97:A7:00:00
ProductName      : Express5800/B120a [N8400-082]
MachineType     : LogicalMachine, VMware, VM Server
ProfileName     : #11_config
SlotNumber      : 11
Location        : 192.168.1.40/11
Tag             :
UnitName        :
Description     :
Physical MachineName : Blade11
Physical UUID   : 1C4D8E80-24F0-11DF-8001-001697E72265
Physical MACAddress : 00:16:97:E7:22:66
Physical ProductName : Express5800/B120a [N8400-082]
Physical MachineType : Unitary
Physical ProfileName :
Physical SlotNumber : 11
Physical Location : 192.168.1.40/11
Physical Tag     :
Physical UnitName :
Physical Description :

```

```

>ssc logicalmachine show -luuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000 -vertical
[1]
MachineName      : esx01
UUID             : 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000
MACAddress       : 00:16:97:A7:00:00
ProductName      : Express5800/B120a [N8400-082]
MachineType     : LogicalMachine, VMware, VM Server
ProfileName     : #11_config
SlotNumber      : 11
Location        : 192.168.1.40/11

```

Tag	:
UnitName	:
Description	:
Physical MachineName	: Blade11
Physical UUID	: 1C4D8E80-24F0-11DF-8001-001697E72265
Physical MACAddress	: 00:16:97:E7:22:66
Physical ProductName	: Express5800/B120a [N8400-082]
Physical MachineType	: Unitary
Physical ProfileName	:
Physical SlotNumber	: 11
Physical Location	: 192.168.1.40/11
Physical Tag	:
Physical UnitName	:
Physical Description	:

```
>ssc logicalmachine show -luuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000
#MachineName, UUID, MACAddress, ProductName, MachineType, ProfileName, SlotNumber, Location
"esx01", "30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000", "00:16:97:A7:00:00", "Express5800/B120a", "Unitary", "11", "192.168.1.40/11", "", ""
```

## 2.15.4. 論理マシンアカウント作成

ホストに論理マシンアカウントを作成します。

### [構文]

```
ssc logicalmachine create-account GroupName HostName -type ConnectionType -ip IPAddress -u UserName [-p Password] [-overwrite]
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	マシンアカウントを作成するホストが存在するグループを指定します。グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	対象となるホスト名を指定します。
-type <i>ConnectionType</i> (必須)	接続種別を指定します。“oob”のみサポートします。OOBは、Out-of-Band-Managementで使用されます。
-ip <i>IPAddress</i> (必須)	IPアドレスを指定します。
-u <i>UserName</i> (必須)	ユーザ名を指定します。接続先のログインシステムによっては、大文字 / 小文字が区別されることがあります。
[-p <i>Password</i> ]	パスワードを指定します。[-p <i>Password</i> ] を省略した場合、パスワード指定なしとなります。 <i>Password</i> に、空文字 ("") を指定した場合、省略した場合と同じ扱いとなります。
[-overwrite]	マシンアカウントが既に登録済みの場合、上書きをします。[-overwrite] を省略した場合、マシンアカウントが既に登録されているとエラーになります。

### [構文例]

```
>ssc logicalmachine create-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -ip 192.168.1.103 -u admin
>ssc logicalmachine create-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -ip 192.168.1.103 -u admin -p ""
```

```
>ssc logicalmachine create-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -ip
192.168.1.103 -u admin -p admin
>ssc logicalmachine create-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -ip
192.168.1.103 -u admin -p admin -overwrite
```

## 2.15.5. 論理マシンアカウント更新

ホストの論理マシンアカウントを更新します。

### [構文]

```
ssc logicalmachine update-account GroupName HostName -type ConnectionType <[-ip
IPAddress] [-u UserName] [-p Password]>
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	マシンアカウントを更新するホストが存在するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	対象となるホスト名を指定します。
-type <i>ConnectionType</i> (必須)	接続種別を指定します。“oob”のみサポートします。 OOBは、Out-of-Band-Managementで使用されます。
[-ip <i>IPAddress</i> ]	更新する IPアドレスを指定します。
[-u <i>UserName</i> ]	更新するユーザ名を指定します。 接続先のログインシステムによっては、大文字 / 小文字 が区別されることがあります。
[-p <i>Password</i> ]	更新するパスワードを指定します。 <i>Password</i> に、空文字 (“”) を指定した場合は、パスワードを削除します。

-ip、-u、-pオプションのいずれかを必ず指定してください。

### [構文例]

```
>ssc logicalmachine update-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -ip
192.168.1.3
>ssc logicalmachine update-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -p admin
>ssc logicalmachine update-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -u root
>ssc logicalmachine update-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -u root
-p root
>ssc logicalmachine update-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -ip
192.168.1.4 -p ""
>ssc logicalmachine update-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob -ip
192.168.1.105 -u administrator -p admin
```

## 2.15.6. 論理マシンアカウント削除

ホストの論理マシンアカウントを削除します。

### [構文]

```
ssc logicalmachine delete-account GroupName HostName -type ConnectionType
```



## [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	マシンアカウントを削除するホストが存在するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	対象となるホスト名を指定します。
-type <i>ConnectionType</i> (必須)	接続種別を指定します。“oob”のみサポートします。 OOBは、Out-of-Band-Managementで使用されます。

## [構文例]

```
>ssc logicalmachine delete-account Category1/Group-01 Host-001 -type oob
```

## 2.15.7. 論理マシンアカウント情報表示

ホストの論理マシンアカウント情報を表示します。

## [構文]

```
ssc logicalmachine show-account [GroupName [HostName]] [-vertical]
```

## [引数/オプション]

[ <i>GroupName</i> <i>HostName</i> ]	対象のホストが存在するグループ、ホスト指定します。 グループにはパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ) [ <i>GroupName</i> [ <i>HostName</i> ]] を省略した場合、すべてのホストが対象になります。 [ <i>HostName</i> ] を省略した場合、グループ配下のホストが対象になります。
[-vertical]	表示形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) [-vertical] を省略した場合、CSV形式で表示します。

## [構文例]

```
>ssc logicalmachine show-account -vertical  
>ssc logicalmachine show-account Category1/Group-01 -vertical  
>ssc logicalmachine show-account Category1/Group-01 Host-001 -vertical  
>ssc logicalmachine show-account Category1/Group-01 Host-001
```

## [表示例]

```
>ssc logicalmachine show-account -vertical  
[1]  
GroupName      : Category1/Group-01  
HostName       : Host-001  
AccountUserName : admin  
AccountHostName : 192.168.1.103  
[2]  
GroupName      : Category1/Group-02  
HostName       : Host-002  
AccountUserName : admin  
AccountHostName : 192.168.1.10
```

```
>ssc logicalmachine show-account Category1/Group-01 Host-001 -vertical
```

```
[1]
GroupName      : Category1/Group-01
HostName       : Host-001
AccountUserName : admin
AccountHostName : 192.168.1.103
```

```
>ssc logicalmachine show-account Category1/Group-01 Host-001
#GroupName, HostName, AccountUserName, AccountHostName
"Category1/Group-01", "Host-001", "admin", "192.168.1.103"
```

## 2.15.8. 論理マシンプロファイル作成

ホストに論理マシンプロファイルを作成します。

### [構文]

```
ssc logicalmachine create-profile GroupName HostName ProfileName -m
ManagerAddress -uuid vUUID [-force]
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	マシンプロファイルを定義しているホストが存在するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	対象となるホスト名を指定します。
<i>ProfileName</i> (必須)	プロファイル名を指定します。
-m <i>ManagerAddress</i> (必須)	プロファイルが有効なマネージャ (UCSM IP/EM IP) のアドレスを指定します。
-uuid <i>vUUID</i> (必須)	プロファイルの仮想UUIDを指定します。
[-force]	ホストにマシンプロファイルが存在した場合、マシンプロファイルを再作成します。 [-force] を省略した場合、ホストにマシンプロファイルがある場合、エラーとなります。

### [構文例]

```
>ssc logicalmachine create-profile Category1/Group-01 Host-001 #11_config -m
192.168.1.40 -uuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000
>ssc logicalmachine create-profile Category1/Group-02 Host-001
org-root/org-SSC-org/ls-ssc-slot01 -m 192.168.1.100 -uuid
30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000 -force
```

## 2.15.9. 論理マシンプロファイル更新

論理マシンプロファイルを更新します。

### [構文]

```
ssc logicalmachine update-profile GroupName HostName <[ProfileName] [-m
ManagerAddress] [-uuid vUUID] [-mac [NICNo], MAC] [-wwn [HBANo], WWPN, [WWNN]]>
```

## [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	マシンプロファイルを定義しているホストが存在するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント/カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	対象となるホスト名を指定します。
[ <i>ProfileName</i> ]	プロファイル名を指定します。
[-m <i>ManagerAddress</i> ]	プロファイルが有効なマネージャ (UCSM IP/EM IP) のアドレスを指定します。
[-uuid <i>vUUID</i> ]	プロファイルの仮想UUIDを指定します。
[-mac [ <i>NICNo</i> ], <i>MAC</i> ]	プロファイルのMACアドレスを指定します。 NIC番号、MACアドレスを "," で区切って指定してください。 NIC番号には1以上10以下を指定します。
[-wwn [ <i>HBANo</i> ], <i>WWPN</i> , [ <i>WWNN</i> ]]	プロファイルのWWNを指定します。 HBA番号、WWPN、WWNNを "," で区切って指定してください。 HBA番号には0以上9999以下を指定します。

## [構文例]

```
>ssc logicalmachine update-profile Category1/Group-01 Host-001 -m 192.168.1.101
>ssc logicalmachine update-profile Category1/Group-01 Host-001
  -mac 1,00:16:97:E7:22:66
>ssc logicalmachine update-profile Category1/Group-01 Host-001
  -wwn ,2003-0030-130F-4000,
>ssc logicalmachine update-profile Category1/Group-02 Host-002
  org-root/org-SSC-org/ls-ssc-slot05
>ssc logicalmachine update-profile Category1/Group-02 Host-002
  -uuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000 -mac ,00:16:97:E7:22:60
  -wwn ,2003-0030-130F-4000,2004-0030-130F-4000
```

## 2.15.10. 論理マシンプロファイル削除

論理マシンプロファイルを削除します。

### [構文]

```
ssc logicalmachine delete-profile GroupName HostName
```

## [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	マシンプロファイルを定義しているホストが存在するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。テナント、カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	対象となるホスト名を指定します。

## [構文例]

```
>ssc logicalmachine delete-profile Category1/Group-01 Host-001
```

## 2.16. スマートグループ

### 2.16.1. スマートグループの作成

スマートグループを作成します。

#### [構文]

```
ssc create smartgroup SmartGroupPath -target Target -formula Formula [-value Value[...]] [-join Join]
```

#### [引数/オプション]

<i>SmartGroupPath</i> (必須)	<p>スマートグループを登録するグループのパス、およびスマートグループ名を指定します。 グループのパスは、存在するパスを指定します。</p> <p>パスの先頭には、対象のビューを示す以下のいずれかを指定します。 * operations : [運用] ビュー * resource : [リソース] ビュー (マシンノード配下)</p> <p>(設定例) operations: /category1/group11/smartgroup101 : [運用] ビューの category1 配下の group11 ノード直下に smartgroup101 を作成します。 resource: /smartgroup102 : [リソース] ビュー のルートノード直下に smartgroup102 を作成します。</p> <p>指定したパスにスマートグループが存在しない場合、新規にスマートグループを作成します。 指定したパスにスマートグループが存在する場合、既存のスマートグループに対して、指定された条件を追加します。</p>
-target <i>Target</i> (必須)	<p>条件とする対象を指定します。 条件として設定可能な <i>Target</i> は、対象とするビューに依存します。</p>
-formula <i>Formula</i> (必須)	<p>条件の式を指定します。 条件として設定可能な <i>Formula</i> は、<i>Target</i> に依存します。</p>
[-value <i>Value</i> [...]]	<p>条件の値を指定します。 <i>Formula</i> に [Any]、または [NotAny] が指定されている場合のみ複数指定可能です。複数の値を指定する場合は、" "(スペース) で区切って指定します。 <i>Formula</i> に [Empty]、または [NotEmpty] が指定されている場合は、指定できません。</p>
[-join <i>Join</i> ]	<p>各種条件の結合方法を指定します。 スマートグループを複数の条件構成で作成する場合に指定が必要です。 また、このオプションに指定した内容は、スマートグループを新規に登録する場合のみ有効となります。(既に存在するスマートグループに対して条件を追加する場合は、無視します。)</p> <p>and : すべての条件に一致 or : いずれかの条件に一致</p> <p>省略した場合は、「and」として扱います。</p>

### [operations:]で利用可能な条件

対象のビューが、[operations:] の場合に利用可能なスマートグループ条件は以下です。

条件名	-target に設定可能な値	-formula に指定可能な値	-value に指定可能な値	備考
ホスト名 定義IPアドレス	HostName DefinedIpAddress	BeginsWith / EndsWith / Equal / NotEqual / Match / NotMatch  BeginsWith : ~から始まる EndsWith : ~で終わる Equal : ~と一致する NotEqual : ~と一致しない Match : ~を含む NotMatch : ~を含まない	任意の文字列	
サービス開始日までの残日数	DaysToServiceStart	LessEqual / GreaterEqual  LessEqual : ~以下 GreaterEqual : ~以上	任意の数値 (0~999)	既にサービス開始済み(リソース割当済み)のものは対象としない
サービス終了日からの経過日数	DaysFromServiceEnd	LessEqual / GreaterEqual  LessEqual : ~以下 GreaterEqual : ~以上	任意の数値 (0~999)	既にサービス終了済み(リソース解除済み)のものは対象としない
サービス開始日 サービス終了日	ServiceStartDate ServiceEndDate	Equal / NotEqual / LessEqual / GreaterEqual  Equal : ~と一致する NotEqual : ~と一致しない LessEqual : ~以下 GreaterEqual : ~以上	日付 (yyyy/mm/dd)	

### [resource:]で利用可能な条件

対象のビューが、[resource:] の場合に利用可能なスマートグループ条件は以下です。

条件名	-target に設定可能な値	-formula に指定可能な値	-value に指定可能な値	備考
マシン名 モデル名 マシンタグ 位置情報 ホストタグ OS名	MachineName ModelName MachineTag Location HostTag OsName	BeginsWith / EndsWith / Match / NotMatch / Equal / NotEqual / Empty / NotEmpty  BeginsWith : ~から始まる EndsWith : ~で終わる Match : ~を含む NotMatch : ~を含まない Equal : ~と一致する	任意の文字列	

		NotEqual : ~と一致しない Empty : 未設定 NotEmpty : 設定済み		
CPU種別	CpuName	BeginsWith / EndsWith / Equal / NotEqual / Match / NotMatch  BeginsWith : ~から始まる EndsWith : ~で終わる Equal : ~と一致する NotEqual : ~と一致しない Match : ~を含む NotMatch : ~を含まない	任意の文字列	
マシン種別	MachineType	Any / NotAny  Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Unitary / Blade / VirtualMachine / LostVirtualMachine / VMServer / Vmware / Xen / HyperV / Kvm  Unitary : 物理コンピュータ Blade : ブレードサーバ VirtualMachine : 仮想マシン LostVirtualMachine : 削除された仮想マシン VMServer : 仮想マシンサーバ Vmware : VmWare (仮想マシン または 仮想マシンサーバ) Xen : Xen (仮想マシン または 仮想マシンサーバ) HyperV : Hyper-V (仮想マシン または 仮想マシンサーバ) Kvm : Kvm (仮想マシン または 仮想マシンサーバ)	
電源状態	PowerStatus	Any / NotAny  Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Unknown / Off / On / Suspend  Unknown : 不明 Off : Off On : On Suspend : サスペンド	
稼働ステータス	RunningStatus	Any / NotAny  Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Off / On  Off : 運用待機/未割当 On : 運用稼動中	
OSステータス	OperatingSystemStatus	Any / NotAny  Any : 次のいずれかに一致する	Unknown / Off / On  Unknown : 不明 Off : Off	

		NotAny : 次のいずれとも一致しない	On : On 複数選択可能
ハードウェアステータス	HardwareStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Ready / Faulted / Degraded Ready : 正常 Faulted : 故障 Degraded : 機能低下 複数選択可能
実行ステータス	ExecuteStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Wait / InProcess / Abort Wait : 待機中 InProcess : 処理中 Abort : 異常終了 複数選択可能
ポリシー状態	PolicyStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Unknown / Off / Partial / On Unknown : 不明 Off : 全て無効 Partial : 一部有効 On : 全て有効 複数選択可能
メンテナンスステータス	MaintenanceStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Off / On Off : Off On : On 複数選択可能
センサー異常状態	SensorCurrentStatus	Any Any : 次のいずれかに一致する	WarningOrCritical / Critical WarningOrCritical : 警告または異常 Critical : 異常 いずれかのみ選択可能
IPMIの接続状態	IpmiStatus	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Unknown / Connected / NotResponding / NotAuthenticate / Invalid Unknown : 接続未確認 Connected : 接続可能 NotResponding : 接続不可 NotAuthenticate : 認証失敗 Invalid : 無効 複数選択可能
ディスクタイプ	VmDiskType	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Thin / Thick / Differencing Thin : 可変 Thick : 固定 Differencing : 差分 複数選択可能

VM作成方法	VmCreatingMethod	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	FullClone / HWProfileClone / DiffClone / DiskClone FullClone : Full Clone HWProfileClone : HW Profile Clone DiffClone : Differential Clone DiskClone : Disk Clone 複数選択可能
ディスク用途	VmDiskUsage	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	SystemDisk / DataStore / ExtendedDisk SystemDisk : システムディスク DataStore : データストア ExtendedDisk : 拡張ディスク 複数選択可能
メモリサイズ	MemorySize	Equal / LessEqual / GreaterEqual Equal : ~と一致する LessEqual : ~以下 GreaterEqual : ~以上	任意の数値(GByte) (0~99999)
システムディスク使用量 差分 ディスク使用量 データストア使用量 拡張ディスク使用量	VmSystemDiskUsed VmDifferencingDiskUsed VmDataStoreUsed VmExtendedDiskUsed	LessEqual / GreaterEqual LessEqual : ~以下 GreaterEqual : ~以上	任意の数値(GByte) (0~2097152) 小数点1桁
CPUソケット数 CPUスレッド数	CpuSocket CpuThread	Equal / NotEqual / LessEqual / GreaterEqual Equal : ~と一致する NotEqual : ~と一致しない LessEqual : ~以下 GreaterEqual : ~以上	任意の数値(GByte) (0~99999)
CPU周波数	CpuClock	Equal / NotEqual / LessEqual / GreaterEqual Equal : ~と一致する NotEqual : ~と一致しない LessEqual : ~以下	任意の数値(GHz) (0~2097152) 小数点1桁



		GreaterEqual : ~以上	
グループプール設定	GroupPoolSetting	Empty / NotEmpty Empty : 未設定 NotEmpty : 設定済み	指定できません
ベンダー	Vendor	Any / NotAny Any : 次のいずれかに一致する NotAny : 次のいずれとも一致しない	Unknown / IBM / HP / NEC / DELL / Cisco Unknown : 不明 IBM : IBM HP : HP NEC : NEC DELL : DELL Cisco : Cisco 複数選択可能
ベンダーID	VendorID	Equal / NotEqual Equal : ~と一致する NotEqual : ~と一致しない	任意の数値 (0~2147483647)

#### [構文例]

```
[リソース] ビューのマシンノードの group1配下の subgroup11直下 へ 「電源状態がオフ、またはサスペンド」 の smartgroup101 を作成する
>ssc create smartgroup resource:/group1/subgroup11/smartgroup101 -target PowerStatus -formula Any -value Off Suspend
[リソース] ビューのマシンノードの group1直下 へ 「電源状態がオフ、またはサスペンド」「または「ハードウェア状態が正常 以外」の smartgroup102 を作成する
>ssc create smartgroup resource:/group1/smartgroup102 -target PowerStatus -formula Any -value Off Suspend -join or
>ssc create smartgroup resource:/group1/smartgroup102 -target HardwareStatus -formula NotAny -value Ready -join or
[リソース] ビューのマシンノード直下へ「マシン種別がVMS」かつ「マシン名にExpressを含む」かつ「実行ステータスが待機中、または処理中」のsmartgroup103 を作成する
>ssc create smartgroup resource:/smartgroup103 -target MachineType -formula Any -value VmServer -join and
>ssc create smartgroup resource:/smartgroup103 -target MachineName -formula Match -value Express -join and
>ssc create smartgroup resource:/smartgroup103 -target ExecuteStatus -formula Any -value Wait InProcess -join and
```

## 2.16.2. スマートグループの削除

スマートグループを削除します。

#### [構文]

```
ssc delete smartgroup GroupPath [-lump]
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupPath</i> (必須)	削除するスマートグループが登録されているグループパス、またはスマートグループパスを指定します。 グループのパスは、存在するパスを指定します。
--------------------------	---

	<p>パスの先頭には、対象のビューを示す以下のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* operations : [運用] ビュー</li> <li>* resource : [リソース] ビュー (マシンノード配下)</li> </ul> <p>(設定例)</p> <p>operations:/category1/group11/smartgroup101 : [運用] ビューの category1 配下の group11 ノード直下から smartgroup101 を削除します。</p> <p>resource:/smartgroup102 : [リソース] ビュー のルートノード直下の smartgroup102 を削除します。</p>
[-lump]	指定したグループパス直下のスマートグループを一括削除します。 <i>GroupPath</i> にグループパスを指定した場合のみ有効となります。

### 【構文例】

```
[リソース] ビューのgroup1配下のsubgroup11直下からsmartgroup101を削除する
>ssc delete smartgroup resource:/group1/subgroup11/smartgroup101
[リソース]ビューのgroup1配下のsubgroup11直下のスマートグループをすべて削除する
>ssc delete smartgroup resource:/group1/subgroup11 -lump
```

## 2.16.3. スマートグループ設定情報の表示

スマートグループ設定情報を表示します。

### 【構文】

```
ssc show smartgroup GroupPath [-detail]
```

### 【引数/オプション】

<i>GroupPath</i> (必須)	<p>参照するグループパス、またはスマートグループパスを指定します。 パスは、存在するパスを指定します。</p> <p>パスの先頭には、対象のビューを示す以下のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* operations : [運用] ビュー</li> <li>* resource : [リソース] ビュー (マシンノード配下)</li> </ul> <p>(設定例)</p> <p>operations:/category1/group11/smartgroup101 : [運用] ビューのcategory1 配下のgroup11ノード直下の smartgroup101 の設定情報を表示します。</p> <p>operations:/category1/group11 : [運用] ビューのcategory1配下のgroup11 ノード配下の 全スマートグループ の設定情報を表示します。</p> <p>resource:/smartgroup102 : [リソース] ビューのルートノード直下の smartgroup102 の設定情報を表示します。</p> <p>resource/: [リソース] ビューの 全スマートグループ の設定情報を表示します。</p>
[-detail]	スマートグループ設定情報を詳細表示します。

### 【構文例】

```
[運用] ビューのcategory1配下のgroup11直下のsmartgroup101の設定情報を表示する
>ssc show smartgroup operations:/category1/group11/smartgroup101
[運用] ビューのcategory1配下のgroup11直下のすべてのスマートグループの設定情報を詳細表示する
>ssc show smartgroup operations:/category1/group11 -detail
[リソース] ビューのマシンノード直下のsmartgroup102の設定情報を詳細表示する
>ssc show smartgroup resource:/smartgroup102 -detail
[リソース] ビューのすべてのスマートグループの設定情報を表示する
```

```
>ssc show smartgroup resource:/
```

## 2.16.4. スマートグループのエクスポート

スマートグループをXMLファイルへエクスポートします。

### [構文]

```
ssc export smartgroup FileName GroupPath
```

### [引数/オプション]

<i>FileName</i> (必須)	エクスポートするスマートグループ情報のXMLファイル名を指定します。 ファイル名のパスに空白文字を含む場合、二重引用符 (") で囲みます。 ファイル名のみを指定した場合、本コマンド実行時のカレントフォルダが対象となります。  指定したフォルダが存在しない場合、フォルダを作成します。 指定したファイルが存在する場合、上書きします。
<i>GroupPath</i> (必須)	エクスポート対象とするグループまでのパスを指定します。グループのパスは、存在するパスを指定します。 パスの先頭には、対象のビューを示す以下のいずれかを指定します。 * operations : [運用] ビュー * resource : [リソース] ビュー (マシンノード配下)  (設定例) operations:/category1/group11 : [運用] ビューの category1配下のgroup11 ノード直下のすべてのスマートグループをエクスポートします。 resource:/group2/group12/smartgroup102 : [リソース] ビューの group2配下 のgroup12ノード直下の smartgroup102 のみをエクスポートします。 resource:/ : [リソース] ビューのルートノード直下のすべてのスマートグループをエクス ポートします。

### [構文例]

```
[運用] ビューのcategory1配下のgroup11直下のすべてのスマートグループを  
c:¥ssc¥smartgroup.xml へエクスポートする  
>ssc export smartgroup c:¥ssc¥smartgroup.xml operations:/category1/group11  
[リソース] ビューのgroup2配下のgroup12直下のsmartgroup102を  
c:¥ssc¥smartgroup.xml へエクスポートする  
>ssc export smartgroup c:¥ssc¥smartgroup.xml  
resource:/group2/group12/smartgroup102  
[リソース] ビューのマシンノード直下のすべてのスマートグループを  
c:¥ssc¥smartgroup.xml へエクスポートする  
>ssc export smartgroup c:¥ssc¥smartgroup.xml resource:/  
[運用] ビューの運用ノード直下のsmartgroup201を c:¥ssc¥smartgroup.xml へ  
エクスポートする  
>ssc export smartgroup c:¥ssc¥smartgroup.xml operations:/smartgroup201
```

## 2.16.5. スマートグループのインポート

スマートグループをXMLファイルからインポートします。

### [構文]

```
ssc import smartgroup FileName GroupPath
```

## [引数/オプション]

<i>FileName</i> (必須)	インポートするスマートグループ情報のXMLファイル名を指定します。 ファイル名のパスに空白文字を含む場合、二重引用符 (") で囲みます。 ファイル名のみを指定した場合、本コマンド実行時のカレントフォルダのファイルが対象となります。
<i>GroupPath</i> (必須)	インポートするスマートグループを配置するグループパスを指定します。グループのパスは、存在するパスを指定します。 パスの先頭には、対象のビューを示す以下のいずれかを指定します。 * operations : [運用] ビュー * resource : [リソース] ビュー (マシンノード配下)  (設定例) operations: /category1/group11 : [運用] ビューのcategory1配下のgroup11ノード直下へXMLファイル内のスマートグループをインポートします。 resource: / : [リソース] ビューのルートノード直下へXMLファイル内のスマートグループをインポートします。

インポートの途中で失敗した場合、すべてのインポートはロールバックされます。

## [構文例]

```
[運用] ビューのcategory1配下のgroup11直下へ c:¥ssc¥smartgroup.xml 内の  
スマートグループをインポートする  
>ssc import smartgroup c:¥ssc¥smartgroup.xml operations:/category1/group11  
[リソース] ビューのマシンノード直下へ c:¥ssc¥smartgroup.xml 内のスマート  
グループをインポートする  
>ssc import smartgroup c:¥ssc¥smartgroup.xml resource:/
```

## [注]

- エクスポートされたXMLファイルを編集してインポートした場合、以下のような現象が発生する可能性がありますので、編集したXMLファイルをインポートしないでください。
  - インポートに失敗する
  - スマートグループ編集画面で条件が正しく表示されない
  - スマートグループ指定時に期待した結果が得られない

## 2.17. プロファイル

### 2.17.1. 性能監視プロファイルの作成

性能監視プロファイルを作成します。

#### [構文]

```
ssc monitoringprofile create ProfileName [-description Description] [-source CopyProfileName] [-perfinfo <name=value | id=value> [interval=value] [, <name=value | id=value> [interval=value]....]]
```

#### [引数/オプション]

<i>ProfileName</i> (必須)	作成する性能監視プロファイルの名前を指定します。 入力できる文字数は63文字以内です。 使用可能な文字列は半角英数字、半角空白、および半角記号 ("(", ")", "-", "_") です。
[-description <i>Description</i> ]	性能監視プロファイルの説明を指定します。 入力できる文字数は255文字以内です。
[-source <i>CopyProfileName</i> ]	コピーする性能情報リストを持つ性能監視プロファイルの名前を指定します。
[-perfinfo <name= <i>value</i>   id= <i>value</i> > [interval= <i>value</i> ] [, <name= <i>value</i>   id= <i>value</i> > [interval= <i>value</i> ]....]]	性能情報を指定します。 複数指定可能です。 複数指定するときは、"," (カンマ) で区切って次を指定してください。  name : 性能情報の名前を指定します。 入力できる文字数は256文字以内です。 SystemMonitor性能監視で定義したカスタム性能情報を、指定する場合nameオプションに加えて、idオプションとして "id=0" を指定してください。 id : 性能情報のMetricIdを指定します。 指定可能な値は下記参考資料を参照してください。 interval : 性能情報の収集間隔を指定します。 収集間隔は以下のいずれかを指定します。 1分間隔 : "00:01" 5分間隔 : "00:05" 30分間隔 : "00:30" 1時間間隔 : "01:00" 4時間間隔 : "04:00" 1日間隔 : "1" 1週間間隔 : "7" 1ヶ月間隔 : "30" 既定値は"00:05" (5分) です。

#### [構文例]

```
>ssc monitoringprofile create profile1 -description "This is profile1." -perfinfo name="CPU Usage (%)" interval="00:01"  
>ssc monitoringprofile create profile2 -description "This is profile2." -perfinfo id=1, name="Disk Space (MB)" interval="1"  
>ssc monitoringprofile create profile2 -description "This is profile2." -source "profile1" -perfinfo id=0 name=="CPU Usage (GHz)", name="Disk Space (MB)" interval="1"
```

## [参考資料]

name, idに指定可能な値一覧

性能情報の名前(Name)	MetricId
CPU Usage (%)	1
CPU System Usage (%)	2
CPU User Usage (%)	3
CPU Usage (MHz)	4
Guest CPU Usage (%)	11
Guest CPU Usage (MHz)	12
Host CPU Usage (%)	13
Host CPU Usage (MHz)	14
Disk Transfer Rate (Bytes/sec)	21
Disk IO Count (IO/sec)	22
Disk Read Transfer Rate (Bytes/sec)	23
Disk Read Count (IO/sec)	24
Disk Write Transfer Rate (Bytes/sec)	25
Disk Write Count (IO/sec)	26
Disk Space (MB)	27
Disk Space Ratio (%)	28
Guest Disk Transfer Rate (Bytes/sec)	31
Guest Disk Usage (MB)	37
Guest Disk Usage (%)	38
Network Packet Transfer Rate (Bytes/sec)	41
Network Packet Reception Rate (Bytes/sec)	42
Network Packet Transmission Rate (Bytes/sec)	43
Guest Network Transfer Rate (Bytes/sec)	51
Physical Memory Space (MB)	61
Physical Memory Space Ratio (%)	62
Guest Memory Usage (%)	71
Guest Memory Usage (MB)	72
Host Memory Usage (%)	73
Host Memory Usage (MB)	74
Current Power (W)	101

## 2.17.2. 性能監視プロファイルの更新

性能監視プロファイルの設定内容を更新します。

### [構文]

```
ssc monitoringprofile update ProfileName [-description Description] [-perfinfo  
<name=value | id=value> [interval=value] [, <name=value | id=value>  
[interval=value]....] [-delperfinfo <name=value | id=value> [<name=value |  
id=value>]....]
```

## [引数/オプション]

<i>ProfileName</i> (必須)	更新する性能監視プロファイルの名前を指定します。
<code>[-description <i>Description</i>]</code>	性能監視プロファイルの説明を更新します。 入力できる文字数は255文字以内です。
<code>[-perfinfo &lt;name=<i>value</i>   id=<i>value</i>&gt; [interval=<i>value</i>] [, &lt;name=<i>value</i>   id=<i>value</i>&gt; [interval=<i>value</i>]...]</code>	性能情報を指定します。複数指定可能です。 複数指定するときは、"," (カンマ) で区切って次を指定してください。  name : 性能情報の名前を指定します。 入力できる文字数は256文字以内です。 SystemMonitor性能監視で定義したカスタム性能情報を、指定する場合nameオプションに加えて、idオプションとして "id=0" を指定してください。 id : 性能情報のMetricIdを指定します。 指定可能な値は「2.17.1. 性能監視プロファイルの作成」参考資料を参照してください。 interval : 性能情報の収集間隔を指定します。 収集間隔は以下のいずれかを指定します。 1分間隔 : "00:01" 5分間隔 : "00:05" 30分間隔 : "00:30" 1時間間隔 : "01:00" 4時間間隔 : "04:00" 1日間隔 : "1" 1週間間隔 : "7" 1ヶ月間隔 : "30" 既定値は"00:05" (5分) です。 指定する性能情報が登録済みの場合、指定する収集間隔を更新します。 指定する性能情報が未登録の場合、指定する性能情報 (名前と収集間隔) を追加します。
<code>[-delperfinfo &lt;name=<i>value</i>   id=<i>value</i>&gt; [&lt;name=<i>value</i>   id=<i>value</i>&gt;]...]</code>	削除する性能情報を指定します。 name : 性能情報の名前を指定します。 id : 性能情報のMetricIdを指定します。 指定可能な値は「2.17.1. 性能監視プロファイルの作成」参考資料を参照してください。

## [構文例]

```
>ssc monitoringprofile update profile1 -description "This is the profile1."
>ssc monitoringprofile update profile1 -perfinfo name="CPU Usage (%)"
>ssc monitoringprofile update profile2 -description "This is the profile2."
  -perfinfo id=1 interval="00:30" , name="Disk Space (MB)"
>ssc monitoringprofile update profile2 -description "This is the profile2."
  -perfinfo id=0 name="CPU Usage (GHz)" interval="00:30" ,
  name="Disk Space (MB)" -delperfinfo id=2 name="Current Power (W)"
```

### 2.17.3. 性能監視プロファイルの削除

性能監視プロファイルを削除します。

#### [構文]

```
ssc monitoringprofile delete ProfileName [ProfileName...] [-i]
```

## [引数/オプション]

<i>ProfileName</i> [ <i>ProfileName...</i> ] (必須)	性能監視プロファイルの名前を指定します。 この性能監視プロファイルが任意のグループ・モデルに割り当てられた場合、削除できません。
[-i]	確認メッセージを表示します。

## [構文例]

```
>ssc monitoringprofile delete profile1  
>ssc monitoringprofile delete profile1 profile2 -i
```

## 2.17.4. 性能監視プロファイルの表示

性能監視プロファイルの設定内容を表示します。

### [構文]

```
ssc monitoringprofile show [<-path Path | -profile ProfileName>]
```

### [引数/オプション]

-path <i>Path</i>	設定対象運用グループ、モデルのフルパスを指定します。 ビュータイプ (operations:/) は省略可能です。 テナント、カテゴリは指定できません。 例: Category/Group モデル指定の場合 Category/Group/Model モデル指定の場合 (ビュータイプ指定時) operations:/Category/Group/Model
-profile <i>ProfileName</i>	性能監視プロファイルの名前を指定します。 指定した性能監視プロファイルの設定を表示します。

### [注]

- -pathと-profileを指定しない場合、全性能監視プロファイルの設定情報を表示します。

### [表示例]

```
・すべての性能監視プロファイルの表示  
>ssc monitoringprofile show  
[MonitoringProfile][1] -----  
Profile Name      : Standard Monitoring Profile (1min)  
Description       :  
[PerformanceInformation][1]  
Performance Name  : CPU Usage (%)  
Interval          : 1分  
[PerformanceInformation][2]  
Performance Name  : Disk Transfer Rate (Bytes/sec)  
Interval          : 1分  
[PerformanceInformation][3]  
Performance Name  : Disk Space (MB)  
Interval          : 1分  
[PerformanceInformation][4]  
Performance Name  : Physical Memory Space (MB)  
Interval          : 1分  
[MonitoringProfile][2] -----  
Profile Name      : Standard Monitoring Profile (5min)  
Description       :
```



```

[PerformanceInformation][1]
  Performance Name : CPU Usage (%)
  Interval         : 5分
[PerformanceInformation][2]
  Performance Name : Disk Transfer Rate (Bytes/sec)
  Interval         : 5分
[PerformanceInformation][3]
  Performance Name : Disk Space (MB)
  Interval         : 5分
[PerformanceInformation][4]
  Performance Name : Physical Memory Space (MB)
  Interval         : 5分
省略
[MonitoringProfile][10] -----
  Profile Name      : Physical Machine Monitoring Profile (30min)
  Description       :
[PerformanceInformation][1]
  Performance Name : CPU Usage (%)
  Interval         : 30分
[PerformanceInformation][2]
  Performance Name : Disk Transfer Rate (Bytes/sec)
  Interval         : 30分
[PerformanceInformation][3]
  Performance Name : Disk Space (MB)
  Interval         : 30分
[PerformanceInformation][4]
  Performance Name : Physical Memory Space (MB)
  Interval         : 30分
[PerformanceInformation][5]
  Performance Name : Current Power (W)
  Interval         : 30分
・ 指定の性能監視プロファイルの表示
>ssc monitoringprofile show -profile "Standard Monitoring Profile (1min)"
[MonitoringProfile]
  Profile Name      : Standard Monitoring Profile (1min)
  Description       :
[PerformanceInformation][1]
  Performance Name : CPU Usage (%)
  Interval         : 1分
[PerformanceInformation][2]
  Performance Name : Disk Transfer Rate (Bytes/sec)
  Interval         : 1分
[PerformanceInformation][3]
  Performance Name : Disk Space (MB)
  Interval         : 1分
[PerformanceInformation][4]
  Performance Name : Physical Memory Space (MB)
  Interval         : 1分
・ グループに設定されている性能監視プロファイルの表示 (グループに設定あり)
>ssc monitoringprofile show -path group1
[MonitoringProfile]
  Profile Name      : Standard Monitoring Profile (1min)
  Description       :
[PerformanceInformation][1]
  Performance Name : CPU Usage (%)
  Interval         : 1分
[PerformanceInformation][2]
  Performance Name : Disk Transfer Rate (Bytes/sec)
  Interval         : 1分
[PerformanceInformation][3]
  Performance Name : Disk Space (MB)

```

```

Interval      : 1分
[PerformanceInformation][4]
Performance Name : Physical Memory Space (MB)
Interval      : 1分
[SystemMonitor ManagementServer]
IP Address    : 127.0.0.1
Port Number   : 26200
[Host Access Account]
Account       : root
Password      : *****
・グループに設定されている性能監視プロファイルの表示（グループに設定なし）
>ssc monitoringprofile show -path group2
[MonitoringProfile]
Profile Name  :
Description   :

```

## 2.17.5. 性能監視プロファイルのグループへの設定

性能監視プロファイルをグループ（グループ / モデル）に関連付けます。

### [構文]

```

ssc monitoringprofile set Path <ProfileName [-ip IPAddress] [-port PortNumber]
[-account Account] [-p Password] | -delete | -disable>

```

### [引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	設定対象運用グループ、モデルのフルパスを指定します。 ビュータイプ (operations:/) は省略可能です。 テナント、カテゴリは指定できません。 例: グループ指定の場合 Category/Group モデル指定の場合 Category/Group/Model モデル指定の場合 (ビュータイプ指定時) operations:/Category/Group/Model
<i>ProfileName</i>	性能監視プロファイル名を指定します。
<i>[-ip IPAddress]</i>	SystemMonitor管理サーバのIPアドレスを指定します。 省略すると、"127.0.0.1" を使用します。
<i>[-port PortNumber]</i>	SystemMonitor管理サーバのポート番号を指定します。 1から65535の範囲で指定します。 省略すると、"26200" を使用します。
<i>[-account Account]</i>	監視対象ホストへのアクセスに利用するアカウントを指定します。 監視対象ホストへ直接アクセスしてデータを取得する必要がある場合、このアカウントを利用します。 入力できる文字数は255文字以内です。
<i>[-p Password]</i>	監視対象ホストへのアクセスに利用するパスワードを指定します。 監視対象ホストへ直接アクセスしてデータを取得する必要がある場合、このパスワードを利用します。 入力できる文字数は256文字以内です。
<i>-delete</i>	性能監視設定情報を消去します。 指定したパスの性能監視設定情報を消去します。
<i>-disable</i>	性能監視設定情報を無効にします。 指定したパスの性能監視設定情報を無効にします。

### [構文例]

```
>ssc monitoringprofile set Group1 profile1
```

```

>ssc monitoringprofile set Group1 profile1 -ip 127.0.0.1
>ssc monitoringprofile set Group1 profile1 -ip 127.0.0.1 -port 26200
>ssc monitoringprofile set Group1 profile1 -ip 127.0.0.1 -port 26200
-account root -p root123
>ssc monitoringprofile set Group1 -delete
>ssc monitoringprofile set Group1 -disable

```

## 2.17.6. 名前付きホストプロファイルの作成

名前付きホストプロファイルを作成します。

### 【構文】

```

ssc hostprofile create ProfileName OsType <[-os [osname=<name | code>]
[password=value] [SysprepFile=value] [owner=value] [orgname=value]
[timezone=value] [productkey=value] [ConnectedNumber=value] [DomainType=
<workgroup | domain>] [DomainName=value] [DomainAccount=value]
[DomainPassword=value]] [-dns NICNo,
<Primary, Secondary, PrimaryWINS, SecondaryWINS | Primary, Secondary, Tertiary> ...]
[-extend Command=value] | -delete [dns | extend]> [-dns4 NICNo, <Primary |
Primary, Secondary | Primary, Secondary, Tertiary> ...] [-dns6 NICNo, <Primary |
Primary, Secondary | Primary, Secondary, Tertiary> ...] [-wins4 NICNo, <Primary |
Primary, Secondary> ...]

```

### 【引数/オプション】

ProfileName (必須)	名前付きホストプロファイル名を指定します。
OsType (必須)	OS種別を指定します。 以下のOsTypeを指定できます。 いずれか1つを指定してください。 OsType : OS種別 Windows: Windows Server Windows-client: Windows Client Linux: Linux
[-os [osname=<name   code>] [password=value] [SysprepFile=value] [owner=value] [orgname=value] [timezone=value] [productkey=value] [ConnectedNumber=value] [DomainType=<workgroup   domain>] [DomainName=value] [DomainAccount=value] [DomainPassword=value]]	OS情報を指定します。 "=" の前後に空白は指定できません。  osname : OS名 OS名のコード、またはWebUIに表示されている文字列を 指定します。 「3.2.6. テンプレートの作成」の【参考資料】を参照して ください。  password : パスワード SysprepFile : インポートするSysprepファイル OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。  owner : Owner名 OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。  orgname : 組織名 OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。  timezone : タイムゾーン OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。 タイムゾーンのコード、またはWebUIで表示されている文 字列を指定します。

	<p>「3.2.6. テンプレートの作成」の【参考資料】を参照してください。</p> <p>値は Microsoft Time Zone Index Values で既定されたものと同じです。</p> <p>productkey : プロダクトキー OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。 xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx の形式で入力してください。</p> <p>ConnectedNumber : 同時接続サーバ数 OS種別がWindows Serverの場合のみ指定できます。 指定しない場合は、ライセンスモードが「接続クライアント」になります。</p> <p>DomainType : ワークグループ設定 ワークグループの場合workgroup、ドメインの場合domainと指定します。 OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。</p> <p>DomainName : ドメイン (ワークグループ) 名</p> <p>DomainAccount : ドメインアカウント OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。</p> <p>DomainPassword : ドメインパスワード OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。</p>
<p>[-dns <i>NICNo</i>, &lt;<i>Primary</i>, <i>Secondary</i>, <i>PrimaryWINS</i>, <i>SecondaryWINS</i>   <i>Primary</i>, <i>Secondary</i>, <i>Tertiary</i>&gt; ...]</p>	<p>DNS情報を指定します。</p> <p><i>NICNo</i> : NIC番号を指定します。 <i>Primary</i> : 優先(プライマリ)DNS <i>Secondary</i> : 代替(セカンダリ)DNS</p> <p><i>Tertiary</i> : ターシャリDNS OS種別がLinuxの場合のみ指定できます。</p> <p><i>PrimaryWINS</i> : 優先(プライマリ)WINS OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。</p> <p><i>SecondaryWINS</i> : 代替(セカンダリ)WINS OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。 [-dns4]、[-dns6]、および [-wins4] と同時に指定できません。</p>
<p>[-extend Command=<i>value</i>]</p>	<p>拡張情報の設定をします。 "=" の前後に空白は指定できません。</p> <p>Command : 追加するコマンドを指定します。 複数指定時は、"," で区切ってください。</p>
<p>-delete [dns   extend]</p>	<p>設定情報を消去します。 オプション名を指定する場合、オプション名の設定情報を消去します。 その他のオプションとは分けて実行してください。</p> <p>dns : DNS情報 DNS情報を削除します。</p> <p>extend : 拡張情報 拡張情報を削除します。</p> <p>オプション名を指定しない場合は、ホストプロファイルを消去します。</p>

	OS情報は消去できません。
<code>[-dns4 NICNo, &lt;Primary   Primary,Secondary   Primary,Secondary,Tertiary&gt; ...]</code>	DNS情報(IPv4)を指定します。  <i>NICNo</i> : NIC番号を指定します。 <i>Primary</i> : 優先(プライマリ)DNS <i>Secondary</i> : 代替(セカンダリ)DNS <i>Tertiary</i> : ターシャリDNS OS種別がLinuxの場合のみ指定できます。 [-dns] と同時に指定できません。
<code>[-dns6 NICNo, &lt;Primary   Primary,Secondary   Primary,Secondary,Tertiary&gt; ...]</code>	DNS情報(IPv6)を指定します。  <i>NICNo</i> : NIC番号を指定します。 <i>Primary</i> : 優先(プライマリ)DNS <i>Secondary</i> : 代替(セカンダリ)DNS <i>Tertiary</i> : ターシャリDNS OS種別がLinuxの場合のみ指定できます。 [-dns] と同時に指定できません。
<code>[-wins4 NICNo, &lt;Primary   Primary,Secondary&gt; ...]</code>	WINS情報(IPv4)を指定します。 OS種別がWindowsの場合のみ指定できます。  <i>NICNo</i> : NIC番号を指定します。 <i>Primary</i> : 優先(プライマリ)WINS <i>Secondary</i> : 代替(セカンダリ)WINS [-dns] と同時に指定できません。

#### [注]

- -osオプション指定時、オプションの設定内容をすべて設定して下さい。

#### [構文例]

```
Windows OS
>ssc hostprofile create NamedHostProfile1 Windows
-os osname="Windows Server 2003 Enterprise (x64)" password="pass"
owner="ABC Corporation" orgname="1st section"
timezone=235 productkey=12345-67890-ABCD1-EFG21-HI123
DomainType=workgroup DomainName="WorkGroup"
-dns 1,192.168.1.1,192.168.1.2 2,10.108.110.1,10.108.110.2,10.108.110.3
>ssc hostprofile create NamedHostProfile1 Windows
-os osname="Windows Server 2003 Enterprise (x64)" password="pass"
owner="ABC Corporation" orgname="1st section"
timezone=235 productkey=12345-67890-ABCD1-EFG21-HI123
DomainType=workgroup DomainName="WorkGroup"
-dns4 1,192.168.1.100,192.168.1.101
-dns6 1,::192.168.1.150 3,::192.168.1.152 -wins4 1,192.168.1.200 2,192.168.1.201
Linux OS
>ssc hostprofile create NamedHostProfile2 Linux
-os osname="Red Hat Enterprise Linux AS 4" password="pass"
DomainName="Domain1" -dns 1,192.168.1.1,192.168.1.2,192.168.1.3
-extend Command=startcmd1,startcmd2
>ssc hostprofile create NamedHostProfile2 Linux
-os osname="Red Hat Enterprise Linux AS 4" password="pass"
DomainName="Domain1"
-dns4 1,192.168.1.100,192.168.1.101,192.168.1.102
-dns6 1,::192.168.1.150,::192.168.1.151
-extend Command=startcmd1,startcmd2
Windows-Client
>ssc hostprofile create NamedHostProfile3 Windows-client
-os osname="Windows Vista Business (x64)" password="pass"
owner="ABC Corporation" orgname="1st section"
```

```

timezone=235 productkey=12345-67890-ABCD1-EFG21-HI123 ConnectedNumber=10
DomainType=domain DomainName="Domain1" DomainAccount="admin"
DomainPassword=adminpass -dns 1,192.168.1.1,192.168.1.2
2,10.108.110.1,10.108.110.2,10.108.110.3
-delete
>ssc hostprofile create NamedHostProfile1 Windows -delete dns
>ssc hostprofile create NamedHostProfile2 Linux -delete

```

## 2.17.7. 名前付きマシンプロファイルの作成

名前付きマシンプロファイルを作成します。

### 【構文】

```

ssc profile create ProfileName <[-private [GroupName]] [-cost costValue] [-cpu
count=value [share=value] [reservation=value] [limit=value]] [-mem size=value
[share=value] [reservation=value] [limit=value]] [-vnet VirtualNetworkName...]
[-vnettype <vlan | network | edit>...] [-systemdisk size=value [type=<thin |
thick>] [independent] [datastoretag=value | datastore]] [-extdisk size=value
[ctrl=value [position=value]] [type=<thin | thick | rdm-p | rdm-v>]
[independent] [datastoretag=value | datastore] [lun], ...] | -delete [cost |
cpu | mem | vnet | systemdisk | extdisk]>

```

### 【引数/オプション】

<i>ProfileName</i> (必須)	名前付きマシンプロファイル名を指定します。
[-private [ <i>GroupName</i> ]]	専有マシンプロファイル作成時に指定します。 <i>GroupName</i> にマシンプロファイルを割り当てる、リソース管理IDが振られたテナント、カテゴリを指定します。(省略可) このオプションを指定しない場合は、共有マシンプロファイルが作成されます。
[-cost <i>costValue</i> ]	コスト値を指定します。1から1000の範囲で指定します。
[-cpu count= <i>value</i> [share= <i>value</i> ] [reservation= <i>value</i> ] [limit= <i>value</i> ]]	<p>CPU数とシェア値、予約値、および制限値を指定します。 CPU数は必ず指定してください。 "=" の前後に空白は指定できません。</p> <p>count : CPU数を指定します。 <i>value</i> に、1以上9999以下を指定します。 (例: count=2)</p> <p>share : CPU のシェア値を指定します。 CPUシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り VMware 設定値 * CPU数 Hyper-V 設定値 / 10 Xen 設定値 * 256 / 1000 KVM 設定値 * 1024 / 1000 <i>value</i> に、以下の値を指定します。 省略時は share=n が設定されます。 he: 最高 (4000) h : 高 (2000) n : 標準 (1000) l : 低 (500) le : 最低 (250) 1-99999 : 手動 (例: share=h, share=30)</p> <p>reservation : CPU の予約値 (MHz) を指定し</p>

	<p>ます。  <i>value</i> に、0以上99999以下を指定します。  (例: reservation=1000)  省略時はreservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : CPU の制限値 (MHz) を指定します。  <i>value</i> に、0以上99999以下を指定します。  (例: limit=1500)  省略時はlimit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
<pre>[-mem size=<i>value</i> [share=<i>value</i>] [reservation=<i>value</i>] [limit=<i>value</i>]]</pre>	<p>メモリサイズとシェア値、予約値、および制限値を指定します。  "=" の前後に空白は指定できません。</p> <p>size : メモリのサイズ (MB) を指定します。  <i>value</i> に、1 (MB) 以上9999999 (MB) 以下。  を指定します  (例: size=512)</p> <p>share : メモリのシェア値を指定します。  メモリシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り  VMware 設定値 * メモリサイズ / 100  Hyper-V 設定値 * 5  Xen 設定不可  KVM 設定不可  <i>value</i> に、以下の値を指定します。  省略時は share=n が設定されます。  h : 高 (2000)  n : 標準 (1000)  l : 低 (500)  0-10000 : 手動  (例: share=h, share=30)</p> <p>reservation : メモリの予約値 (MB) を指定します。  <i>value</i> に、0以上99999以下を指定します。  (例: reservation=2048)  省略時はreservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : メモリの制限値 (MB) を指定します。  <i>value</i> に、0以上99999以下を指定します。  (例: limit=4096)  省略時はlimit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
<pre>[-vnet <i>VirtualNetworkName</i>...]</pre>	<p>仮想ネットワークを指定します。  最大10 (NIC#1からNIC#10まで) 指定できます。  (空白区切りで指定します。)  記述順に、NIC#1から順に割り当てます。  専有マシンプロファイル作成時に有効です。</p> <p>DPMの固有情報反映を利用し、設定可能なNIC数の上限は対象OS がWindows Vista 以降の場合 "8"、Windows 2000、Windows Server 2003、Windows</p>

<pre>[-vnettype &lt;vlan   network   edit&gt;...]</pre>	<p>XP の場合 "4" です。</p> <p>ネットワークタイプを指定します。 設定するネットワーク数分指定してください。 記述順にNIC#1から順に割り当てます。 VLAN名を指定する場合は、"vlan" 論理ネットワーク名を指定する場合は、"network" 任意のネットワーク名を指定する場合は、"edit" 省略した場合は、VLAN、あるいは任意の指定となります。 専有マシンプロファイル作成時に有効です。</p>
<pre>[-systemdisk size=value [type=&lt;thin   thick&gt;] [independent] [datastoretag=value   datastore]]</pre>	<p>システムディスク情報の設定をします。</p> <p>size : システムディスクのサイズ (MB) を指定します。</p> <p>type : ディスクのタイプを指定します。 thin / thick のどちらかを指定します。 省略可能です。省略時は "thick" が設定されます。</p> <p>independent : "independent" と指定することで、ディスクの独立型モードが設定されます。 VMware環境で有効です。</p> <p>datastoretag : データストアのタグを指定します。 datastore : システムディスクの位置を指定します。 "datastore" か "datastoretag" のどちらかを指定します。 省略可能です。</p>
<pre>[-extdisk size=value [ctrl=value [position=value]] [type=&lt;thin   thick   rdm-p   rdm-v&gt;] [independent] [datastoretag=value   datastore] [lun], ...]</pre>	<p>拡張ディスク情報の設定をします。(複数指定可) 複数指定するときは、"," (カンマ) で区切って 次のディスク情報を指定してください。(6個まで)</p> <p>size : ディスクのサイズ (MB) を指定します。 value に、10 (MB) 以上99999999 (MB) 以下を指定 します。 ディスクのタイプがrdm-p / rdm-vいずれかの場合は、1 (GB) 以上10000000 (GB) 以下でLUNサイズ範囲(既定 値: 10) の倍数を指定します。</p> <p>ctrl : 拡張ディスクを付けるコントローラ value に以下を指定します。 PCIx IDEx SCSIx AutoDetect (自動選択) xはバス番号</p> <p>position : 拡張ディスクを付ける位置 value に以下の値が指定できます。 PCIの場合 0~31 IDEの場合 0~1 SCSIの場合 0~63 ctrl=AutoDetect時は指定できません。</p> <p>拡張ディスクを付けるコントローラ、位置は 仮想基盤によって指定できる値が異なります。 指定可能な値は、「3.2.1. 仮想マシンの構成変更」の【各 仮想基盤で対応するコントローラ、位置】を参照してくだ さい。</p> <p>type : ディスクのタイプを指定します。 thin / thick / rdm-p / rdm-v のいずれかを指定しま す。</p>



	<p>省略可能です。省略時は "thick" が設定されます。 rdm-p:RDM(物理) rdm-v:RDM(仮想)</p> <p>independent : "independent" と指定することで、ディスクの独立型モードが設定されます。 VMware環境で有効です。</p> <p>*type=thick / thinの場合 datastoretag : データストアのタグを指定します。 datastore: 拡張ディスクの位置を指定します。 "datastore" か "datastoretag" のどちらかを指定します。 省略可能です。省略時は、システムディスクと同じ位置に作成されます。</p> <p>*type=rdm-p / rdm-vの場合 lun : ターゲットLUN (タグ) を指定します。</p>
[-delete [cost   cpu   mem   vnet   systemdisk   extdisk]]	<p>設定情報を消去します。 オプション名を指定する場合、オプション名の設定情報を消去します。 その他のオプションとは分けて実行してください。 オプション名を指定しない場合は、プロファイルそのものを消去します。</p>

#### [注]

- -cpuオプション、-memオプション、-systemdiskオプション、-extdiskオプション指定時、オプションの設定内容をすべて設定して下さい。

#### [構文例]

```
>ssc profile create Large -cost 100
>ssc profile create Middle -cpu count=2 share=h
>ssc profile create Small -cpu count=2 share=600 -mem size=1024
-vnet "VM Network"
>ssc profile create PrivateProfile1 -private -cpu count=1 share=n -mem size=2048
>ssc profile create GyomuProfile1 -private Gyomu -systemdisk type=thin Storage1
-extdisk size=10240 ctrl=IDE1 position=0 type=thin, size=100 ctrl=AutoDetect
type=rdm-v
>ssc profile create Large -delete
>ssc profile create Small -delete cpu
```

## 2.17.8. マシンプロファイルの内容表示

マシンプロファイルの内容を表示します。

#### [構文]

```
ssc profile show Path [-type <standard | network | storage | all>] [-vertical]
```

#### [引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	<p>フルパスを指定します。 運用グループ、モデルまたはホストを指定した場合は、設定されたマシンプロファイルを表示します。 ビュータイプ (operations:/) は省略可能です。テナント、カテゴリは指定できません。 例: グループ指定の場合 Category/Group</p>
---------------------	--

	<p>モデル指定の場合 Category/Group/Model</p> <p>ホスト指定の場合 Category/Group/Host</p> <p>ホスト指定の場合 (ビュータイプ指定時) operations:/Category/Group/Host</p> <p>仮想マシンを指定した場合は、仮想マシンのマシンプロファイルを表示します。 ビュータイプ (operations:/) は省略可能です。 例: virtual:/VC1/DataCenter1/Host1/VM1 resource:/Virtual/VM1 operations:/Category/Group/Model/VM1</p>
[-type <standard   network   storage   all>]	<p>表示タイプを指定します</p> <p>standard : CPUとメモリ情報表示</p> <p>network : ネットワーク情報表示</p> <p>storage : ストレージ情報表示</p> <p>all : standard   network   storage すべて表示</p> <p>省略した場合は、standard</p>
[-vertical]	<p>表示形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値)</p> <p>省略した場合は、CSV形式で表示します。</p>

### 【構文例】

```
>ssc profile show Category/Group
>ssc profile show Category/Group/Model -type standard
>ssc profile show Category/Group/Host -type network
>ssc profile show Category/Group -type storage
>ssc profile show Category/Group -type all
>ssc profile show operations:/Category/Group/Host -type all -vertical
>ssc profile show virtual:/VC/DC1/ESX01/vm1 -type all -vertical
```

### 【表示例】

- Pathにグループを指定した場合の例  
(拡張ディスクがRDMの場合は、“Datastore Tag” に “LUN Tag” を表示します)

```
>ssc profile show operations:/Category/Group -type all
#Name, Cost, CPUCount, CPUShare, CPUReservation, CPULimit, MemorySize (MB), MemoryShare, Me
"Large", "0", "4", "1000", "0", "0", "4096", "1000", "0", "0"
#Virtual NIC No., MacAddress, NetworkName, NetworkType
"1", "-", "VM Network", "NetworkAdapter"
#Storage Type, DiskType, DiskSize (GB), Datastore, Datastore Tag, Disk File, Controller, D
"SystemDisk", "Thin", "0.001", "", "", "-", "-", "-"
"ExtendedDisk", "Thin", "10.000", "", "", "-", "AutoDetect", "AutoDetect"
"ExtendedDisk", "RAW, RDM(Virtual)", "100", "-", "LUN1", "-", "IDE0", "0"
```

```
>ssc profile show operations:/Category/Group -type all -vertical
[Machine Profile-1]
Name          : Large
Cost          : 0
CPUCount     : 4
CPUShare     : 1000
CPUReservation : 0
CPULimit     : 0
MemorySize (MB) : 4096
MemoryShare  : 1000
MemoryReservation : 0
MemoryLimit  : 0
```

```

[Machine Profile Network-1]
  Virtual NIC No. : 1
  MacAddress      : -
  NetworkName     : VM Network
  NetworkType     : NetworkAdapter
[Machine Profile Storage-1]
  Storage Type   : SystemDisk
  DiskType       : Thin
  DiskSize (GB) : 0.001
  Datastore      :
  Datastore Tag  :
  Disk File      : -
  Controller     : -
  Disk No.       : -
[Machine Profile Storage-2]
  Storage Type   : ExtendedDisk
  DiskType       : Thin
  DiskSize (GB) : 10.000
  Datastore      :
  Datastore Tag  :
  Disk File      : -
  Controller     : AutoDetect
  Disk No.       : AutoDetect
[Machine Profile Storage-3]
  Storage Type   : ExtendedDisk
  DiskType       : RAW, RDM(Virtual)
  DiskSize (GB) : 100
  Datastore      : -
  Datastore Tag  : LUN1
  Disk File      : -
  Controller     : IDE0
  Disk No.       : 0

```

- Pathに仮想マシンを指定した場合の例  
(拡張ディスクがRDMの場合は、“Datastore”に“ターゲットLUN名”を表示します)

```

>ssc profile show Category/Group/model1/vm1 -type all
#Name, Cost, CPUCount, CPUShare, CPUReservation, CPULimit, MemorySize (MB), MemoryShare, Me
"-", "0", "1", "1000", "0", "0", "1024", "1000", "0", "0"
#Virtual NIC No., MacAddress, NetworkName, NetworkType
"1", "00:50:56:97:03:74", "VM Network", "NetworkAdapter"
#Storage Type, DiskType, DiskSize (GB), Datastore, Datastore Tag, Disk File, Controller, D
"SystemDisk", "Sys, Thick, VMDK", "8.000", "Storage1", "-", "[Storage1] test1/test1.vmdk
"ExtendedDisk", "Ext, Thick, VMDK", "20.000", "Storage1", "-", "[Storage1] test1/test1_1
"ExtendedDisk", "Ext, Thick, VMDK", "20.000", "Storage1", "-", "[Storage1] test1/test1_2
"ExtendedDisk", "Ext, RAW, RDM(Physical)", "12.000", "NEC Fibre Channel Disk (eui.0030
"ExtendedDisk", "Ext, Thick, VMDK", "0.020", "Storage1", "-", "[Storage1] test1/test2.v
"ExtendedDisk", "Ext, Thick, VMDK, IDRW", "0.010", "Storage1", "-", "[Storage1] test1/te
"ExtendedDisk", "Ext, Thick, VMDK", "0.023", "Storage1", "-", "[Storage1] test1/test2_2.

```

```

>ssc profile show virtual:/VC/DC1/ESX01/vm1 -type all -vertical
[Machine Profile-1]
  Name           : -
  Cost           : 0
  CPUCount       : 1
  CPUShare       : 1000
  CPUReservation : 0
  CPULimit       : 0
  MemorySize (MB) : 1024
  MemoryShare    : 1000

```

```

MemoryReservation : 0
MemoryLimit      : 0
[Machine Profile Network-1]
Virtual NIC No.  : 1
MacAddress       : 00:50:56:97:03:74
NetworkName     : VM Network
NetworkType     : NetworkAdapter
[Machine Profile Storage-1]
Storage Type    : SystemDisk
DiskType       : Sys, Thick, VMDK
DiskSize (GB)  : 8.000
Datastore      : Storage1
Datastore Tag  : -
Disk File     : [Storage1] test1/test1.vmdk
Controller    : -
Disk No.      : -
[Machine Profile Storage-2]
Storage Type    : ExtendedDisk
DiskType       : Ext, Thick, VMDK
DiskSize (GB)  : 20.000
Datastore      : Storage1
Datastore Tag  : -
Disk File     : [Storage1] test1/test1_1.vmdk
Controller    : SCSI0
Disk No.      : 1
[Machine Profile Storage-3]
Storage Type    : ExtendedDisk
DiskType       : Ext, Thick, VMDK
DiskSize (GB)  : 20.000
Datastore      : Storage1
Datastore Tag  : -
Disk File     : [Storage1] test1/test1_2.vmdk
Controller    : SCSI0
Disk No.      : 2
[Machine Profile Storage-4]
Storage Type    : ExtendedDisk
DiskType       : Ext, RAW, RDM(Physical)
DiskSize (GB)  : 12.000
Datastore      : NEC Fibre Channel Disk (eui.003013840e64000a)
Datastore Tag  : -
Disk File     : [Storage1] test1/test1_3.vmdk
Controller    : SCSI0
Disk No.      : 3
[Machine Profile Storage-5]
Storage Type    : ExtendedDisk
DiskType       : Ext, Thick, VMDK
DiskSize (GB)  : 0.020
Datastore      : Storage1
Datastore Tag  : -
Disk File     : [Storage1] test1/test2.vmdk
Controller    : SCSI0
Disk No.      : 4
[Machine Profile Storage-6]
Storage Type    : ExtendedDisk
DiskType       : Ext, Thick, VMDK, IDRW
DiskSize (GB)  : 0.010
Datastore      : Storage1
Datastore Tag  : -
Disk File     : [Storage1] test1/test2_1.vmdk
Controller    : SCSI0
Disk No.      : 5

```

[Machine Profile Storage-7]

Storage Type : ExtendedDisk  
DiskType : Ext, Thick, VMDK  
DiskSize (GB) : 0.023  
Datastore : Storage1  
Datastore Tag : -  
Disk File : [Storage1] test1/test2\_2.vmdk  
Controller : SCSI0  
Disk No. : 6

## 2.18. APIキー

### 2.18.1. APIキーの作成

APIキー、およびAPIユーザアカウントを作成します。

#### [構文]

```
ssc apikey create UserName [-description Description]
```

#### [引数/オプション]

<i>UserName</i> (必須)	APIユーザ名を指定します。 入力できる文字数は32文字以内です。 使用できる文字は任意の文字列です。以下の記号は使用できません。 * + , / : ; < = > ? \   [ ]
-description <i>Description</i>	APIユーザの説明を入力します。 入力できる文字数は128文字以内です。

#### [構文例]

```
>ssc apikey create MyApp  
>ssc apikey create MyApp2 -description "My Application2 API key"
```

#### [注]

- APIユーザは管理者権限ユーザとして作成します。
- APIキーは自動的に生成されます。

### 2.18.2. APIキーの更新

APIキーを更新します。

#### [構文]

```
ssc apikey update UserName [-description Description]
```

#### [引数/オプション]

<i>UserName</i> (必須)	APIキーを更新するAPIユーザ名を指定します。 APIキーを更新すると古いAPIキーは利用できなくなります。
-description <i>Description</i>	APIユーザの説明を入力します。 入力できる文字数は128文字以内です。

#### [構文例]

```
>ssc apikey update MyApp -description "My Application API key"  
>ssc apikey update MyApp2
```

### 2.18.3. APIキーの削除

APIキー、およびAPIユーザアカウントを削除します。

#### [構文]

```
ssc apikey delete UserName
```

#### [引数/オプション]

<i>UserName</i> (必須)	削除するAPIユーザ名を指定します。
-------------------------	--------------------

#### [構文例]

```
>ssc apikey delete MyApp
```

### 2.18.4. APIキーの表示

APIキー、およびAPIユーザアカウント情報を表示します。

#### [構文]

```
ssc apikey show [UserName]
```

#### [引数/オプション]

<i>UserName</i>	表示するAPIユーザ名を指定します。 省略した場合、すべてのAPIユーザを一覧表示します。
-----------------	--

#### [構文例]

```
>ssc apikey show
#UserName, AccessKeyId, Description
"MyApp", "NVG8YIfiP3rKbgbwjmK6/EqTAsh5bTqJXSaELekTjuo=", "My Application API user"
"MyApp2", "Ch2Np96lhjSH6spJz2R6nB6JE/eXw4sjS23Z100TOVU=", "My Application2 API user"
>ssc apikey show MyApp
UserName      : MyApp
Description   : My Application API user
AccessKeyId   : NVG8YIfiP3rKbgbwjmK6/EqTAsh5bTqJXSaELekTjuo=
SecretAccessKey : hMn7iZAM55p7Ta1lUikrnyp1nX1VY0xVYEZX9JPHQ0k=
```

## 3. 仮想環境の構成制御コマンド

本章では、SigmaSystemCenter の仮想環境の構成制御に関するコマンドについて記載します。

### 3.1. 仮想マシンサーバの操作

#### 3.1.1. 仮想マシンサーバの追加

DataCenterに仮想マシンサーバを追加します。

##### [構文]

```
ssc add vmserver Datacenter [-name HostName] [-url URL]  
[-port PortNumber] [-account Account] [-p Password]
```

##### [引数/オプション]

<i>Datacenter</i> (必須)	仮想マシンサーバを追加するDataCenterを指定します。 DataCenterまでのフルパスで指定します。
[-name <i>HostName</i> ]	ホスト名、またはIPアドレスを指定します。
[-url <i>URL</i> ]	URLを指定します。HostNameを指定している場合、 自動生成されるため、省略することができます。
[-port <i>PortNumber</i> ]	ポート番号を指定します。1から65535の範囲で指定します。 省略すると、"443" を設定します。
[-account <i>Account</i> ]	アカウント名を指定します。
[-p <i>Password</i> ]	パスワードを指定します。

##### [注]

- DatacenterにKVM以外を指定した場合、オプション (-url) は指定できません。-nameを指定してください。

##### [構文例]

```
>ssc add vmserver 192.168.10.1/Datacenter1 -name VMServer-01  
>ssc add vmserver 192.168.10.1/Datacenter1 -name 192.168.10.100  
>ssc add vmserver 192.168.10.1/Datacenter1 -name 192.168.10.101 -port 443  
-account user01 -p xxxxx  
>ssc add vmserver KVM/DefaultDataCenter  
-url "qemu+tls://server.test.net:5000/system"
```

#### 3.1.2. 仮想マシンサーバの削除

DataCenterから仮想マシンサーバを削除します。

##### [構文]

```
ssc delete vmserver Datacenter VMServerName[...]
```



## [引数/オプション]

<i>Datacenter</i> (必須)	削除する仮想マシンサーバのDataCenterを指定します。 DataCenterまでのフルパスを指定します。
<i>VMServerName</i> [...] (必須)	対象の仮想マシンサーバ名を指定します。

## [構文例]

```
>ssc delete vmserver 192.168.10.1/Datacenter1 VMServer-01  
>ssc delete vmserver 192.168.10.1/Datacenter1 192.168.10.100 192.168.10.101
```

### 3.1.3. 仮想マシンサーバのパスワード変更

ユーザアカウントのパスワード、または仮想マシンサーバのアカウントのパスワードを変更します。

## [構文]

```
ssc change-passwd Type Name NewPassword [-l Account] [-p Password]
```

## [引数/オプション]

<i>Type</i> (必須)	パスワードを変更する対象を指定します。 "manager" : 仮想マシンサーバのアカウントのパスワードを変更する場合に指定します。 "user" : ユーザアカウントのパスワードを変更する場合に指定します。
<i>Name</i> (必須)	対象の名前を指定します。 <i>Type</i> が "manager" の場合、ホスト名、もしくは対象の仮想マシンサーバまでのフルパスを指定します。 (例: VirtualCenter/DataCenter/ESX) 同一のホスト名が存在する場合、パス指定で指定します。 <i>Type</i> が "user" の場合、ユーザ名を指定します。
<i>NewPassword</i> (必須)	新しいパスワードを指定します。
[-l <i>Account</i> ]	アカウント名を指定します。 <i>Type</i> が "manager" の場合は、仮想マシンサーバのアカウント名を指定します。 省略した場合、アカウント名は変更されません。 <i>Type</i> が "user" の場合は、認証情報として、Administrator権限ユーザのアカウント名を指定します。 省略した場合は、認証情報として、-pオプションに旧パスワードを指定します。
[-p <i>Password</i> ]	<i>Type</i> が "user" の場合のみ有効です。 -lオプション利用時はAdministrator権限ユーザのパスワードを指定します。 -lオプションを利用しない場合は対象ユーザの旧パスワードを指定します。

## [構文例]

```
仮想マシンサーバのパスワードを変更する  
>ssc change-passwd manager Host1 "*****" -l user1  
>ssc change-passwd manager "VirtualCenter/New DataCenter/Esx1" "*****"  
ユーザのパスワードを変更する  
1) 認証情報として対象ユーザの旧パスワードを指定する  
>ssc change-passwd user user1 "****" -p "****"  
2) 認証情報としてAdministrator権限ユーザを指定する  
>ssc change-passwd user user2 "*****" -l Administrator -p "*****"
```

### 3.1.4. 仮想マシンサーバの復旧の後処理

仮想マシンサーバ復旧処理 (Failover) 実行後の後処理を行います。  
本コマンドは、接続状態が“切断”状態のスタンドアロン ESXi のみ有効です。

#### [構文]

```
ssc recover machine SourceName
```

#### [引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	対象となる仮想マシンサーバのマシン名をフルパスで指定します。 運用グループの場合: operation:/Category1/Group1/Model1/VMServer1 (ビュータイプは、'operation:') 仮想グループの場合: virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1 (ビュータイプは、"virtual:"、ビュータイプを省略した場合、"virtual:"となります。)
---------------------------	---

#### [構文例]

```
>ssc recover machine operation:/Category01/Group01/Model01/VMS001
>ssc recover machine virtual:/192.168.1.100/DC/192.168.1.5
>ssc recover machine 192.168.1.100/DC/192.168.1.5
```

### 3.1.5. マシン退避

仮想マシンを他の仮想マシンサーバに退避させます。

#### [構文]

```
ssc evacuate machine SourceName [DestinationName] [-all] [-q] [-ignorerule]
```

#### [引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	移動元の仮想マシンサーバ、または移動する仮想マシンのパスを指定します。 ・ [運用] ビュー : operation:/Category1/Group1/Model1/VMServer1 ・ [仮想] ビュー : virtual:/Manager1/DataCenter1/VMServer1 ・ ビューの指定がない場合 (//Manager1/DataCenter1/VMServer1) は [仮想] ビューとなります。 仮想マシンサーバを指定した場合は、その仮想マシンサーバ上に存在する電源オン状態の仮想マシンを移動します。(-allを指定した場合は電源オフ状態のものを含むすべての仮想マシンを移動します。) 仮想マシンを指定した場合は、VM移動 (Failover) を行います。
[ <i>DestinationName</i> ]	移動先の仮想マシンサーバのパスを指定します。 ・ [運用] ビュー : operation:/Category1/Group1/Model1/VMServer1 ・ [仮想] ビュー : virtual:/Manager1/DataCenter1/VMServer1 ・ ビューの指定がない場合 (//Manager1/DataCenter1/VMServer1) は [仮想] ビューとなります。 省略した場合は、自動で仮想マシンサーバが選択されます。 ( <i>SourceName</i> に仮想マシンを指定した場合、省略できません。)
[-all]	仮想マシンサーバ上のすべての仮想マシン (電源オフ状態のものを含む) を移動します。 省略した場合は、電源オン状態の仮想マシンのみ移動します。 ( <i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)
[-q]	仮想マシンをサスペンド後に移動 (Quick Migration) する場合に指定します。移動後はレジュームされます。 省略した場合は、Migrationにより仮想マシンを移動します。 ( <i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)

[-ignorerule]

配置制約を無視して移動する場合に指定します。  
省略した場合は、配置制約に反する移動は実行できません。  
(*SourceName*に仮想マシンを指定した場合のみ有効です。)

## 【注】

- *SourceName*に仮想マシンサーバを指定した場合、共有データストア上にない電源オン状態の仮想マシンは移動されません。電源オフ状態の仮想マシンは、共有データストア上にない場合においても移動されます。(仮想ディスクが他のデータストアに移動されます。)
- *SourceName*に仮想マシンを指定した場合、共有データストア上にない仮想マシンのVM移動(Failover)は実行できません。
- *SourceName*にXenServer Pool Masterの仮想マシンサーバを指定し、その仮想マシンサーバがダウンしている場合、同じプール配下でキャパシティの最も大きな仮想マシンサーバが新しいPool Masterに切り替わります。
- *SourceName*に仮想マシンサーバを指定した場合、移動対象の仮想マシンや移動先の仮想マシンサーバはVM最適配置機能により決定されます。( *DestinationName*を指定した場合は、指定した仮想マシンサーバが移動先となります。) VM最適配置機能の移動条件や配置制約によって、仮想マシンを移動できない場合があります。詳細は、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「3.12.3. VM最適配置の条件」を参照してください。

## 【構文例】

```
>ssc evacuate machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001  
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-002  
>ssc evacuate machine operations:/Group-VM001/Model-VM01/VM-002  
operations:/Group-VMServer001/Model-VMServer01/VMServer-002  
>ssc evacuate machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-003 -all  
>ssc evacuate machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001 -q
```

## 3.2. 仮想マシンの操作

### 3.2.1. 仮想マシンの構成変更

仮想マシンの CPU 数、メモリサイズなど構成変更を行います。  
リソースグループ（またはラック）や仮想マシンサーバ（またはDataCenter）を指定することで、その配下に存在する仮想マシンの構成変更を一括で行います。

#### [注]

- 仮想マシンの一括編集を行う前に、必ず収集を行い、仮想マシンを最新の状態にしてください。最新の状態でない場合、編集操作が反映されない場合があります。
- -cpuオプション、-memオプション、-systemdiskオプション、-extdiskオプション指定時、オプションの設定内容をすべて設定して下さい。

#### [構文]

```
ssc update vmproperty Path [-name vmName] [-cost costValue] [-cpu count=value  
[share=value] [reservation=value] [limit=value]] [-mem size=value [share=value]  
[reservation=value] [limit=value]] [-vnet nic=value operation=<modify | delete  
| connect | disconnect> [network=value]...] [-extdisk <add | delete |  
disconnect | modify> [size=value] [type=<thin | thick | rdm-p | rdm-v>]  
[lun=value] [location=value] [independent=<persistent | nonpersistent | none>]  
[ctrl=value [position=value]], ...] [-systemdisk [size=value] [type=<thin |  
thick>] [independent=<persistent | nonpersistent | none>]] [-opticaldrive  
IsoFile ...]
```

#### [引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	対象仮想マシンが所属するグループ、または対象仮想マシンまでのパスをフルパスで指定します。グループには、仮想マシンサーバ、DataCenter、リソースのパスが指定できます。  リソースグループの場合 (ビュータイプは、resource:) resource:/Rack01 仮想グループの場合 (ビュータイプは、virtual:) virtual:/VC1/DataCenter1/VMServer1 ビュータイプ省略時、virtual: となります。  指定したグループ配下で、管理対象の仮想マシンが編集対象になります。 稼動中で、メンテナンスオフの仮想マシンが存在すると、エラーとなり、全仮想マシンの編集処理が行われません。
[-name <i>vmName</i> ]	対象仮想マシンの名称を指定した名称に変更します。 対象仮想マシンが1台の場合に有効となります。省略時、変更しません。
[-cost <i>costValue</i> ]	対象仮想マシンのコスト値を変更します。 0から1000の範囲で指定します。省略時、変更しません。
[-cpu count= <i>value</i> [share= <i>value</i> ] [reservation= <i>value</i> ] [limit= <i>value</i> ]]	CPU数とシェア値、予約値、および制限値を指定します。省略時、変更しません。 "=" の前後に空白は指定できません。  count : CPU数を指定します。

	<p><i>value</i>に、1から9999の範囲で指定します。 (例: count=2)</p> <p>share : CPUのシェア値を指定します。 CPUシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り VMware 設定値 * CPU数 Hyper-V 設定値 / 10 Xen 設定値 * 256/1000 KVM 設定値 * 1024/1000</p> <p><i>value</i>に、以下の値を指定します。 省略時はshare=nが設定されます。 he : 最高 (4000) h : 高 (2000) n : 標準 (1000) l : 低 (500) le: 最低 (250) 1-99999 : 手動 (例: share=h, share=30)</p> <p>reservation : CPUの予約値 (MHz) を指定します。 <i>value</i>に、0から99999の範囲で指定します。 (例: reservation=1000) 省略時はreservation=0が設定されます。</p> <p>limit : CPUの制限値 (MHz) を指定します。 <i>value</i>に、0から99999の範囲で指定します。 (例: limit=1500) 省略時はlimit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
<pre>[-mem size=<i>value</i> [share=<i>value</i>] [reservation=<i>value</i>] [limit=<i>value</i>]]</pre>	<p>メモリサイズとシェア値、予約値、および制限値を指定します。省略時、変更しません。 "="の前後に空白は指定できません。</p> <p>size : メモリのサイズ (MB) を指定します。 <i>value</i>に、1から9999999 (MB) の範囲で指定します。 (例: size=512)</p> <p>share : メモリのシェア値を指定します。 メモリシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り VMware 設定値 * メモリサイズ / 100 Hyper-V 設定値 * 5 Xen 設定不可 KVM 設定不可</p> <p><i>value</i>に、以下の値を指定します。 h : 高 (2000) n : 標準 (1000) l : 低 (500) 0-10000 : 手動 (例: share=l, share=30)</p> <p>reservation : メモリの予約値 (MB) を指定します。 <i>value</i>に、0から99999の範囲で指定します。 (例: reservation=2048) 省略時はreservation=0が設定されます。</p> <p>limit : メモリの制限値 (MB) を指定します。 <i>value</i>に、0から99999の範囲で指定します。 (例: limit=4096) 省略時はlimit=0 (unlimited) が設定されます。</p>
<pre>[-vnet nic=<i>value</i> operation= &lt;modify   delete   connect</pre>	<p>仮想ネットワークを指定します。(空白区切りで指定します。) 対象マシンが1台の場合に有効となります。</p>

<pre>  disconnect &gt;   [network= value] ...]</pre>	<p>nic : NIC番号を指定します。</p> <p>network : ネットワーク名を指定します。 operation=modifyのときに有効です。</p> <p>operation : 操作を指定します。 更新する場合は、modifyを指定します。 (設定がない場合は、追加されます)</p> <p>削除する場合は、deleteを指定します。 (NIC番号の大きいものから指定可能です)</p> <p>接続する場合は、connectを指定します。</p> <p>切断する場合は、disconnectを指定します。</p>
<pre>[-extdisk &lt;add   delete   disconnect   modify &gt; [size= value] [type=&lt;thin   thick   rdm-p   rdm-v &gt;] [lun= value] [location= value] [independent=&lt;persistent   nonpersistent   none &gt;] [ctrl= value [position= value]], ...]</pre>	<p>拡張ディスクの設定を変更します。 対象仮想マシンが1台の場合に有効となります。(複数指定可) 複数指定するときは、"," (カンマ) で区切って 次のディスク情報を指定してください。</p> <p>追加する場合、addを指定します。 size, typeは必須指定となります。 locationは省略可能です。 typeがrdm-p, rdm-vの場合は、 size, locationの代わりにlunを指定します。</p> <p>削除する場合は、deleteを指定します。 ctrl, positionで対象ディスクを指定してください。 ctrl, position省略時は1番目の情報が対象となります。</p> <p>切断する場合は、disconnectを指定します。 ctrl, positionで対象ディスクを指定してください。 ctrl, position省略時は1番目の情報が対象となります。</p> <p>更新する場合は、modifyを指定します。 location以外が対象となります。</p> <p>size : ディスクのサイズ (MB) を指定します。 value に、10から99999999 (MB) の間で指定します。</p> <p>type : 拡張ディスクのタイプを指定します。 thin / thick / rdm-p / rdm-v のいずれかを指定します。 省略可能です。省略時はthickが設定されます。 rdm-p: RDM (物理) rdm-v: RDM (仮想)</p> <p>lun : ターゲットLUN (LUN Name) を指定します。 ディスクタイプにrdm-p, rdm-v指定時に有効です。 未使用のRDM用LUNを指定してください。</p> <p>location : 拡張ディスクの位置を指定します。 ディスクタイプにthin, thick指定時に有効です。 省略可能です。省略時は、システムディスクと同じ位置に作成され ます。</p> <p>independent : 拡張ディスクの独立型モードを指定します。 persistent (通常) / nonpersistent (読み取り専用) / none (独立型解除) を 指定します。 VMware環境で有効です。 ディスクタイプにRDM (物理) 指定時はindependent指定はでき</p>

	<p>ません。</p> <p>ctrl : 拡張ディスクを付けるコントローラ value に以下を指定します。 PCIx IDEx SCSIx AutoDetect (自動選択)</p> <p>xはバス番号</p> <p>position : 拡張ディスクを付ける位置 value に以下の値が指定できます。 PCIの場合 0~31 IDEの場合 0~1 SCSIの場合 0~63</p> <p>ctrl=AutoDetect時は指定できません。</p> <p>拡張ディスクを付けるコントローラ、位置は 仮想基盤によって指定できる値が異なります。 指定可能な値は下記「各仮想基盤で対応するコントローラ、位置」 を参照してください。</p>
<pre>[-systemdisk [size=value] [type=&lt;thin   thick&gt;] [independent= &lt;persistent   nonpersistent   none &gt;]</pre>	<p>システムディスクの設定を変更します。 対象仮想マシンが1台の場合に有効となります。</p> <p>size : ディスクのサイズ (MB) 指定します。 valueに10から99999999 (MB) の間で指定します。</p> <p>type : システムディスクのタイプを指定します。 thin / thick のどちらかを指定します。</p> <p>independent : システムディスクの独立型モードを指定します。 persistent (通常) / nonpersistent (読み取り専用) / none (独立解除) を指定します。VMware環境で有効です。</p>
<pre>[-opticaldrive IsoFile ...]</pre>	<p>IsoFile : マウントするISOファイルを指定します。 空文字 ("") を指定した場合はマウントしていないドライブを作成し ます。 IsoFileを省略した場合、ドライブを削除します。</p>

## [構文例]

- DataCenter配下の仮想マシンを編集する

```
>ssc update vmproperty virtual:/192.168.1.1/DataCenter001 -cpu count=2
>ssc update vmproperty 192.168.1.1/DataCenter002 -cpu count=2 share=1
-mem size=512 share=h
```
- 仮想マシンサーバ配下の仮想マシンを編集する

```
>ssc update vmproperty 192.168.1.1/DataCenter001/VMServer01 -cpu count=1
share=35 -mem size=512 share=50
```
- リソースグループ配下仮想マシンサーバ配下の仮想マシンを編集する

```
>ssc update vmproperty resource:/Rack01/Group001 -cpu count=2
>ssc update vmproperty resource:/Rack01/Group001 -mem size=256
>ssc update vmproperty resource:/Rack01/Group001 -extdisk modify size=512
>ssc update vmproperty resource:/Rack01/Group001 -extdisk add size=512 type=thin
location=localstorage independent=persistent
```
- 仮想マシン単独指定 (名称変更、コスト値変更、CPU数変更)

```
>ssc update vmproperty resource:/Rack01/Group001/vm001 -name vm003 -cost 15
-cpu count=2
>ssc update vmproperty resource:/Rack01/Group001/vm001 -name vm016 -cost 20
-cpu count=3 -vnet nic=1 operation=modify network=NECNET
```

```
>ssc update vmproperty resource:/Rack01/Group001/vm001 -name vm016 -cost 20
-cpu count=3 -vnet nic=1 operation=connect
>ssc update vmproperty resource:/Rack01/Group001/vm001 -name vm003 -cost 15
-cpu count=2 -extdisk add size=50 type=rdm-v independent=persistent
lun="NEC Fibre Channel Disk (eui.003013840e64000a)" ctrl=SCSI0 position=0,
add size=1000 type=thin location=Storage1 -systemdisk size=4000 type=thin
independent=nonpersistent
```

### [各仮想基盤で対応するコントローラ、位置]

仮想基盤	コントローラ	位置 (ディスク番号)	備考
VMware	IDE0, IDE1	0,1	0 にディスクがないと 1 には付けられない。
	SCSI0, SCSI1, SCSI2, SCSI3	0 ~ 15 (7以外)	7はDiskContollerが使用するため
Xen	SCSI0	0 ~ 7	
Hyper-V	IDE0, IDE1	0,1	
	SCSI0, SCSI1, SCSI2, SCSI3	0 ~ 63	
KVM	IDE0, IDE1	0,1	
	PCIO	0 ~ 31	

- 各位置には他のデバイス (NIC, CD-ROM) も使用するため、すべての位置を仮想ディスクで使えません。
- システムディスクで使用する位置には拡張ディスクは追加できません。  
VMware の場合は、IDE0:0 / SCSI0:0、Xen の場合は、SCSI0:0  
Hyper-Vでは、IDE0:0  
KVMのPCIOは、PCIデバイスのvirtioディスクに使用。0-2は使用不可。

## 3.2.2. 仮想マシンの移動 (Migrate)

仮想マシンの移動 (Migration / Quick Migration) を行います。

### [構文]

```
ssc migrate machine SourceName DestinationName [-n] [-q] [-ignorerule]
```

### [引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	移動元の仮想マシン名をフルパスで指定します。
<i>DestinationName</i> (必須)	移動先の仮想マシンサーバのマシン名をフルパスで指定します。
[-n]	移動後に仮想マシンを起動しない場合、指定します。
[-q]	仮想マシンをサスペンド後に移動 (Quick Migration) する場合に指定します。移動後はレジャームされます。省略した場合は、Migrationします。
[-ignorerule]	配置制約を無視して移動する場合に指定します。省略した場合は、配置制約に反する移動は実行できません。

### [構文例]

```
>ssc migrate machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-002
>ssc migrate machine operations:/Group-VM001/Model-VM01/VM-002
operations:/Group-VMServer001/Model-VMServer01/VMServer-002
>ssc migrate machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-003
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-002 -n
```



```
>ssc migrate machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-004 -q
```

### 3.2.3. 仮想マシンの移動 (Move)

仮想マシンにディスクを含めての移動 (StorageMigration / Move) を行います。

#### [構文]

```
ssc move machine SourceName DestinationName [-datastore DatastoreName] [-n]
[-s] [-onlysystemdisk] [-ignorerule]
```

#### [引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	移動元の仮想マシン名をフルパスで指定します。
<i>DestinationName</i> (必須)	移動先の仮想マシンサーバのマシン名をフルパスで指定します。
[-datastore <i>DatastoreName</i> ]	移動先のデータストア名を指定します。
[-n]	移動後に仮想マシンを起動しない場合、指定します。
[-s]	仮想マシンを電源オン状態のまま移動 (StorageMigration) する場 合に指定します。 省略した場合は、仮想マシンを停止後に移動 (Move) します。
[-onlysystemdisk]	移動時に拡張ディスクを移動対象から除外する場合に指定します。 省略した場合は、仮想マシンのすべての仮想ディスクが移動します。
[-ignorerule]	配置制約を無視して移動する場合に指定します。 省略した場合は、配置制約に反する移動は実行できません。

#### [構文例]

```
>ssc move machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-002
>ssc move machine operations:/Group-VM001/Model-VM01/VM-002
operations:/Group-VMServer001/Model-VMServer01/VMServer-002
>ssc move machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-003
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-002 -datastore storage1
>ssc move machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-003
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-002 -n
>ssc move machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-002 -s
>ssc move machine virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001
virtual:/VC-01/DC-001/VMServer-002 -onlysystemdisk
```

### 3.2.4. マシン退避 (ホスト指定)

仮想マシンを他の仮想マシンサーバに退避させます。

#### [構文]

```
ssc evacuate host SourceName [DestinationName] [-all] [-q] [-ignorerule]
```

## [引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	移動元の仮想マシンサーバ、または移動する仮想マシンが割り当てられているホスト (運用グループ) のパスを指定します。 仮想マシンサーバを指定した場合は、その仮想マシンサーバ上に存在する電源オン状態の仮想マシンを移動します。(-allを指定した場合は電源オフ状態のものを含むすべての仮想マシンを移動します。) 仮想マシンを指定した場合は、VM移動 (Failover) を行います。
[ <i>DestinationName</i> ]	移動先の仮想マシンサーバが割り当てられているホスト (運用グループ) のパスを指定します。 省略した場合は、自動で仮想マシンサーバが選択されます。 ( <i>SourceName</i> に仮想マシンを指定した場合、省略できません。)
[-all]	仮想マシンサーバ上のすべての仮想マシン (電源オフ状態のものを含む) を移動します。 省略した場合は、電源オン状態の仮想マシンのみ移動します。 ( <i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)
[-q]	仮想マシンをサスペンド後に移動 (Quick Migration) する場合に指定します。移動後はレジュームされます。 省略した場合は、Migrationにより仮想マシンを移動します。 ( <i>SourceName</i> に仮想マシンサーバを指定した場合のみ有効です。)
[-ignorerule]	配置制約を無視して移動する場合に指定します。 省略した場合は、配置制約に反する移動は実行できません。 ( <i>SourceName</i> に仮想マシンを指定した場合のみ有効です。)

## [注]

- *SourceName*に仮想マシンサーバを指定した場合、共有データストア上にない電源オン状態の仮想マシンは移動されません。電源オフ状態の仮想マシンは、共有データストア上にない場合においても移動されます。(仮想ディスクが他のデータストアに移動されます。)
- *SourceName*に仮想マシンを指定した場合、共有データストア上にない仮想マシンのVM移動 (Failover) は実行できません。
- *SourceName*にXenServer Pool Masterの仮想マシンサーバを指定し、その仮想マシンサーバがダウンしている場合、同じプール配下でキャパシティの最も大きな仮想マシンサーバが新しいPool Masterに切り替わります。
- *SourceName*に仮想マシンサーバを指定した場合、移動対象の仮想マシンや移動先の仮想マシンサーバはVM最適配置機能により決定されます。( *DestinationName*を指定した場合は、指定した仮想マシンサーバが移動先となります。) VM最適配置機能の移動条件や配置制約によって、仮想マシンを移動できない場合があります。詳細は、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「3.12.3. VM最適配置の条件」を参照してください。

## [構文例]

```
>ssc evacuate host //Category1/Group01/HOST-01
>ssc evacuate host //Group-VM001/Host-A001 //Group-VMServer001
>ssc evacuate host //Group-VMServer001/Host-VMS001 //Group-VMServer002
>ssc evacuate host //Group-VM002 -all
>ssc evacuate host //Category1/Group01/HOST-01 -q
```

## 3.2.5. 仮想マシンの作成

仮想マシンの作成を行います。

### [構文]

```
ssc create machine <GroupName [-host HostName[...]] [-count Count] [-index start=value <end=value | count=value>] [-vmname VMName] [-installmanually] | SmartGroupName> [-vms VmsName] [-datastore DatastoreName] [-import Type] [-filepath FilePath] [-osname <Name | Code>] [-iso IsoFile...]
```

## [引数/オプション]

<i>GroupName</i>	対象のグループをフルパスで指定します。 テナント、カテゴリだけの指定はできません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ、グループ、グループ/モデル)
<code>[-host <i>HostName</i>[...]]</code>	稼働させるホスト名、あるいはIPアドレスを指定します。 IPアドレス指定の場合は、xxx.xxx.xxx.xxx形式で記述してください。 作成先グループで設定済みのホスト定義を指定する必要があります。 このオプションを指定した場合は、-countは指定できません。 複数指定した場合は、-indexは指定できません。
<code>[-count <i>Count</i>]</code>	作成する仮想マシンの台数を指定します。 このオプションを指定した場合は、-host,-indexは指定できません。
<code>[-index start=<i>value</i> &lt;end=<i>value</i>   count=<i>value</i>&gt;]</code>	作成する仮想マシンのホスト名の開始番号、終了番号、または件数を指定します。 -hostがIPアドレスの場合、複数指定している場合は、無効となります。 -countが指定されている場合は、無効となります。 -host, -countが共に省略されている場合は、ホスト設定一覧の順番となります。 (例) VM001-VM010を作成する場合 -host vm -index start=001 end=010 -host vm -index start=001 count=10 (例) ホストの5番目から10番目を作成する場合 -index start=5 end=10 -index start=5 count=6
<code>[-vmname <i>VMName</i>]</code>	仮想マシンにつけるマシン名を指定します。 作成する仮想マシンが1台の場合に指定可能です。
<code>[-installmanually]</code>	仮想マシンを作成後にOSを手作業でインストールする場合に指定します。 作成後は電源OFF、メンテナンスONになります。
<i>SmartGroupName</i>	指定したスマートグループの条件に合致するホストを稼働させます。 グループのパスは、存在するパスを指定します。  [運用] ビューのスマートグループが指定可能です。  (設定例) category1/group11/smartgroup101 : [運用] ビューのcategory1配下のgroup11直下の smartgroup101 を指定します。 smartgroup102 : [運用] ビューのルートノード直下の smartgroup102 を指定します。  このオプションを指定した場合は、-host、-count、-index、-vmnameは指定できません。
<code>[-vms <i>VmsName</i>]</code>	作成先となる仮想マシンサーバのマシン名を指定します。
<code>[-datastore <i>DatastoreName</i>]</code>	使用するデータストア名を指定します。
<code>[-import <i>Type</i>]</code>	FilePath に指定するタイプを明示して指定します。
<code>[-filepath <i>FilePath</i>]</code>	OVF、OVA、またはVHDファイルのファイルパスを指定します。 <i>Type</i> が指定されていない場合は自動判別します。
<code>[-osname &lt;<i>Name</i>   <i>Code</i>&gt;]</code>	仮想マシンにインストールするOSタイプを指定します。 -installmanuallyを指定したときのみ指定できます。
<code>[-iso <i>IsoFile</i>...]</code>	仮想マシンにマウントするISOファイルを指定します。 -installmanuallyを指定したときのみ指定できます。

- グループの指定には、*GroupName*、または*SmartGroupName*のいずれかを指定する必要があります。

- す。
- グループの指定が *GroupName* に該当する場合、`-host`、`-count`、`-index` のいずれかを指定する必要があります。

#### [注]

- `-index` で指定するホストは、`start` と `end` (`count`) の間に使用中のホストがあるとエラーになります。
- グループの指定がスマートグループ (*SmartGroupName*) に該当する場合、指定したスマートグループで VMグループ以外のホストが対象になるとエラーになります。
- 本コマンドのオプションにスマートグループを指定した場合、スマートグループで抽出されたホストが複数の運用グループに分散している場合、複数のジョブに分けてシーケンシャルに処理します。  
このときエラーが発生すると以降のジョブは実行されません。エラーの原因を取り除いて再度実行してください。
- 最後の文字が ¥ (円マーク) である文字列を " " (二重引用符) で囲んで指定する場合、最後の文字を '¥' 自身でエスケープしてください。  
例: Datastore 名が "[cluster1] C:¥ClusterStorage¥Volume1¥" の場合  

```
ssc create machine vmgroup1 -host host1 -vmname vm1 -datastore "[cluster1] C:¥ClusterStorage¥Volume1¥ ¥"
```
- 以下の注意事項は SSC0300-0002 にて解除されました。
  - IPアドレスプール機能を利用して、作成したマシンにIPアドレスの払い出しを行う場合は、マシン作成先となるグループ名でモデルの指定を省略したり、スマートグループを指定することはできません。

#### [構文例]

```
>ssc create machine vmgroup1 -host host1
>ssc create machine vmgroup1 -host host1 host2
仮想マシンサーバ, データストア指定
>ssc create machine vmgroup1 -host host1 -vms vms1 -datastore datastore1
>ssc create machine vmgroup1 -host host1 -datastore datastore1
vm001 - vm010の仮想マシン作成
>ssc create machine vmgroup1 -host vm -index start=001 end=010 -vms vms1
-datastore datastore1
>ssc create machine vmgroup1 -host vm -index start=001 count=10 -vms vms1
-datastore datastore1
ホスト設定リストの順番で5番目から10番目の仮想マシンを作成
>ssc create machine vmgroup1 -index start=5 end=10
>ssc create machine vmgroup1 -index start=5 count=6
作成VM名指定
>ssc create machine vmgroup1 -host host1 -vmname vm1 -datastore datastore1
>ssc create machine vmgroup1 -count 1 -vmname vm1
スマートグループ指定
>ssc create machine category1/group11/smartgroup101
```

### 3.2.6. テンプレートの作成

テンプレートの作成を行います。

#### [構文]

```
ssc create template Path -name name -cost costValue -type <full | hw | diff |
disk> [-image name] [-vmserver vmServer] [-datastore value] [-snapshot name]
[-mastervmpasswd Password] [-fixedreplica] [-ostype OperatingSystemType]
[-osname <name | code>] [-ownername value] [-orgname value] [-timezone value]
[-productkey value] [-license mode=<perserver | perseat>] [users=value]
```

[引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	対象仮想マシンまでのパスをフルパスで指定します。 <i>VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100</i>
<i>-name name</i> (必須)	作成するテンプレートの名称を指定します。
<i>-cost costValue</i> (必須)	作成するテンプレートのコスト値を指定します。 1以上から1000以下で指定してください。
<i>-type &lt;full   hw   diff   disk&gt;</i> (必須)	作成するテンプレートのタイプを指定します。 指定には、以下を使用します。 full : Full Clone hw : HW Profile Clone diff : Differential Clone disk : Disk Clone
<i>[-image name]</i>	作成するイメージの名称を指定します。 テンプレートのタイプが、Disk Clone / Differential Cloneの場合に指定できます。
<i>[-vmserver vmServer]</i>	作成先の仮想マシンサーバを指定します。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合に指定できます。
<i>[-datastore value]</i>	格納場所を指定します。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Cloneの場合に指定できます。
<i>[-snapshot name]</i>	スナップショット名を指定します。 テンプレートのタイプが、Differential Cloneの場合に指定できません。
<i>[-mastervmpasswd Password]</i>	マスタVMのパスワードを指定します。 VMware環境でLinuxゲストOSのパスワードを更新するために使用します。 256文字以内で指定してください。
<i>[-fixedreplica]</i>	レプリカVMをイメージと同じデータストアのみに作成する場合に指定します。 ただし、作成するテンプレートのタイプがDifferential Cloneの場合のみ有効となります。
<i>[-ostype OperatingSystemType]</i>	OSタイプを指定します。 以下の <i>OperatingSystemType</i> を指定できます。いずれか1つを指定してください。 <i>OperatingSystemType</i> : OSタイプ Windows: Windows Server Windows-client: Windows Client linux: Linux  テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合に指定できます。
<i>[-osname &lt;name   code&gt;]</i>	OS名を指定します。 OS名のコード、またはWebUIに表示されている文字列を指定します。 詳細は、 <a href="#">【参考資料】</a> を参照してください。  テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Cloneの場合に指定できます。
<i>[-ownername value]</i>	Owner名を指定します。  テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合で、OSタイプにWindows、またはWindows-clientを指定した場合のみ指定できます。

[-orgname <i>value</i> ]	<p>組織名を指定します。</p> <p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Cloneの場合で、OSタイプに Windows、またはWindows-clientを指定した場合のみ指定できます。</p>
[-timezone <i>value</i> ]	<p>タイムゾーンを指定します。(省略可能) 省略時はシステムに設定されたタイムゾーンになります。 タイムゾーンのコード、またはWebUIに表示されている文字列を指定します。</p> <p>詳細は、<b>[参考資料]</b>を参照してください。 値は Microsoft Time Zone Index Values で既定されたものと 同じです。</p> <p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Cloneの場合で、OSタイプに Windows、またはWindows-clientを指定した場合のみ指定できます。</p>
[-productkey <i>value</i> ]	<p>プロダクトキーを指定します。(省略可能) xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx の形式で入力してください。</p> <p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Cloneの場合で、OSタイプに Windows、またはWindows-clientを指定した場合のみ指定できます。</p>
[-license mode=<perserver   perseat> [users= <i>value</i> ]]	<p>ライセンスモードを指定します。 perserver : 同時接続サーバ数 perseat : 接続クライアント</p> <p>[users=<i>value</i>] perserverを指定時に、サーバ数を指定します。</p> <p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Cloneの場合で、OSタイプに Windows、またはWindows-clientを指定した場合のみ指定できます。</p>

## [注]

- -ownername、-orgnameオプションを指定しない場合、-timezone、-productkey、-licenseオプションは無効です。

## [構文例]

```

• Full Cloneの場合
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type full -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -ostype windows -osname 11
-ownername nec -orgname 2CS -timezone 235 -productkey
xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx -license mode=perserver users=5
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type full -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -ostype windows -osname
"Windows Server 2008 Enterprise (x64)" -ownername nec -orgname 2CS
-timezone 235 -productkey xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx -license mode=perseat
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type full -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -ostype windows-client
-osname "Windows 7 Professional (x64)" -ownername nec -orgname 2CS
-timezone 235 -productkey xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type full -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -ostype linux -osname

```

```

"Red Hat Enterprise Linux ES 3"
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type full -vmserver VMServer1 -datastore disk01
・ HW Profile Cloneの場合
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type hw
・ Differential Cloneの場合
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type diff -image image01 -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -snapshot
snapshot01 -ostype windows -osname 11 -ownername nec -orgname 2CS -timezone 235
-productkey xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx -license mode=perserver users=5
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type diff -image image01 -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -snapshot
snapshot01 -fixedreplica -ostype windows -osname
"Windows Server 2008 Enterprise (x64)" -ownername nec -orgname 2CS -timezone
235 -productkey xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx -license mode=perseat
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type diff -image image01 -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -snapshot
snapshot01 -fixedreplica -ostype linux -osname "Red Hat Enterprise Linux ES 3"
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type diff -image image01 -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -snapshot
snapshot01
・ Disk Cloneの場合
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type disk -image image01 -vmserver VMServer1 -datastore disk01

```

## [参考資料]

- OS一覧

Windows Server	
OsNameCode	OsName
4	Windows 2000 Professional
5	Windows 2000 Server
6	Windows 2000 Advanced Server
10	Windows Server 2003 Standard (x86)
11	Windows Server 2003 Enterprise (x86)
13	Windows Server 2003 Standard (x64)
14	Windows Server 2003 Enterprise (x64)
15	Windows Server 2003 Datacenter (x86)
16	Windows Server 2003 Datacenter (x64)
20	Windows Server 2008 Standard (x86)
21	Windows Server 2008 Enterprise (x86)
22	Windows Server 2008 Datacenter (x86)
23	Windows Server 2008 Standard (x64)
24	Windows Server 2008 Enterprise (x64)
25	Windows Server 2008 Datacenter (x64)
27	Windows Server 2008 R2 Standard (x64)
28	Windows Server 2008 R2 Enterprise (x64)
29	Windows Server 2008 R2 Datacenter (x64)

Windows Client	
OsNameCode	OsName
9	Windows XP Professional (x86)
12	Windows XP Professional (x64)
30	Windows Vista Business (x86)
31	Windows Vista Enterprise (x86)
32	Windows Vista Ultimate (x86)
33	Windows Vista Business (x64)
34	Windows Vista Enterprise (x64)
35	Windows Vista Ultimate (x64)
40	Windows 7 Professional (x86)
41	Windows 7 Ultimate (x86)
42	Windows 7 Enterprise (x86)
43	Windows 7 Professional (x64)
44	Windows 7 Enterprise (x64)
45	Windows 7 Ultimate (x64)

Linux	
OsNameCode	OsName
161	Red Hat Enterprise Linux ES 3
162	Red Hat Enterprise Linux AS 3
163	Red Hat Enterprise Linux ES 4
164	Red Hat Enterprise Linux AS 4
165	Red Hat Enterprise Linux AS 5
166	Red Hat Enterprise Linux 5 AP
169	Red Hat Enterprise Linux 6
167	SUSE Linux Enterprise Server 9
168	SUSE Linux Enterprise Server 10

- 以下に `-timezone` で指定するコードを示します。  
Microsoft Time Zone Index Values

Index	Name of Time Zone	Time
0	Dateline Standard Time	(GMT-12:00) International Date Line West
1	Samoa Standard Time	(GMT-11:00) Midway Island, Samoa
2	Hawaiian Standard Time	(GMT-10:00) Hawaii
3	Alaskan Standard Time	(GMT-09:00) Alaska
4	Pacific Standard Time	(GMT-08:00) Pacific Time (US and Canada); Tijuana
10	Mountain Standard Time	(GMT-07:00) Mountain Time (US and Canada)
13	Mexico Standard Time 2	(GMT-07:00) Chihuahua, La Paz, Mazatlan
15	U.S. Mountain Standard Time	(GMT-07:00) Arizona
20	Central Standard Time	(GMT-06:00) Central Time (US and Canada)
25	Canada Central Standard Time	(GMT-06:00) Saskatchewan
30	Mexico Standard Time	(GMT-06:00) Guadalajara, Mexico City, Monterrey
33	Central America Standard Time	(GMT-06:00) Central America



35	Eastern Standard Time	(GMT-05:00) Eastern Time (US and Canada)
40	U.S. Eastern Standard Time	(GMT-05:00) Indiana (East)
45	S.A. Pacific Standard Time	(GMT-05:00) Bogota, Lima, Quito
50	Atlantic Standard Time	(GMT-04:00) Atlantic Time (Canada)
55	S.A. Western Standard Time	(GMT-04:00) Caracas, La Paz
56	Pacific S.A. Standard Time	(GMT-04:00) Santiago
60	Newfoundland and Labrador Standard Time	(GMT-03:30) Newfoundland and Labrador
65	E. South America Standard Time	(GMT-03:00) Brasilia
70	S.A. Eastern Standard Time	(GMT-03:00) Buenos Aires, Georgetown
73	Greenland Standard Time	(GMT-03:00) Greenland
75	Mid-Atlantic Standard Time	(GMT-02:00) Mid-Atlantic
80	Azores Standard Time	(GMT-01:00) Azores
83	Cape Verde Standard Time	(GMT-01:00) Cape Verde Islands
85	GMT Standard Time	(GMT) Greenwich Mean Time: Dublin, Edinburgh, Lisbon, London
90	Greenwich Standard Time	(GMT) Casablanca, Monrovia
95	Central Europe Standard Time	(GMT+01:00) Belgrade, Bratislava, Budapest, Ljubljana, Prague
100	Central European Standard Time	(GMT+01:00) Sarajevo, Skopje, Warsaw, Zagreb
105	Romance Standard Time	(GMT+01:00) Brussels, Copenhagen, Madrid, Paris
110	W. Europe Standard Time	(GMT+01:00) Amsterdam, Berlin, Bern, Rome, Stockholm, Vienna
113	W. Central Africa Standard Time	(GMT+01:00) West Central Africa
115	E. Europe Standard Time	(GMT+02:00) Bucharest
120	Egypt Standard Time	(GMT+02:00) Cairo
125	FLE Standard Time	(GMT+02:00) Helsinki, Kiev, Riga, Sofia, Tallinn, Vilnius
130	GTB Standard Time	(GMT+02:00) Athens, Istanbul, Minsk
135	Israel Standard Time	(GMT+02:00) Jerusalem
140	South Africa Standard Time	(GMT+02:00) Harare, Pretoria
145	Russian Standard Time	(GMT+03:00) Moscow, St. Petersburg, Volgograd
150	Arab Standard Time	(GMT+03:00) Kuwait, Riyadh
155	E. Africa Standard Time	(GMT+03:00) Nairobi
158	Arabic Standard Time	(GMT+03:00) Baghdad
160	Iran Standard Time	(GMT+03:30) Tehran
165	Arabian Standard Time	(GMT+04:00) Abu Dhabi, Muscat
170	Caucasus Standard Time	(GMT+04:00) Baku, Tbilisi, Yerevan
175	Transitional Islamic State of Afghanistan Standard Time	(GMT+04:30) Kabul
180	Ekaterinburg Standard Time	(GMT+05:00) Ekaterinburg
185	West Asia Standard Time	(GMT+05:00) Islamabad, Karachi, Tashkent
190	India Standard Time	(GMT+05:30) Chennai, Kolkata, Mumbai, New Delhi
193	Nepal Standard Time	(GMT+05:45) Kathmandu
195	Central Asia Standard Time	(GMT+06:00) Astana, Dhaka
200	Sri Lanka Standard Time	(GMT+06:00) Sri Jayawardenepura

201	N. Central Asia Standard Time	(GMT+06:00) Almaty, Novosibirsk
203	Myanmar Standard Time	(GMT+06:30) Yangon Rangoon
205	S.E. Asia Standard Time	(GMT+07:00) Bangkok, Hanoi, Jakarta
207	North Asia Standard Time	(GMT+07:00) Krasnoyarsk
210	China Standard Time	(GMT+08:00) Beijing, Chongqing, Hong Kong SAR, Urumqi
215	Singapore Standard Time	(GMT+08:00) Kuala Lumpur, Singapore
220	Taipei Standard Time	(GMT+08:00) Taipei
225	W. Australia Standard Time	(GMT+08:00) Perth
227	North Asia East Standard Time	(GMT+08:00) Irkutsk, Ulaanbaatar
230	Korea Standard Time	(GMT+09:00) Seoul
235	Tokyo Standard Time	(GMT+09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo
240	Yakutsk Standard Time	(GMT+09:00) Yakutsk
245	A.U.S. Central Standard Time	(GMT+09:30) Darwin
250	Cen. Australia Standard Time	(GMT+09:30) Adelaide
255	A.U.S. Eastern Standard Time	(GMT+10:00) Canberra, Melbourne, Sydney
260	E. Australia Standard Time	(GMT+10:00) Brisbane
265	Tasmania Standard Time	(GMT+10:00) Hobart
270	Vladivostok Standard Time	(GMT+10:00) Vladivostok
275	West Pacific Standard Time	(GMT+10:00) Guam, Port Moresby
280	Central Pacific Standard Time	(GMT+11:00) Magadan, Solomon Islands, New Caledonia
285	Fiji Islands Standard Time	(GMT+12:00) Fiji Islands, Kamchatka, Marshall Islands
290	New Zealand Standard Time	(GMT+12:00) Auckland, Wellington
300	Tonga Standard Time	(GMT+13:00) Nuku'alofa

### 3.2.7. イメージの作成

イメージを作成します。

#### 【構文】

```
ssc image add ImageName Template Vmserver Datastore [-snapshot SnapshotName]
[-notdefault] [-fixedreplica] [-mastervmpasswd password] [-modevm <on | off>]
```

#### 【引数/オプション】

<i>ImageName</i> (必須)	作成するイメージ名を指定します。 入力できる文字数は53文字以内です。 使用可能な文字列は半角英数字、半角空白、および半角記号 ("("、")"、"-","_")です。
<i>Template</i> (必須)	イメージを作成するテンプレート名を指定します。
<i>Vmserver</i> (必須)	格納先の仮想マシンサーバを指定します。
<i>Datastore</i> (必須)	格納先を指定します。
[-snapshot <i>SnapshotName</i> ]	テンプレートの種別がDifferential Cloneの場合、スナップショット名 を指定します。
[-notdefault]	イメージの追加のみ行います。 省略した場合、イメージをテンプレートの使用するデフォルトイメージと して登録します。

[-fixedreplica]	レプリカVMをイメージと同じデータストアのみに作成する場合に指定します。
[-mastervmpasswd password]	マスタVMのパスワードを指定します。 VMware環境でLinuxゲストOSのパスワードを更新するために使用します。
[-modevm <on   off>]	VMモードを指定します。 on : VMモードをオンにします。 off : VMモードをオフにします。 省略した場合、"off" の指定と同じになります。  テンプレートのタイプに、Disk Clone / Differential Clone を指定した場合のみ指定できます。

#### [注]

- イメージの作成はテンプレートの種別がDifferential CloneかDisk Cloneのテンプレートのみ実行可能です。

#### [構文例]

```
>ssc image add diffclone-image differentialclone-template 192.168.10.1 datastore1
-snapshot snapshotA
>ssc image add diskclone-image diskclone-template 192.168.10.1 datastore1
-notdefault
```

### 3.2.8. 再構成

仮想マシンの再構成を行います。

#### [構文]

```
ssc reconfigure machine GroupFullPath [-target Name[...]] [-reconstruct |
-revert | -apply] [-concurrent value] [-interval value] [-turnoff <0 | 1>]
[-disksize size] [-shutdown]
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupFullPath</i> (必須)	[運用] ビューのグループのパスを指定します。 テナント、カテゴリの指定はできません。 (例: テナント/カテゴリ/グループ)
[-target <i>Name[...]</i> ]	ホスト名を指定します。(複数指定可能) 省略した場合、指定したグループで稼働中のすべてのマシンが対象となります。
[-reconstruct]	指定のグループ、モデル、ホスト設定に指定されている優先度の高いテンプレート、またはイメージの状態に再構築します。
[-revert]	差分ディスクの破棄を行います。
[-apply]	マシンプロファイルを適用します。
[-concurrent <i>value</i> ]	最大同時実行数を指定します。(既定値は1) 1から100の範囲で指定します。
[-interval <i>value</i> ]	実行間隔を指定します。(既定値は0) 0秒から99999秒の範囲で指定します。
[-turnoff <0   1>]	実行条件として電源状態を指定します。(既定値は1) 0 : 電源状態を確認せず実行します。 1 : 電源状態がオフのみ対象とします。
[-disksize <i>size</i> ]	実行条件としてディスク使用容量 (MB) を指定する。 ディスク使用容量が指定容量以上の仮想マシンを対象とする。 10MBから99999999MBの範囲で指定します。
[-shutdown]	マシン停止後にマシンプロファイルを適用する場合に指定します。

- `-reconstruct`、`-revert`、`-apply`を同時に指定できません。  
また、これらをすべて省略した場合は、`-reconstruct`となります。

#### [構文例]

```
* Reconstructの実行
>ssc reconfigure machine operation:/vmgroup1 -reconstruct
>ssc reconfigure machine operation:/vmgroup1 -target host1 host2
* Reconstructの実行(コマンドの別名指定)
>ssc reconstruct machine operation:/vmgroup1 -target host1 host2
* Revertの実行
>ssc reconfigure machine operation:/vmgroup1 -revert
* Apply Machine Profileの実行
>ssc reconfigure machine operation:/vmgroup1 -apply -shutdown
* 実行条件の指定
>ssc reconfigure machine operation:/vmgroup1 -target host1 -concurrent 2
-interval 500 -turnoff 1 -disksize 2048
```

### 3.2.9. スナップショットの作成

スナップショットを作成します。

#### [構文]

```
ssc snapshot create SnapshotName Path [-vm name[...]]
```

#### [引数/オプション]

<i>SnapshotName</i> (必須)	作成するスナップショットの名前を指定します。
<i>Path</i> (必須)	仮想マシンサーバ、または仮想マシンまでのパスを指定します。 virtual:/vc1/dc1/esx1 virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1
[-vm <i>name</i> [...]]	<i>Path</i> に仮想マシンサーバを指定している場合に有効です。 指定した仮想マシンサーバに所属する仮想マシンの名前を指定します。 省略時は、仮想マシンサーバに所属するすべての仮想マシンが対象となります。 仮想マシンは、複数指定することが可能です。

#### [注]

- スナップショットを作成する仮想マシンが複数の場合のみ、進捗ログが表示されます。

#### [構文例]

```
esx1所属の仮想マシンすべてを対象にする場合
>ssc snapshot create snapshot1 virtual:/vc1/dc1/esx1
esx1所属の仮想マシンで、vm1, vm2を対象にする場合
>ssc snapshot create snapshot1 virtual:/vc1/dc1/esx1 -vm vm1 vm2
esx1所属の仮想マシンvm1を対象にする場合
>ssc snapshot create snapshot1 virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1
>ssc snapshot create snapshot1 virtual:/vc1/dc1/esx1 -vm vm1
```

### 3.2.10. テンプレートの削除

テンプレートの削除を行います。

## [構文]

```
ssc delete template TemplateName[...] [-vmserver VMServerName]
```

## [引数/オプション]

<i>TemplateName</i> [...] (必須)	削除するテンプレートの名称を指定します。
[-vmserver <i>VMServerName</i> ]	削除するテンプレートがある仮想マシンサーバ名を指定します。 同じ名称のテンプレートが別の仮想マシンサーバにある場合に指定 します。

## [構文例]

```
>ssc delete template FullCloneTemplate_W2K8  
>ssc delete template FullCloneTemplate_W2K8 DiffCloneTemplate_Linux  
>ssc delete template FullCloneTemplate_W2K3 -vmserver VMS-01
```

## 3.2.11. 仮想マシンの削除

仮想マシンの削除を行います。

## [構文]

```
ssc delete machine <GroupName [-auto] [-host HostName...] [-index start=value  
<end=value | count=value>] | -path Path... | -smartgroup SmartGroupName>  
[-diskdelete] [-i]
```

## [引数/オプション]

<i>GroupName</i>	対象のグループをフルパスで指定します。 (例: テナント/カテゴリ/グループ、グループ、グループ/モデル) -host、-indexが有効です。 省略時は-autoを指定することにより、グループで稼働中のマシン が1台自動選択されます。 ※-auto指定時は、テナント、カテゴリ名のみを指定することもできま す。 その場合、削除対象となるグループは指定されたテナント、カテゴリ 配下から、プライオリティの低い順に自動的に選択されます。
[-auto]	グループで稼働中のマシンが1台自動選択されます。対象のグルー プのみが指定されたときに有効です。
[-host <i>HostName</i> ...]	対象仮想マシンが稼働するホスト名、あるいはIPアドレスを指定しま す。 IPアドレス指定の場合は、xxx.xxx.xxx.xxx形式で記述してくださ い。
[-index start= <i>value</i> <end= <i>value</i>   count= <i>value</i> >]	削除する仮想マシンのホスト名の開始番号、終了番号、または件数 を指定します。 -hostがIPアドレスの場合、複数指定している場合は、無効となりま す。 -hostが省略されている場合は、ホスト設定一覧の順番となります。 (例) VM001-VM010を削除する場合 -host vm -index start=001 end=010 -host vm -index start=001 count=10 (例) ホストの5番目から10番目を削除する場合 -index start=5 end=10 -index start=5 count=6
-path <i>Path</i> ...	対象仮想マシンが所属するグループ、または対象仮想マシンまでの パスをフルパスで指定します。 グループには、仮想マシンサーバ、DataCenter、リソースのパスが

	<p>指定できます。  リソースグループの場合 (ビュータイプは、resource:)  resource: /Rack01  仮想グループの場合 (ビュータイプは、virtual:)  virtual: /VC1/DataCenter1/VMServer1  ビュータイプ省略時、virtual: となります。  指定したグループ配下の仮想マシンが削除対象になります。  (稼動中のマシンは対象外です)</p>
-smartgroup SmartGroupName	<p>指定したスマートグループの条件に合致するマシンを削除します。  グループのパスは、存在するパスを指定します。</p> <p>パスの先頭には、対象のビューを示す以下のいずれかを指定します。  * operations : [運用] ビュー  * resource : [リソース] ビュー (マシンノード配下)</p> <p>[運用] ビューのスマートグループを指定した場合、グループで稼動中のマシンが削除対象となります。  [リソース] ビューのスマートグループを指定した場合、非稼動のマシンが削除対象となります。</p> <p>(設定例)  operations: /category1/group11/smartgroup101 : [運用] ビューの category1 配下の group11 直下の smartgroup101 を指定します。  resource: /smartgroup102 : [リソース] ビューのルートノード直下の smartgroup102 を指定します。</p>
[-diskdelete]	接続されている仮想ディスクを削除します。
[-i]	確認メッセージを表示します。

## [注]

- -indexで指定するホストは、startとend (count) の間に未使用のホストがあるとエラーになります。
- 本コマンドのオプションにスマートグループを指定した場合、スマートグループで抽出されたホストが複数の運用グループに分散している場合、複数のジョブに分けてシーケンシャルに処理します。  
このとき、エラーが発生すると以降のジョブは実行されません。エラーの原因を取り除いて再度実行してください。

## [構文例]

```

>ssc delete machine vmgroup1 -host host1 host2 -diskdelete
>ssc delete machine -path resource:/vmgroup1/vm1
>ssc delete machine -path virtual:/vms-gp1/vm-gp1/vm1
>ssc delete machine -path vms-gp1/vm-gp1
グループで稼動中のマシンを1台自動選択して削除
>ssc delete machine vmgroup1 -auto
>ssc delete machine category1 -auto
vm001 - vm010の仮想マシン削除
>ssc delete machine vmgroup1 -host vm -index start=001 end=010
>ssc delete machine vmgroup1 -host vm -index start=001 count=10
ホスト設定リストの順番で5番目から10番目の仮想マシンを削除
>ssc delete machine vmgroup1 -index start=5 end=10
>ssc delete machine vmgroup1 -index start=5 count=6
スマートグループを指定してグループで稼動中のマシンを削除
>ssc delete machine -smartgroup operations:/category1/group11/smartgroup101
スマートグループを指定して非稼動のマシンを削除
>ssc delete machine -smartgroup resource:/smartgroup102

```

### 3.2.12. 仮想マシンのクローン

仮想マシンのクローンを行います。

#### [構文]

```
ssc clone machine SourceName VMName VmsName DatastoreName
```

#### [引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	クローン元の仮想マシン名をフルパスで指定します。 (例: [運用] ビュー:/カテゴリ/グループ/モデル/仮想マシン [仮想] ビュー:/マネージャ/DataCenter/仮想マシンサーバ/仮想マシン [リソース] ビュー:/仮想マシン)  ビューには、以下を指定できます。 「operations:」: [運用] ビュー 「virtual:」: [仮想] ビュー 「resource:」: [リソース] ビュー ビューを省略した場合、自動で [仮想] ビューが指定されます。
<i>VMName</i> (必須)	仮想マシンにつけるマシン名を指定します。
<i>VmsName</i> (必須)	作成先となる仮想マシンサーバのマシン名を指定します。
<i>DatastoreName</i> (必須)	使用するデータストア名を指定します。

#### [構文例]

```
>ssc clone machine virtual:/vc1/dc1/VMServer1/MasterVm1 CloneVm1 VmHost1 Storage1
```

### 3.2.13. イメージの削除

イメージを削除します。

#### [構文]

```
ssc image delete Template ImageName... [-vmserver VMServerName]
```

#### [引数/オプション]

<i>Template</i> (必須)	イメージを削除するテンプレート名を指定します。
<i>ImageName...</i> (必須)	削除するイメージ名を指定します。 複数指定可能です。
[-vmserver <i>VMServerName</i> ]	イメージを削除するテンプレートがある仮想マシンサーバ名を指定します。 同じ名称のテンプレートが別の仮想マシンサーバにある場合に指定します。

#### [構文例]

```
>ssc image delete testTemplate testImage1  
>ssc image delete testTemplate testImage1 testImage2  
>ssc image delete testTemplate testImage1 -vmserver 192.168.220.142
```

### 3.2.14. スナップショットの削除

スナップショットを削除します。

#### [構文]

```
ssc snapshot delete Path <SnapshotName... | -all>
```

#### [引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	仮想マシンまでのパスを指定します。 virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1
<i>SnapshotName...</i>	削除を行うスナップショットの名前を指定します。 複数指定することが可能です。 一括削除の場合は、指定不要です。
-all	一括削除を行う場合に指定します。

#### [構文例]

```
>ssc snapshot delete virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1 snapshot1  
>ssc snapshot delete virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1 snapshot1 snapshot2  
>ssc snapshot delete virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1 -all
```

### 3.2.15. スナップショットの復元

スナップショットを復元します。

#### [構文]

```
ssc snapshot revert SnapshotName Path
```

#### [引数/オプション]

<i>SnapshotName</i> (必須)	復元を行うスナップショットの名前を指定します。
<i>Path</i> (必須)	仮想マシンまでのパスを指定します。 virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1

#### [構文例]

```
>ssc snapshot revert snapshot1 virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1
```

### 3.2.16. スナップショットの表示

スナップショットを表示します。

#### [構文]

```
ssc snapshot show Path [-vertical]
```

#### [引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	仮想マシンまでのパスを指定します。 virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1
[-vertical]	表示形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) 省略した場合、CSV形式で表示します。



## [構文例]

```
>ssc snapshot show virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1
>ssc snapshot show virtual:/vc1/dc1/esx1/vm1 -vertical
```

## 3.2.17. テンプレートの更新

テンプレートの更新を行います。

### [構文]

```
ssc template update TemplateName [-vmserver vmserver] [-name name] [-cost costValue] [-mastervmpasswd Password] [-image name] [-ostype OperatingSystemType] [-osname <name | code>] <[-ownername value] [-orgname value] [-timezone value] [-productkey value] [-license mode=<perserver | perseat>] [users=value]] | [-del] >
```

### [引数/オプション]

<i>TemplateName</i> (必須)	更新対象のテンプレート名を指定します。
[-vmserver <i>vmserver</i> ]	テンプレートがある仮想マシンサーバ名を指定します。 同じ名称のテンプレートが別の仮想マシンサーバにある場合に指定します。
[-name <i>name</i> ]	テンプレート名を変更する場合に指定します。
[-cost <i>costValue</i> ]	テンプレートのコスト値を指定します。 1以上から1000以下で指定して下さい。
[-mastervmpasswd <i>Password</i> ]	マスタVMのパスワードを指定します。 VMware環境でLinuxゲストOSのパスワードを更新するために使用します。 256文字以内で指定してください。
[-image <i>name</i> ]	使用するイメージの名称を指定します。  テンプレートのタイプが、Disk Clone / Differential Cloneの場合に指定できます。
[-ostype <i>OperatingSystemType</i> ]	OSタイプを指定します。 以下の <i>OperatingSystemType</i> を指定できます。 <i>OperatingSystemType</i> : OSタイプ Windows: Windows Server Windows-client: Windows Client Linux: Linux  解除する場合は、"None" を指定して下さい。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Clone の場合に指定できます。
[-osname < <i>name</i>   <i>code</i> >]	OS名を指定します。 OS名のコード、またはWebUIで表示されている文字列を指定します。 「3.2.6. テンプレートの作成」の <b>[参考資料]</b> を参照してください。  解除する場合は、"0" を指定してください。  テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Cloneの場合に指定できます。

[-ownername <i>value</i> ]	<p>Owner名を指定します。</p> <p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Cloneの場合で OSタイプに Windows、またはWindows-clientを指定した場合のみ指定できます。</p>
[-orgname <i>value</i> ]	<p>組織名を指定します。</p> <p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Cloneの場合で OSタイプにWindows、またはWindows-clientを指定した場合のみ指定できます。</p>
[-timezone <i>value</i> ]	<p>タイムゾーンを指定します。(省略可能) 省略時はシステムに設定されたタイムゾーンになります。 タイムゾーンのコード、またはWebUIで表示されている文字列を指定します。</p> <p>「3.2.6. テンプレートの作成」の【参考資料】を参照してください。 値は Microsoft Time Zone Index Values で既定されたものと同じです。</p> <p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Cloneの場合で OSタイプにWindows、またはWindows-clientを指定した場合のみ指定できます。</p>
[-productkey <i>value</i> ]	<p>プロダクトキーを指定します。(省略可能) xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx の形式で入力してください。</p> <p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Cloneの場合で OSタイプにWindows、またはWindows-clientを指定した場合のみ指定できます。</p>
[-license mode=<perserver   perseat> [users= <i>value</i> ]]	<p>ライセンスモードを指定します。 perserver : 同時接続サーバ数 perseat : 接続クライアント</p> <p>[users=<i>value</i>] perserverを指定時に、サーバ数を指定します。</p> <p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Cloneの場合で OSタイプにWindowsを指定した場合のみ指定できます。</p>
[-del]	<p>プロファイル情報 (Owner名・組織名・タイムゾーン・プロダクトキー・ライセンスモード) の設定を解除します。</p> <p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Cloneの場合で OSタイプにWindows、またはWindows-clientを指定した場合のみ指定できます。</p>

#### [注]

- 更新するテンプレートのOwner名、組織名の設定がある、または-ownername、-orgnameオプションを指定した場合に、-timezone、-productkey、-licenseオプションは有効です。

#### [構文例]

```
> ssc template update template1 -name tempalteA -cost 10 -ostype windows
-osname "Windows Server 2008 Enterprise (x64)" -ownername owner1 -orgname org1
-productkey xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx -license mode=perserver user=5
> ssc template update template1 -name tempalteA -cost 10 -ostype windows-client
-osname "Windows 7 Professional (x64)" -ownername owner1 -orgname org1
-productkey xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx
> ssc template update template1 -name tempalteA -cost 10 -ostype linux
```

```
-osname "SUSE Linux Enterprise Server 10"
> ssc template update template1 -del
```

### 3.2.18. イメージの更新

イメージを更新します。

#### [構文]

```
ssc image update ImageName Template Vmserver Datastore [-mastervmpasswd
password]
```

#### [引数/オプション]

<i>ImageName</i> (必須)	作成するイメージ名を指定します。 入力できる文字数は53文字以内です。 使用可能な文字列は半角英数字、半角空白、および半角記号 ( "("、")"、"-","_" ) です。
<i>Template</i> (必須)	イメージを作成するテンプレート名を指定します。
<i>Vmserver</i> (必須)	格納先の仮想マシンサーバを指定します。
<i>Datastore</i> (必須)	格納先を指定します。
[-mastervmpasswd password]	マスタVMのパスワードを指定します。 VMware環境でLinuxゲストOSのパスワードを更新するために使 用します。

#### [構文例]

```
>ssc image update diffclone-image differentialclone-template 192.168.10.1
datastore1 -mastervmpasswd pw
```

### 3.2.19. 仮想マシン(OSなし)の作成

仮想マシン (OSなし) の作成を行います。

#### [構文]

```
ssc vm create -vms VmsName -vmname VMName -cost costValue -cpu count=value
[share=value] [reservation=value] [limit=value] -mem size=value [share=value]
[reservation=value] [limit=value] -systemdisk size=value datastore [type=<thin
| thick>] [independent] [-osname <Name | Code>] [-vnet VirtualNetworkName...]
[-extdisk [size=value] [ctrl=value] [position=value]] [type=<thin | thick |
rdm-p | rdm-v>] [independent] [datastore] [lun, ...] [-iso IsoFile...]
```

#### [引数/オプション]

-vms <i>VmsName</i>	対象となる仮想マシンサーバをフルパスで指定します。
-vmname <i>VMName</i>	仮想マシンにつけるマシン名を指定します。
-cost <i>costValue</i>	コスト値を指定します。1から1000の範囲で指定します。
[-cpu count= <i>value</i> [share= <i>value</i> ] [reservation= <i>value</i> ] [limit= <i>value</i> ]]	CPU数とシェア値、予約値、および制限値を指定します。 CPU数は必ず指定してください。 "=" の前後に空白は指定できません。  count : CPU数を指定します。 <i>value</i> に、1以上9999以下を指定します。

	<p>(例: count=2)</p> <p>share : CPU のシェア値を指定します。 CPUシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り</p> <p>VMware 設定値 * CPU数 Hyper-V 設定値 / 10 Xen 設定値 * 256 / 1000 KVM 設定値 * 1024 / 1000</p> <p><i>value</i> に、以下の値を指定します。 省略時は share=n が設定されます。 he: 最高 (4000) h : 高 (2000) n : 標準 (1000) l : 低 (500) le : 最低 (250) 1-99999 : 手動 (例: share=h, share=30)</p> <p>reservation : CPU の予約値 (MHz) を指定します。 <i>value</i> に、0以上99999以下を指定します。 (例: reservation=1000) 省略時はreservation=0 が設定されます。</p> <p>limit : CPU の制限値 (MHz) を指定します。 <i>value</i> に、0以上99999以下を指定します。 (例: limit=1500) 省略時はlimit=0 (unlimited) が設定されま</p>
<p>[-mem size=<i>value</i> [share=<i>value</i>] [reservation=<i>value</i>] [limit=<i>value</i>]]</p>	<p>メモリサイズとシェア値、予約値、および制限値を指定します。 "=" の前後に空白は指定できません。</p> <p>size : メモリのサイズ (MB) を指定します。 <i>value</i> に、1 (MB) 以上9999999 (MB) 以下を指定します。 (例: size=512)</p> <p>share : メモリのシェア値を指定します。 メモリシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り</p> <p>VMware 設定値 * メモリサイズ / 100 Hyper-V 設定値 * 5 Xen 設定不可 KVM 設定不可</p> <p><i>value</i> に、以下の値を指定します。 省略時は share=n が設定されます。 h : 高 (2000) n : 標準 (1000) l : 低 (500) 0-10000 : 手動 (例: share=h, share=30)</p> <p>reservation : メモリの予約値 (MB) を指定します。 <i>value</i> に、0以上99999以下を指定します。 (例: reservation=2048) 省略時はreservation=0が設定されます。</p> <p>limit : メモリの制限値 (MB) を指定します。 <i>value</i> に、0以上99999以下を指定します。 (例: limit=4096)</p>

	<p>省略時はlimit=0 (unlimited) が設定されま す。</p>
<pre>[-systemdisk size=<i>value</i> datastore [type=&lt;thin   thick&gt;] [independent]</pre>	<p>システムディスク情報の設定をします。</p> <p>size : システムディスクのサイズ (MB) を指定します。</p> <p>datastore : システムディスクの位置を指定します。</p> <p>type : ディスクのタイプを指定します。 thin / thick のどちらかを指定します。 省略可能です。省略時は thick が設定されます。</p> <p>independent : "independent" と指定することで、 ディスクの独立型モードが設定されます。 VMware環境で有効です。</p>
<pre>[-osname &lt;Name   Code&gt;]</pre>	<p>OS名を指定します。 OS名のコード、またはWebUIに表示されている文字列を指 定します。 SSCコマンドリファレンスの参考資料を参照してください。</p>
<pre>[-vnet <i>VirtualNetworkName</i>...]</pre>	<p>仮想ネットワークを指定します。 最大10 (NIC#1からNIC#10まで) 指定できます。 (空白区切りで指定します。) 記述順に、NIC#1から順に割り当てます。</p>
<pre>[-extdisk [size=<i>value</i>] [ctrl=<i>value</i> [position=<i>value</i>]] [type=&lt;thin   thick   rdm-p   rdm-v&gt;] [independent] [datastore] [lun], ...]</pre>	<p>拡張ディスク情報の設定をします。(複数指定可) 複数指定するときは、"," (カンマ) で区切って 次のディスク情報を指定してください。(6個まで)</p> <p>size : ディスクのサイズを指定します。 value に、10 (MB) 以上99999999 (MB) 以下を指定 します。</p> <p>ctrl : 拡張ディスクを付けるコントローラ value に以下を指定します。 PCIx IDEx SCSIx AutoDetect (自動選択)</p> <p>xはバス番号</p> <p>position : 拡張ディスクを付ける位置 value に以下の値が指定できます。 PCIの場合 0~31 IDEの場合 0~1 SCSIの場合 0~63</p> <p>ctrl=AutoDetect時は指定できません。</p> <p>拡張ディスクを付けるコントローラ、位置は 仮想基盤によって指定できる値が異なります。 指定可能な値は、マニュアルを参照してください。</p> <p>type : ディスクのタイプを指定します。 thin / thick / rdm-p / rdm-v のいずれかを指定しま す。 省略可能です。省略時はthickが設定されます。 rdm-p: RDM(物理) rdm-v: RDM(仮想)</p>

	<p>independent : "independent" と指定することで、ディスクの独立型モードが設定されます。 VMware環境で有効です。 ディスクタイプにRDM(物理)指定時は "independent" は指定できません。</p> <p>*type=thick / thinの場合 datastore: 拡張ディスクの位置を指定します。</p> <p>*type=rdm-p / rdm-vの場合 lun : ターゲットLUN (タグ) を指定します。</p>
<code>[-iso IsoFile...]</code>	仮想マシンにマウントするISOファイルを指定します。

#### [構文例]

```
>ssc vm create -vms virtual:/VC/DataCenter/VMServer -vmname vm -cost 10 -cpu count
>ssc vm create -vms virtual:/VC/DataCenter/VMServer -vmname vm -cost 10 -cpu count
```

### 3.2.20. 仮想マシンのエクスポート

仮想マシンをエクスポートします。

#### [構文]

```
ssc export vm VmName Type [-Path Path]
```

#### [引数/オプション]

<i>VmName</i> (必須)	対象仮想マシンまでのパスをフルパスで指定します。
<i>Type</i> (必須)	エクスポートのタイプを指定します。
<code>[-Path <i>Path</i>]</code>	エクスポート先のディレクトリを指定します。 省略した場合は、カレントディレクトリを使用します。

#### [構文例]

```
>ssc export vm resource:¥sample_vm ovf
>ssc export vm resource:¥sample_vm ova -Path c:¥tmp
```

### 3.2.21. 仮想マシンのインポート

仮想マシンをインポートします。

#### [構文]

```
ssc import vm FilePath VmName Cost VmsName DatastoreName [-import Type]
```

#### [引数/オプション]

<i>FilePath</i> (必須)	OVF、OVA、またはVHDファイルのファイルパスを指定します。 <i>Type</i> が指定されていない場合は、自動判別します。
<i>VmName</i> (必須)	仮想マシン名を指定します。
<i>Cost</i> (必須)	コスト値を指定します。 1から1000の範囲で指定します。
<i>VmsName</i> (必須)	仮想マシンサーバを指定します。

<i>DatastoreName</i> (必須)	データストアを指定します。
<i>[-import Type]</i>	インポートするファイルのタイプを指定します。

#### [構文例]

```
>ssc import vm c:\test\vm_data1.ovf vm_test 3 VM.xxx.co.jp datastore
>ssc import vm c:\test\vm_data2.ova vm_test 3 VM.xxx.co.jp datastore -import ova
```

### 3.2.22. ISOイメージのマウント

仮想マシンにISOイメージをマウントします。

#### [構文]

```
ssc iso mount VMName IsoFilePath Ctrl Position
```

#### [引数/オプション]

<i>VMName</i> (必須)	仮想マシンをフルパスで指定します。
<i>IsoFilePath</i> (必須)	ISOイメージをフルパスで指定します。
<i>Ctrl</i> (必須)	コントローラを指定します。
<i>Position</i> (必須)	位置を指定します。

#### [構文例]

```
>ssc iso mount virtual:/VC/DataCenter/VMServer/vm "[datastore] ISO/file.iso" ide1
```

### 3.2.23. CD/DVDドライブとマウント可能なISOイメージ一覧表示

仮想マシンにあるCD / DVDドライブとマウント可能なISOイメージ一覧を表示します。

#### [構文]

```
ssc iso show VMName [-vertical]
```

#### [引数/オプション]

<i>VMName</i> (必須)	仮想マシンをフルパスで指定します。
<i>[-vertical]</i>	表示形式を指定します。 省略した場合、CSV形式で表示します。

#### [構文例]

```
>ssc iso show virtual:/VC/DataCenter/VMServer/vm
>ssc iso show virtual:/VC/DataCenter/VMServer/vm -vertical
```

### 3.2.24. ISOイメージのアンマウント

仮想マシンから ISOイメージをアンマウントします。

#### [構文]

```
ssc iso unmount VMName Ctrl Position
```

#### [引数/オプション]

<i>VMName</i> (必須)	仮想マシンをフルパスで指定します。
<i>Ctrl</i> (必須)	コントローラを指定します。
<i>Position</i> (必須)	位置を指定します。

#### [構文例]

```
>ssc iso unmount virtual:/VC/DataCenter/VMServer/vm ide1 0
```



## 3.3. 配置制約

### 3.3.1. 配置制約の設定

仮想マシンの配置制約を設定します。

[構文]

```
ssc vmop set-rule GroupName SourceName [TargetName] [-type Type] [-o options]  
[-priority n]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置制約を設定する、種別がVMサーバのグループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
<i>SourceName</i> (必須)	配置制約を設定する元のホスト / VM制約グループ名を指定します。 ホスト名の場合、所属するグループを含めたパスを指定します。  ホスト / VM制約グループは自動的に判別されますが、 "()" で囲んで指定した場合は、常にVM制約グループとみなします。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト、(VM制約グループ)、VM制約グループ)
[ <i>TargetName</i> ]	配置制約を設定する先のホスト / VMサーバ制約グループ名を指定します。 -typeが "eq"、"hold" の場合は、省略します。 ホスト名の場合、所属するグループを含めたパスを指定します。  ホスト / VMサーバ制約グループは自動的に判別されますが、 "()" で囲んで指定した場合は、常にVMサーバ制約グループとみなします。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト、 (VMサーバ制約グループ)、VMサーバ制約グループ)  配置制約を設定する先のホスト名のみを指定した場合、 <i>GroupName</i> のグループに所属するホストとみなされます。
[-type <i>Type</i> ]	配置制約の種別を指定します。 pinned : <i>SourceName</i> の仮想マシン (ホスト / VM制約グループ) を <i>TargetName</i> の仮想マシンサーバ (ホスト / VMサーバ制約グループ) に配置します。 eq : <i>SourceName</i> で指定されたVM制約グループに所属する仮想マシンを、 同一の仮想マシンサーバに配置します。 hold : <i>SourceName</i> で指定された仮想マシン (ホスト / VM制約グループ) を、 移動対象から除外します。  -type を省略した場合、"pinned" が指定されます。
[-o <i>options</i> ]	配置制約のオプションを設定します。(複数指定可能) オプションは-typeが "pinned" の場合に指定できます。 force : 配置制約を強制します。 weak : 最適起動の利用時、故障などの理由で起動できる 仮想マシンサーバが存在しない場合は、無視します。
[-priority <i>n</i> ]	優先度を指定します。 優先度は-typeが "pinned" の場合に指定できます。 値域は $1 \leq n \leq 4$ 省略時、1 (最高) 指定となります。

- 既に設定済み (*GroupName*、*SourceName*、*TargetName*が同じ) の場合、上書きします。

## [構文例]

```
>ssc vmop set-rule VmServer-g/Esx-g-01
Vm-g/vm01 VmServer-g/Esx-g-01/esx01
>ssc vmop set-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
Vm-g/vm01 VmServer-g/Esx-g-01/esx01 -type pinned
>ssc vmop set-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
(vm-pinned-group) (vms-pinned-group) -type pinned
>ssc vmop set-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
(vm-eq-group) -type eq
>ssc vmop set-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
(vm-hold-group) -type hold
>ssc vmop set-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
Vm-g/vm01 VmServer-g/Esx-g-01/esx01 -type pinned -o force
>ssc vmop set-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
Vm-g/vm01 VmServer-g/Esx-g-01/esx01 -type pinned -o force weak
>ssc vmop set-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
Vm-g/vm01 VmServer-g/Esx-g-01/esx01 -type pinned -o weak -priority 2
```

## 3.3.2. 配置制約の削除

仮想マシンの配置制約を削除します。

### [構文]

```
ssc vmop delete-rule GroupName [SourceName] [TargetName] [-all]
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置制約を削除する、種別がVMサーバのグループ/モデルを指定します。 グループ/モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
[ <i>SourceName</i> ]	対象となる配置制約元のホスト名 (仮想マシン) のホスト名、もしくは VM制約グループ名を指定します。 ただし、"-all" 指定時以外は省略することはできません。 ホスト名の場合、所属するグループを含めたパスを指定します。  ホスト/VM制約グループは自動的に判別されますが、 "()" で囲んで指定した場合は、常にVM制約グループとみなします。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト、(VM制約グループ)、VM制約グループ)
[ <i>TargetName</i> ]	対象となる制約設定先のホスト名 (仮想マシンサーバ) のホスト名、 もしくはVMサーバ制約グループ名を指定します。 ホスト名の場合、所属するグループを含めたパスを指定します。  ホスト/VMサーバ制約グループは自動的に判別されますが、 "()" で囲んで指定した場合は、常にVMサーバ制約グループとみなします。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト、 (VMサーバ制約グループ)、VMサーバ制約グループ)
[-all]	<i>GroupName</i> のみ指定した場合、VMサーバモデルに関連付いている すべての配置制約を削除します。 <i>GroupName</i> 、 <i>SourceName</i> 、または <i>TargetName</i> を指定した場合、VMサーバモデルと 指定したホスト/制約グループに関連付いているすべての配置制約を削除します。

### [構文例]

```
1) SourceHost (仮想マシン) とTargetHost (仮想マシンサーバ) の制約を削除する。
>ssc vmop delete-rule VmServer-g/Esx-g-01
```

```

Vm-g/vm01 VmServer-g/Esx-g-01/esx01
2) SourceGroup (VM制約グループ) とTargetHost (仮想マシンサーバ)
   の制約を削除する。
   >ssc vmop delete-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
   (vm-pinned-group) VmServer-g/Esx-g-01/esx01
3) SourceGroup (VM制約グループ) のEQ制約を削除する。
   >ssc vmop delete-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01 (vm-eq-group)
4) SourceHost (仮想マシン) の制約をすべて削除する。
   >ssc vmop delete-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
   Vm-g/vm01 -all
5) TargetHost (仮想マシンサーバ) の制約をすべて削除する。
   >ssc vmop delete-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
   VmServer-g/Esx-g-01/esx01 -all
6) SourceGroup (VM制約グループ) の制約をすべて削除する。
   >ssc vmop delete-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01
   (vm-restriction-group) -all
7) GroupName (VM サーバモデル) の制約をすべて削除する。
   >ssc vmop delete-rule VmServer-g/Esx-g-01/VmsModel01 -all

```

### 3.3.3. 配置制約の有効化

仮想マシンの配置制約設定を有効にします。

#### [構文]

```
ssc vmop enable-rule GroupName
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置制約を有効とする、種別がVMサーバのグループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
--------------------------	--

#### [構文例]

```

>ssc vmop enable-rule VMS-Group
>ssc vmop enable-rule VMS-Group/VMS-Model

```

### 3.3.4. 配置制約の無効化

仮想マシンの配置制約設定を無効にします。

#### [構文]

```
ssc vmop disable-rule GroupName
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置制約を無効にする、種別がVMサーバのグループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
--------------------------	--

#### [構文例]

```

>ssc vmop disable-rule VMS-Group
>ssc vmop disable-rule VMS-Group/VMS-Model

```

### 3.3.5. 配置制約に従った配置

仮想マシンを配置制約に従って配置します。

#### [構文]

```
ssc vmop apply-rule GroupName [TargetHostName]
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置制約適用の対象となる、種別がVMサーバのグループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
[ <i>TargetHostName</i> ]	配置制約の設定先のホスト名を指定します。 対象の仮想マシンサーバが稼動している必要があります。

#### [構文例]

```
>ssc vmop apply-rule Category/Group1  
>ssc vmop apply-rule Category/Group1/Model1 Host1
```

### 3.3.6. 配置制約の表示

仮想マシンの配置制約設定を表示します。

#### [構文]

```
ssc vmop show-rule [GroupName] [-vertical]
```

#### [引数/オプション]

[ <i>GroupName</i> ]	表示対象である、種別がVMサーバのグループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 <i>GroupName</i> を省略した場合、全グループ / モデルの配置制約の有効 / 無効状態を表示します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
[-vertical]	情報表示形式で表示します。このオプションを省略した場合、 CSV形式 (1行単位のカンマ区切り) で表示します。

- CSV形式の場合、制約グループは“( [*制約グループ名*] )”の形式で表示されます。

#### [構文例]

```
>ssc vmop show-rule  
>ssc vmop show-rule -vertical  
>ssc vmop show-rule test1/test2/vmsgroup  
>ssc vmop show-rule test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01  
>ssc vmop show-rule test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01 -vertical
```

#### [表示例]

```
>ssc vmop show-rule -vertical  
  GroupName : //test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01      Restriction : Enabled  
  GroupName : //test1/test2/vmsgroup2/vmsmodel11     Restriction : Disabled  
>ssc vmop show-rule  
#GroupName, Restriction  
//test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01, Enabled  
//test1/test2/vmsgroup2/vmsmodel11, Disabled
```

```

>ssc vmop show-rule test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01 -vertical
* GroupName      : vmsmodel01
* Restriction    : Enabled
* Source
  HostName       : vmhost01
  GroupName      : ¥¥test1¥¥test2¥vmsgroup002
  MachineName    : vm100
* Target
  HostName       : vmshost01
  GroupName      : ¥¥test1¥¥test2¥vmsgroup
  MachineName    : Not Running
* RestrictionType : Pinned
* RestrictionPriority : 1
* RestrictionFlag : none
-----
* Source
  HostName       : vmhost02
  GroupName      : ¥¥test1¥¥test2¥vmsgroup002
  MachineName    : vm200
* Target
  HostName       : vmshost01
  GroupName      : ¥¥test1¥¥test2¥vmsgroup
  MachineName    : Not Running
* RestrictionType : Pinned
* RestrictionPriority : 2
* RestrictionFlag : none
-----
* Source
  RestrictionGroupName : vm-group
  GroupName            : ¥¥test1¥¥test2¥vmsgroup002
  HostName             : vmhost03
  HostName             : vmhost04
  HostName             : vmhost05
* Target
  HostName             : vmshost01
  GroupName            : ¥¥test1¥¥test2¥vmsgroup
  MachineName          : Not Running
* RestrictionType     : Pinned
* RestrictionPriority  : 1
* RestrictionFlag     : none
>ssc vmop show-rule test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01
#GroupName, Restriction, SourceHost, TargetHost, Type, Priority, Flag
"vmsmodel01", "Enabled", "vmhost01", "vmshost01", "Pinned", "1", "none"
"vmsmodel01", "Enabled", "vmhost02", "vmshost01", "Pinned", "2", "none"
"vmsmodel01", "Enabled", "(vm-group)", "vmshost01", "Pinned", "1", "none"

```

### 3.3.7. 配置制約設定の妥当性確認

仮想マシンの配置制約設定が正しいか確認します。

[構文]

```
ssc vmop verify-rule GroupName
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	確認する配置制約のVMサーバモデルを指定します。 モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/モデル、グループ/モデル)
--------------------------	--

## [構文例]

```
>ssc vmop verify-rule category/vmsGroup/model1
```

### 3.3.8. 制約グループの作成

配置制約の制約グループを作成します。

## [構文]

```
ssc vmop create-rule GroupName RestrictionGroupName
```

## [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	制約グループを作成するグループ/モデルを指定します。 仮想マシンに対する制約グループの場合、グループを指定します。 仮想マシンサーバに対する制約グループの場合、モデルを指定します。 グループ/モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
<i>RestrictionGroupName</i> (必須)	作成する制約グループの名前を指定します。

## [構文例]

```
1) VM制約グループを作成する場合  
>ssc vmop create-group Category/VmGroup-01 restriction-group  
2) VMサーバ制約グループを作成する場合  
>ssc vmop create-group Category/VmsGroup-01/EsxModel-01 vms-restriction-group
```

### 3.3.9. 制約グループの削除

配置制約の制約グループを削除します。

## [構文]

```
ssc vmop delete-group GroupName RestrictionGroupName
```

## [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	制約グループを削除するグループ/モデルを指定します。 仮想マシンに対する制約グループの場合、グループを指定します。 仮想マシンサーバに対する制約グループの場合、モデルを指定します。 グループ/モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
<i>RestrictionGroupName</i> (必須)	削除する制約グループの名前を指定します。

## [構文例]

```
1) VM制約グループを削除する場合  
>ssc vmop delete-group Category/VmGroup-01 restriction-group  
2) VMサーバ制約グループを削除する場合  
>ssc vmop delete-group Category/VmsGroup-01/EsxModel-01 vms-restriction-group
```

### 3.3.10. 制約グループへのメンバ追加

配置制約の制約グループにホストを追加します。

#### [構文]

```
ssc vmop add-member GroupName RestrictionGroupName HostName1 [HostName2]...
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	制約グループが所属するグループ/モデルを指定します。 仮想マシンに対する制約グループの場合、グループを指定します。 仮想マシンサーバに対する制約グループの場合、モデルを指定します。 グループ/モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
<i>RestrictionGroupName</i> (必須)	メンバを追加する制約グループの名前を指定します。
<i>HostName1</i> (必須) <i>[HostName2]</i> ...	制約グループに追加するホスト名を指定します。 所属するグループを含めたパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト)  複数指定した場合、指定されたすべてのホストを追加します。

#### [構文例]

```
>ssc vmop add-member Category/VmGroup-01 vm-group vm-001  
>ssc vmop add-member Category/VmGroup-01 vm-group vm-001 vm-002 vm-003  
>ssc vmop add-member Category/VmsGroup-01/EsxModel-01 vms-group vms-001
```

### 3.3.11. 制約グループからのメンバ削除

配置制約の制約グループからホストを削除します。

#### [構文]

```
ssc vmop remove-member GroupName RestrictionGroupName HostName1 [HostName2]...
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	制約グループが所属するグループ/モデルを指定します。 仮想マシンに対する制約グループの場合、グループを指定します。 仮想マシンサーバに対する制約グループの場合、モデルを指定します。 グループ/モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
<i>RestrictionGroupName</i> (必須)	メンバを削除する制約グループの名前を指定します。
<i>HostName1</i> (必須) <i>[HostName2]</i> ...	制約グループから削除するホスト名を指定します。 所属するグループを含めたパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト)  複数指定した場合、指定されたすべてのホストを削除します。

#### [構文例]

```
>ssc vmop remove-member Category/VmGroup-01 vm-group vm-001  
>ssc vmop remove-member Category/VmGroup-01 vm-group vm-001 vm-002 vm-003  
>ssc vmop remove-member Category/VmsGroup-01/EsxModel-01 vms-group vms-001
```

### 3.3.12. 制約グループ設定の表示

配置制約の制約グループ設定を表示します。

#### [構文]

```
ssc vmop show-group [GroupName] [-vertical]
```

#### [引数/オプション]

[GroupName]	制約グループ設定を表示するグループ/モデルを指定します。 仮想マシンに対する制約グループの場合、グループを指定します。 仮想マシンサーバに対する制約グループの場合、モデルを指定します。 グループ/モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)  GroupNameを省略した場合、すべてのVM制約グループの設定を表示します。
[-vertical]	情報表示形式で表示します。このオプションを省略した場合、 CSV形式 (1行単位のカンマ区切り) で表示します。

#### [構文例]

```
1) VM制約グループの設定を表示する場合
>ssc vmop show-group Category/VmGroup-01
2) VMサーバ制約グループの設定を表示する場合
>ssc vmop create-group Category/VmsGroup-01/EsxModel-01
3) VM制約グループの設定を、情報表示形式で表示する場合
>ssc vmop show-group Category/VmGroup-01 -vertical
4) すべてのVM制約グループの設定を表示する場合
>ssc vmop show-group
```

#### [表示例]

```
>ssc vmop show-group Category/VmGroup-01
#GroupName, RestrictionGroupName, Member1, Member2, ...
"VmGroup-01", "vm-group-01", "vm-001", "vm-002", "vm-003"
"VmGroup-01", "vm-group-02", "vm-004", "vm-005"
>ssc vmop show-group Category/VmGroup-01 -vertical
* RestrictionGroupName : vm-group-01
  GroupName            : ¥¥Category¥VmGroup-01
  HostName              : vm-001
  HostName              : vm-002
  HostName              : vm-003
-----
* RestrictionGroupName : vm-group-02
  GroupName            : ¥¥Category¥VmGroup-01
  HostName              : vm-004
  HostName              : vm-005
>ssc vmop show-group Category/VmsGroup-01/EsxModel-01
#GroupName, RestrictionGroupName, Member1, Member2, ...
"EsxModel-01", "vms-group-01", "vms-001", "vms-002"
"EsxModel-01", "vms-group-02", "vms-003", "vms-004", "vms-005"
```



## 3.4. データストア

### 3.4.1. データストアの表示

データストア一覧を表示します。  
csv 形式（カンマ区切りで1行単位）で出力します。

#### [構文]

```
ssc show datastore [DatastoreName <-vm | -template>] [-storage] [-path Path]  
[-vms VmsName] [-vertical]
```

#### [引数/オプション]

[ <i>DatastoreName</i> ]	指定したデータストアの詳細情報を表示します。
[-vm]	指定したデータストアに配置されている仮想マシンの情報を表示します。
[-template]	指定したデータストアに配置されているテンプレートの情報を表示します。
[-storage]	仮想マシンサーバに接続されているデータストア/LUN情報を表示します。
[-path <i>Path</i> ]	データストアが所属するDataCenter、または仮想マシンサーバを指定します。
[-vms <i>VmsName</i> ]	仮想マシンサーバ名を指定します。(-storage のときに有効です)
[-vertical]	表示方法を指定します。(形式 = 項目名 : 値) 省略した場合、CSV形式で表示します。

#### [注]

- ssc show datastore -storage についての注意事項
  - 複数のLUNで1つのデータストアを作成している場合やマルチパス環境の場合は、同じ *DatastoreName* を示す *PathId* が異なる複数のデータストアとして表示されます。
  - 未使用の場合でも ssc rdmstorage update コマンドや連携製品でRDM 用として設定しているディスクボリューム (LUN) は表示されません。

#### [構文例]

```
>ssc show datastore  
>ssc show datastore -path VC1/DC  
>ssc show datastore -path VC1/DC/VMServer  
>ssc show datastore Storage1 -vertical  
>ssc show datastore Storage1 -vm  
>ssc show datastore Storage1 -template  
>ssc show datastore -storage -path vc1/datacenter/vms1  
>ssc show datastore -storage -vms vms1 -vertical
```

#### [表示例]

```
>ssc show datastore  
#DatastoreName, DatastoreSize (GB), DatastoreUsage (GB), DatastoreFree (GB), Datastore  
"iStorageS500", "265.8", "261.2", "4.5", "98", "virtual:/192.168.10.220/dataCenterA", "1  
"iStorageS500", "265.8", "217.7", "48.1", "81", "virtual:/192.168.10.220/dataCenterB", "
```

```
>ssc show datastore -path  
"virtual:/192.168.10.220/dataCenterA"  
#DatastoreName, DatastoreSize (GB), DatastoreUsage (GB), DatastoreFree (GB), Datastore  
"iStorageS500", "265.8", "261.2", "4.5", "98", "virtual:/192.168.10.220/dataCenterA", "1
```

```
>ssc show datastore iStorageS500 -path  
"virtual:/192.168.10.220/dataCenterA"  
[Datastore]
```

```
#DatastoreName, DatastoreSize (GB), DatastoreUsage (GB), DatastoreFree (GB), Datastore
"iStorageS500", "265.8", "261.2", "4.5", "98", "virtual:/192.168.10.220/dataCenterA", "1
[Machine]
#MachineName, MachineType, Uuid, MacAddress, ProductName, ModelName, ManagedStatus, Summa
"MasterMachine", "VMware, Virtual Machine", "42043949-9fde-6cb5-297c-bc5cd39a6de7", "
"MasterVM", "VMware, Virtual Machine", "42049b63-168e-86d0-83c8-e57319cb622d", "00:50
[Template]
#SoftwareName, CreateTime, SoftwareCost, SoftwareType, VMServerName, SoftwareLocation, I
"FullCloneTemplate", "2010/07/09 15:16:13", "1", "Template, FullClone", "192.168.220.1
```

```
>ssc show datastore "iStorageS500" -path
"virtual:/192.168.10.220/dataCenterA" -vm
[Machine]
#MachineName, MachineType, Uuid, MacAddress, ProductName, ModelName, ManagedStatus, Summa
"MasterMachine", "VMware, Virtual Machine", "42043949-9fde-6cb5-297c-bc5cd39a6de7", "
"MasterVM", "VMware, Virtual Machine", "42049b63-168e-86d0-83c8-e57319cb622d", "00:50
```

```
>ssc show datastore "Storage1 (1)" -path
"virtual:/192.168.10.171/New Datacenter/192.168.10.175" -template
#SoftwareName, CreateTime, SoftwareCost, SoftwareType, VMServerName, SoftwareLocation, I
"FullCloneTemplate", "2010/07/09 15:16:13", "1", "Template, FullClone", "192.168.220.1
```

```
>ssc show datastore Storage1 -vertical
[Datastore-01]
DatastoreName      : iStorageS500
DatastoreSize (GB) : 265.8
DatastoreUsage (GB) : 261.2
DatastoreFree (GB) : 4.5
DatastoreUtilization (%) : 98
DataCenterPath     : virtual:/192.168.10.220/dataCenterA
VmsManagerName     : 192.168.220.142, 192.168.220.148
[Machine-01]
MachineName        : MasterMachine
MachineType        : VMware, Virtual Machine
Uuid               : 42043949-9fde-6cb5-297c-bc5cd39a6de7
MacAddress         : 00:50:56:84:78:F6
ProductName        : VMware Virtual Machine 7
:
:
:
IPAddress         :
MachineSubType    : MasterVM
Cost              : 0
MemorySize (MB)   :
Processor         :
CPUCount          :
CPULimit (MB)    :
CPUShare         :
DiskUsage (GB)   :
[Machine-02]
:
:
:
[Template-01]
SoftwareName      : FullCloneTemplate
CreateTime       : 2010/07/09 15:16:13
SoftwareCost     : 1
SoftwareType     : Template, FullClone
VMServerName     : 192.168.220.142
SoftwareLocation : iStorageS500
ImageName        : FullCloneTemplate
```

```
DiskSize (MB) : 1024
Description :
```

```
>ssc show datastore -storage -vms vms1 -vertical
[Datastore-01]
  DatastoreName : iStorage001
  LUN           : 1
  PathId        : vmhba1:2:3:4:5
  UniqueId      : eui.123456789e123456
  WWPN          : -
  WWNN          : -
  RemoteHost    : -
  MountPoint    : -
  Size (GB)     : 500.0
[Datastore-02]
  DatastoreName : Storage1
  LUN           : 2
  PathId        : vmhba1:3:5:7:9
  UniqueId      : mpx.vmhba1:C3:T5:L7
  WWPN          : -
  WWNN          : -
  RemoteHost    : -
  MountPoint    : -
  Size (GB)     : 40.5
[Datastore-03]
  DatastoreName : iStorage002
  LUN           : 3
  PathId        : vmhba2:4:6:8:0
  UniqueId      : eui.987654321e654321
  WWPN          : -
  WWNN          : -
  RemoteHost    : -
  MountPoint    : -
  Size (GB)     : 550.6
```

### 3.4.2. データストアの作成

データストアの作成を行います。

#### [構文]

```
ssc create datastore DatastoreName VmsName <-lun LUN -hban HBANo |
-pathid PathId | -uniqueid UniqueId | -folder FolderName -server ServerAddress>
```

#### [引数/オプション]

<i>DatastoreName</i> (必須)	作成するデータストア名を指定します。
<i>VmsName</i> (必須)	データストアを作成する仮想マシンサーバを指定します。
-lun <i>LUN</i>	作成するデータストアのLUN番号を指定します。
-hban <i>HBANo</i>	作成するデータストアのHBA番号を指定します。 ローカルDiskの場合と仮想マシンサーバに HBAを登録していない場合は、指定できません。
-pathid <i>PathId</i>	作成するデータストアのパスIdを指定します。
-uniqueid <i>UniqueId</i>	作成するデータストアの識別名を指定します。
-folder <i>FolderName</i>	作成するデータストアのフォルダを指定します。 (例: /nfs_volume)

`-server ServerAddress` 作成するデータストアのフォルダがあるサーバを指定します。

#### [注]

- 1つのHBAが複数のストレージ装置に接続されている場合は、“-lun LUN”と“-hbaNo HBANo”を指定してデータストアを作成することはできません。
- NFSデータストアを作成する場合は、`< -folder FolderName -server ServerAddress >`を指定してください。
- コマンドや連携製品で RDM 用として設定しているディスクボリューム (LUN) はデータストアの作成に使用できません。

#### [構文例]

```
>ssc create datastore DatastoreSan1 vms-1 -lun 0 -hbaNo 1
>ssc create datastore DatastoreSan1 vms-1 -pathid vmhba0:1:1:0
>ssc create datastore DatastoreSan1 vms-1 -uniqueid "eui.003013840e640001"
>ssc create datastore DatastoreSan1 vms-1 -uniqueid "003013840e640001"
>ssc create datastore DatastoreSan1 vms-1
  -uniqueid "naa.60060160967021004ab70806c311de10"
>ssc create datastore NfsDatastore1 esx10.ssc-asc.net -folder /Volume-001
  -server 172.26.0.201
```

### 3.4.3. データストアの削除

データストアの削除を行います。

#### [構文]

```
ssc delete datastore DatastoreName VmsName
```

#### [引数/オプション]

<i>DatastoreName</i> (必須)	削除するデータストア名を指定します。
<i>VmsName</i> (必須)	削除するデータストアが接続されている仮想マシンサーバを指定します。

#### [注]

- 指定したデータストアに、仮想マシンやテンプレートが存在する場合は、削除できません。

#### [構文例]

```
>ssc delete datastore storage1 vms1
```

### 3.4.4. 仮想マシンサーバ接続データストア情報の更新

仮想マシンサーバに接続されているデータストア情報を更新します。

#### [構文]

```
ssc scan datastore <VmsName | -model ModelName>
```

#### [引数/オプション]

<i>VmsName</i>	スキャン対象の仮想マシンサーバを指定します。
<code>-model ModelName</code>	VMサーバモデルを指定します。 指定された場合は、VMサーバモデル配下の仮想マシンサーバに対してスキャンを行います。

VMサーバモデル以外は指定できません。

#### [構文例]

```
>ssc scan datastore vms-1
>ssc scan datastore -model tenant1/vmsgroup1/esxmodel
```

### 3.4.5. データストア設定情報を更新

データストア設定情報を更新します。

#### [構文]

```
ssc update datastore DatastoreName [-path Path] [-capacity Value] [-desiredmax Value] [-tag Tag...]
```

#### [引数/オプション]

<i>DatastoreName</i> (必須)	設定するデータストアを指定します。 大文字 / 小文字を区別して指定してください。
[-path <i>Path</i> ]	データストアが所属するDataCenter、または仮想マシンサーバのPathを指定します。 省略された場合は、全体から検索します。
[-capacity <i>Value</i> ]	VM数上限を指定します。(0 <= value <= 100000)
[-desiredmax <i>Value</i> ]	使用率上限 (%) を指定します。(0 <= value <= 100)
[-tag <i>Tag...</i> ]	タグを指定します。複数指定可能です。

※-capacity, -desiredmax, -tagのうち、いずれか1つは必ず指定してください。

#### [構文例]

```
>ssc update datastore storage1 -path vc1/DataCenter1/VMS1 -capacity 1000
>ssc update datastore storage1 -path vc1/DataCenter1/VMS1 -desiredmax 50
>ssc update datastore storage1 -path vc1/DataCenter1/VMS1 -tag public
>ssc update datastore storage1 -path vc1/DataCenter1/VMS1 -capacity 1000
  -desiredmax 50 -tag private VMS1
>ssc update datastore storage1 -capacity 1000 -desiredmax 50
```

### 3.4.6. 仮想マシン作成先データストアの設定

仮想マシン作成先データストアの設定をします。

#### [構文]

```
ssc set datastore-setting Path [DatastoreName] < [-priority Value] [-candidate < true | false >] | [-delete] >
```

#### [引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	設定対象運用グループ、モデルまたはホストまでのフルパスを指定します。 ビュータイプ (operations:/) は省略可能です。 テナント、カテゴリは指定できません。 例: グループ指定の場合 Category/Group モデル指定の場合
---------------------	---

	Category/Group/Model ホスト指定の場合 Category/Group/Host ホスト指定の場合 (ビュータイプ指定時) operations:/Category/Group/Host
[ <i>DatastoreName</i> ]	設定するデータストアを指定します。 大文字 / 小文字を区別して指定してください。 -candidate falseのときは省略可能です。
[-priority <i>Value</i> ]	優先度を指定します。(1 <= value <= 10)
[-candidate < true   false >]	仮想マシン作成先候補にするかどうかを指定します。 true: VM作成先候補とする。 false: VM作成先候補としない。 ※falseのときは、 <i>DatastoreName</i> の指定が省略できます。 その場合、すべてが候補先から外れます。
[-delete]	設定を破棄します。

※-priority, -candidateのうち、いずれか1つは必ず指定してください。

#### [構文例]

```
>ssc set datastore-setting category/vmsgroup storage1 -priority 2
-candidate false
>ssc set datastore-setting category/vmsgroup storage1 -candidate true
>ssc set datastore-setting category/vmsgroup/model storage1 -priority 2
>ssc set datastore-setting category/vmsgroup/host1 storage1 -priority 2
>ssc set datastore-setting category/vmsgroup storage1 -delete
>ssc set datastore-setting category/vmsgroup -candidate false
```

### 3.4.7. データストア配下のファイル/サブフォルダの表示

#### datastorefile show

指定フォルダ配下のファイル / サブフォルダを表示します。

#### [構文]

```
ssc datastorefile show -vms Vms -datastore DataStore [-path Path] [-type Type]
[-size Size] [-index [start=Start] count=Count]
```

#### [引数/オプション]

-vms <i>Vms</i> (必須)	仮想マシンサーバを指定します。
-datastore <i>DataStore</i> (必須)	データストアを指定します。
[-path <i>Path</i> ]	フォルダのパスを指定します。
[-type <i>Type</i> ]	表示するファイルタイプを指定します。
[-size <i>Size</i> ]	サイズを指定します。
[-index [start= <i>Start</i> ] count= <i>Count</i> ]	start は省略可能です。 -indexを指定する場合、count は必須オプションです。

#### [構文例]

```
>ssc datastorefile show -vms 192.**.**.** -datastore DS1
```

## 3.5. リソースプール

### 3.5.1. リソースプールの作成/切り出し

リソースプールを作成します。

#### [構文]

```
ssc resourcepool create <-root GroupName ResourcePoolName vCPU |
ParentResourcePool SubResourcePool [-resource [overcommit=on] [vcpu=value]
[memory=value] [storage=value] [vm=value]]> [-private [GroupName]] [-desc
description]
```

#### [引数/オプション]

<pre>-root <i>GroupName</i> <i>ResourcePoolName vCPU</i></pre>	<p>リソースプール作成時に指定します。          仮想マシンサーバのグループを指定します。  <i>GroupName</i> : リソースプールを作成するグループのパスを指定します。仮想マシンサーバのグループを指定します。  <i>ResourcePoolName</i> : 作成するリソースプール名を指定します。  <i>vCPU</i> : vCPUの数、あるいは周波数(MHz)を指定します。          例          数を指定する場合は、10vpc、または10          周波数を指定する場合は、300mhz</p>
<pre><i>ParentResourcePool</i> <i>SubResourcePool</i> [-resource [overcommit=on] [<i>vcpu=value</i>] [<i>memory=value</i>] [<i>storage=value</i>] [<i>vm=value</i>]]</pre>	<p>リソースプール切り出し時に指定します。  <i>ParentResourcePool</i> : 親リソースプール名を指定します。  <i>SubResourcePool</i> : 切り出すサブリソースプール名を指定します。          -resource : リソース情報の設定をします。          "="の前後に空白は指定できません。          overcommit=on : 最大値を超えた割り当てを許容する場合に指定します。          vcpu : <i>value</i> にvCPU数を指定します。          memory : <i>value</i> にメモリサイズ[MB]を指定します。          storage : <i>value</i> にストレージ容量[GB]を指定します。          vm : <i>value</i> にVM数を指定します。</p>
<pre>[-private [<i>GroupName</i>]]</pre>	<p>専有リソースプール作成時に指定します。          このオプションを指定しない場合は、共有リソースプールが作成されます。  <i>GroupName</i>にリソースプールを割り当てるグループを指定します。(省略可)</p>
<pre>[-desc <i>description</i>]</pre>	<p>説明を指定します。</p>

#### [構文例]

```
>ssc resourcepool create -root vms/vmsgroup1 resourcepool1 10vpc
>ssc resourcepool create -root vms/vmsgroup1 resourcepool1 20
>ssc resourcepool create -root vms/vmsgroup1 resourcepool1 300mhz
>ssc resourcepool create -root vms/vmsgroup1 resourcepool1 20vpc
-private -desc "private resourcepool"
>ssc resourcepool create -root vms/vmsgroup1 resourcepool1 300mhz
-private tenant/tenant1
>ssc resourcepool create resourcepool1 subresource1 -private
-resource vcpu=2 memory=512 storage=100 vm=5
>ssc resourcepool create resourcepool1 subresource1 -resource vcpu=2 vm=5
>ssc resourcepool create resourcepool1 subresource1 -private tenant/tenant1
>ssc resourcepool create resourcepool1 subresource1 -desc "public resource pool"
```

## 3.5.2. リソースプールの表示

リソースプール情報を表示します。

### [構文]

```
ssc resourcepool show [ResourcePoolName] [-all]
```

### [引数/オプション]

[ <i>ResourcePoolName</i> ]	表示するリソースプール名を指定します。 サブリソースプールも指定可能です。 省略した場合は、リソースプール名を列挙します。 行の先頭文字のRはRootを、SはSubを表します。
[-all]	サブリソースプールまで列挙するときに指定します。

### [構文例]

```
>ssc resourcepool show  
>ssc resourcepool show -all  
>ssc resourcepool show rp-gold-tokyo-1  
>ssc resourcepool show subResourcePool-A
```

### [表示例]

```
>ssc resourcepool show  
R rp-gold-tokyo-1  
R rp-gold-kobe-1  
R rp-gold-us-east-1  
R rp-silver-tokyo-1  
R rp-silver-kobe-1  
>ssc resourcepool show -all  
R rp-gold-tokyo-1  
R rp-gold-kobe-1  
S subResourcePool-A  
S subResourcePool-B  
R rp-gold-us-east-1  
R rp-silver-tokyo-1  
R rp-silver-kobe-1  
S subResourcePool-C  
>ssc resourcepool show rp-gold-tokyo-1  
[Base]  
vCPU: 300MHz  
Type: shared  
Overcommit: false  
[ResourcePool]  
#type, capacity, consumed, unused, reserved, actually-used  
cpu, 170624MHz, 50MHz, 170574MHz, 300000MHz, 1440MHz  
vcpu, 100, 20, 80, 50, 10  
memory, 2048MB, 512MB, 1536MB, 1024MB, 3000MB  
storage, 200GB, 10GB, 190GB, 100GB, 150GB  
vm, 20, 10, 10, 20, 15  
[SubResourcePool]  
#name, vcpu, vcpu-reserved, memory, memory-reserved, storage, storage-reserved, vm, vm-reserved  
subResourcePool-A, 50/500, 0, 12800/200000, 0, 200.00/2000.00, 0.0, 50/600, 0, "Tenant1"  
subResourcePool-B, 50/300, 0, 12800/300000, 0, 200.00/1000.00, 0.0, 50/400, 0, ""  
>ssc resourcepool show rp-silver-kobe-1  
[Base]  
vCPU: 20vpc  
Type: dedicated
```



```

Overcommit: false
[ResourcePool]
#type, capacity, consumed, unused, reserved, actually-used
cpu, 170624MHz, 50MHz, 170574MHz, 300000MHz, 1440MHz
vcpu, 100, 20, 80, 50, 10
memory, 2048MB, 512MB, 1536MB, 1024MB, 3000MB
storage, 200GB, 10GB, 190GB, 100GB, 150GB
vm, 20, 10, 10, 20, 15
[SubResourcePool]
#name, vcpu, vcpu-reserved, memory, memory-reserved, storage, storage-reserved, vm, vm-reserved
subResourcePool-C, 50/500, 0, 12800/200000, 0, 200.00/2000.00, 0.0, 50/600, 0, "Tenant2"
>ssc resourcepool show subResourcePool-A
[Base]
Parent: rp-gold-tokyo-1
Type: dedicated
Overcommit: true
[ResourcePool]
#type, capacity, consumed, unused, reserved, actually-used
vcpu, 100, 20, 80, 50, 10
memory, 2048MB, 512MB, 1536MB, 1024MB, 3000MB
storage, 200GB, 10GB, 190GB, 100GB, 150GB
vm, 20, 10, 10, 20, 15
[SubResourcePool]
#name, vcpu, vcpu-reserved, memory, memory-reserved, storage, storage-reserved, vm, vm-reserved

```

### 3.5.3. リソースプールの削除

リソースプールを削除します。

#### [構文]

```
ssc resourcepool delete Path ResourcePoolName
```

#### [引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	削除するリソースプールが存在するグループのパスを指定します。 仮想マシンサーバのグループを指定します。
<i>ResourcePoolName</i> (必須)	削除するリソースプール名、またはサブリソースプール名を指定します。

#### [構文例]

```

>ssc resourcepool delete category1/VMServer ResourcePool1
>ssc resourcepool delete category1/VMServer SubResourcePool1

```

## 3.6. 配置情報

### 3.6.1. 配置情報の設定

仮想マシンの配置情報を設定します。

#### [構文]

```
ssc vmop set-position GroupName [SourceHostName] [TargetHostName] -key keyword
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置情報を設定するVMグループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
[ <i>SourceHostName</i> ]	配置情報を設定する元のホスト名を指定します。 所属するグループを含めたパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト)  省略した場合、 <i>GroupName</i> で指定したグループ内のすべてのホストに対し、現在の配置で配置情報を設定します。
[ <i>TargetHostName</i> ]	配置情報を設定する先のホスト名を指定します。 所属するグループを含めたパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト)  省略した場合、 <i>SourceHostName</i> で指定したホストに対し、現在の配置で配置情報を設定します。
-key <i>keyword</i> (必須)	配置情報の名前を設定します。

#### [注]

- *TargetHostName*を省略した場合において、現在の配置先のVMサーバが運用グループで管理されていない場合には、配置情報が作成されません。
- *keyword*で指定できる配置情報名には、以下の制限があります。
  - 文字列長 : 32文字以内
  - 文字種別 : 半角英数 (*a-z, A-Z, 0-9*)、ハイフン (-)、アンダーバー (\_)

#### [構文例]

```
>ssc vmop set-position Vm-g/Vm-g-01 -key keyword  
>ssc vmop set-position Vm-g/Vm-g-01 Vm-g/vm01 -key keyword  
>ssc vmop set-position Vm-g/Vm-g-01 Vm-g/vm01 VmServer-g/Esx-g-01/esx01  
-key keyword
```

### 3.6.2. 配置情報の削除

仮想マシンの配置情報設定を削除します。

#### [構文]

```
ssc vmop delete-position GroupName [HostName] -key keyword
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置情報を削除するVMグループ/モデルを指定します。 グループ/モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
--------------------------	---

[ <i>HostName</i> ]	配置情報を削除するVMのホスト名を指定します。 所属するグループを含めたパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト)  省略した場合、 <i>GroupName</i> で指定したグループ内のすべてのホストに対し、指定した名前の配置情報を削除します。
-key <i>keyword</i> (必須)	配置情報の名前を設定します。

#### [構文例]

```
>ssc vmop delete-position Vm-g/Vm-g-01 -key keyword
>ssc vmop delete-position Vm-g/Vm-g-01 Vm-g/vm01 -key keyword
```

### 3.6.3. 配置情報の表示

仮想マシンの配置情報設定を表示します。

#### [構文]

```
ssc vmop show-position GroupName [-key keyword]
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置情報を表示するVMグループ/モデルを指定します。 グループ/モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
[-key <i>keyword</i> ]	配置情報の名前を設定します。 省略した場合、 <i>GroupName</i> で指定したグループ内のすべてのホストで利用されている配置情報名の一覧を表示します。

#### [注]

- 以下の条件を満たす場合、配置先として<INVALID>が表示されます。
  - 配置元の仮想マシンのホスト、もしくは、配置先の仮想マシンサーバのホストにマシンが割り当てられていない場合
  - 配置先の仮想マシンサーバが削除されたなどの理由で、配置先が不明となっている場合

#### [構文例]

```
>ssc vmop show-position Vm-g/Vm-g-01
>ssc vmop show-position Vm-g/Vm-g-01 -key keyword
```

#### [表示例]

```
>ssc vmop show-position Vm-g/Vm-g-01
#Keyword
"keyword1"
"keyword2"
"keyword3"
>ssc vmop show-position Vm-g/Vm-g-01 -key keyword1
#SourceHost, TargetHost
"vmhost01", "vmshost01"
"vmhost02", "vmshost01"
"vmhost03", "vmshost02"
"vmhost04", "<INVALID>"
```

### 3.6.4. 配置情報の適用

仮想マシンを配置情報に従って配置します。

#### [構文]

```
ssc vmop apply-position GroupName [TargetHostName] -key keyword
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置情報を適用するVMグループ / モデル、もしくはVMサーバグループ / モデルを指定します。 グループ / モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ/モデル)
[ <i>TargetHostName</i> ]	対象のホスト名を指定します。 所属するグループを含めたパスを指定します。 対象のホストが稼動している必要があります。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト)  省略した場合、 <i>GroupName</i> で指定したグループ内のすべてのホストに対し、配置情報の適用を行います。
-key <i>keyword</i> (必須)	配置情報の名前を設定します。

#### [注]

- *GroupName*にVMグループ / モデルを指定した場合
  - 移動対象となる仮想マシンは、指定されたグループ / モデルに所属している仮想マシンとなります。
  - *TargetHostName*は、*GroupName*で指定したグループ下の仮想マシンを指定する必要があります。
- *GroupName*にVMサーバグループ / モデルを指定した場合
  - 移動対象となる仮想マシンは、指定されたグループ / モデルに所属している仮想マシンサーバ上の仮想マシンとなります。
  - *TargetHostName*は、*GroupName*で指定したグループ下の仮想マシンサーバを指定する必要があります。
  - *TargetHostName*を指定した場合、移動対象となる仮想マシンは、次の条件を満たすものとなります。
    - 指定された仮想マシンサーバ上に所属している仮想マシン
    - 指定された仮想マシンサーバを、配置先として設定されている仮想マシン
- 配置情報適用の詳細については、「SigmaSystemCenterリファレンスガイド 概要編」の「3.12.16. VM配置情報について」を参照してください。

#### [構文例]

```
>ssc vmop apply-position Vm-g/Vm-g-01 -key keyword  
>ssc vmop apply-position Vm-g/Vm-g-01 Vm-g/vm01 -key keyword  
>ssc vmop apply-position VmServer-g/Esx-g-01 -key keyword  
>ssc vmop apply-position VmServer-g/Esx-g-01 VmServer-g/Esx-g-01/esx01  
-key keyword
```

## 4. 保守コマンド

本章では、SigmaSystemCenter の保守に関するコマンドについて記載します。

### 4.1. 運用ログ

#### 4.1.1. 運用ログの表示

運用ログを表示します。

-all指定時を除き、表示できる件数は、最大100件です。  
全パラメータを省略した場合は、ログの最新日時から100件が表示されます。  
-allを指定した場合、データベースに残っているすべてのログ情報を表示します。

#### 【構文】

```
ssc show log [-date [yyyy/mm/dd] [hh:mm:ss]] [-days Number] [-level LogLevel]
[-category <user | policy | system>] [-eventnum EventNumber] [-jobid JobID]
[-all] [-vertical]
```

#### 【引数/オプション】

<code>[-date [yyyy/mm/dd] [hh:mm:ss]]</code>	表示対象となる基点の日時を指定します。 表示件数は、最大100件です。 時間（時分秒）を省略すると、00:00:00が設定されます。 年月日を省略すると、実行した年月日が設定されます。 -dateを省略すると、運用ログの最新日時が基点となります。 -allと同時に指定はできません。
<code>[-days Number]</code>	表示対象となる日数を指定します。 正の値は、基点となる-dateの日時以後の日数分となります。 負の値は、基点となる-dateの日時以前の日数分となります。 0は、-1となります。 既定値は、(-3) です。 -allと同時に指定はできません。
<code>[-level LogLevel]</code>	ログレベルを指定します。指定したログレベル以上の運用ログを表示します。 ログレベルは「fatal」、「error」、「warning」、「normal」、「detail」、「trace」のいずれか1つを指定できます。
<code>[-category &lt;user   policy   system&gt;]</code>	イベント区分で絞込みを行います。(複数指定可) -categoryの指定がない場合はすべてのイベント区分が対象です。 以下のイベント区分を指定できます。 user : ユーザを指定します。 policy : ポリシーを指定します。 system : システムを指定します。
<code>[-eventnum EventNumber]</code>	イベント番号で絞込みを行います。 EventNumber : イベント番号を指定します。 -jobid, -allと同時に指定はできません。
<code>[-jobid JobID]</code>	ジョブIDで絞込みを行います。 JobID : ジョブIDを指定します。 -eventnum, -allと同時に指定はできません。
<code>[-all]</code>	すべての運用ログを表示します。
<code>[-vertical]</code>	表示形式を変更します。(形式 = 項目名:値)

## [構文例]

```
>ssc show log
>ssc show log -date "2008/10/14 09:00:00" -days -1
>ssc show log -date "2008/10/14" -days -1 -level error
>ssc show log -level normal
>ssc show log -category user system
>ssc show log -eventnum SY00002
>ssc show log -jobid 00001
>ssc show log -all
```

## 4.2. ポリシー

### 4.2.1. ポリシーをエクスポートする

ポリシー情報をXML ファイルに出力します。

#### [構文]

```
ssc export policy FileName PolicyName... [-template]
```

#### [引数/オプション]

<i>FileName</i> (必須)	ポリシー情報を出力するXMLファイル名を指定します。 [-template] を指定した場合、アクションテンプレートデータを出力するXMLファイル名を指定します。ファイル名のパスに空白文字を含む場合、二重引用符 (") で囲む必要があります。 ファイル名のみ指定した場合、本コマンド実行時のカレントフォルダのファイルが対象になります。パスを指定せずに、ファイル名のみ指定した場合、コマンドを実行したフォルダにファイルを作成します。
<i>PolicyName...</i> (必須)	対象のポリシー名を指定します。 [-template] を指定した場合、アクションテンプレート名を指定します。
[-template]	アクションテンプレートデータを出力します。

#### [構文例]

```
>ssc export policy C:¥work¥policy1.xml policyA1  
>ssc export policy C:¥work¥policy2.xml "policy B1" "policy B2"  
>ssc export policy "C:¥Documents and Settings¥users¥template.xml"  
template1 template2 -template
```

### 4.2.2. ポリシーをインポートする

XML ファイルからポリシー情報を取り込みます。

#### [構文]

```
ssc import policy FileName [-template]
```

#### [引数/オプション]

<i>FileName</i> (必須)	インポートするポリシー情報のXMLファイル名を指定します。 [-template] を指定した場合、アクションテンプレートデータのXMLファイル名を指定します。 ファイル名のパスに空白文字を含む場合、二重引用符 (") で囲む必要があります。ファイル名のみを指定した場合、本コマンド実行時のカレントフォルダのファイルが対象になります。
[-template]	XMLファイルからアクションテンプレートデータを取り込みます。

#### [構文例]

```
>ssc import policy C:¥work¥policy1.xml  
>ssc import policy "C:¥Documents and Settings¥users¥template.xml" -template
```

## 4.3. メンテナンス

### 4.3.1. 構成情報のメンテナンス

構成情報データベースのメンテナンスを行います。  
変更を行う場合は、SystemProvisioningを停止することを推奨します。

#### [構文]

```
ssc maintenance cmdb [-recoverymodel <simple | full>] [-defrag Average]  
[-shrinkdata]  
[-shrinklog] [-all] [-tbl]
```

#### [引数/オプション]

[-recoverymodel]	データベースの復旧モデルを設定します。 simple : 単純復旧モデル(推奨) full : 完全復旧モデル
[-defrag <i>Average</i> ]	指定された断片率以上のテーブルの断片化を解消します。 <i>Average</i> には、0から99までの断片率を指定します。 すべてのテーブルに対して行う場合は、"0" を指定してください。
[-shrinkdata]	データファイルのサイズを圧縮します。
[-shrinklog]	ログファイルのサイズを圧縮します。 ログファイルのサイズが閾値 (300MB以上) を超えている場合に実行してください
[-all]	データベース情報の詳細を表示します。(ログファイルなどのファイルパスなど)
[-tbl]	-all の後で対で指定された場合に、テーブルの断片化率もあわせて表示します。

-recoverymodel、-defrag、-shrinkdata、-shrinklog は同時に指定できません。  
オプションを指定しない場合、構成情報データベースの情報を表示します。

#### [構文例]

```
>ssc maintenance cmdb  
>ssc maintenance cmdb -recoverymodel simple  
>ssc maintenance cmdb -defrag 50  
>ssc maintenance cmdb -shrinkdata  
>ssc maintenance cmdb -shrinklog
```

#### [表示例]

##### • オプション指定なし

```
>ssc maintenance cmdb  
[Cmdb Information]  
Datafile Name : PVMINF  
Allocate Size : 142.19 MB  
Secondary Name : pvminf_2  
Allocate Size : 40.00 MB  
Logfile Name : PVMINF_log  
Allocate Size : 83.88 MB  
RecoveryModeType : Simple
```

##### • -all

```
> ssc maintenance cmdb -all  
[Cmdb Information]
```



```

#----
Database Name      : pvminf
Datafile Name      : PVMINF
                Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                Allocate Size  : 142.19 MB
                Unallocated Size : 122.75 MB
                Unallocated Ratio : 86.33 %
Secondary Name     : pvminf_2
                Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                Allocate Size  : 40.00 MB
                Unallocated Size : 0.44 MB
                Unallocated Ratio : 1.09 %
Logfile Name       : PVMINF_log
                Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                Allocate Size  : 83.88 MB
                Unallocated Size : 75.08 MB
                Unallocated Ratio : 89.52 %

#----
Database Name      : tempdb
Datafile Name      : tempdev
                Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                Allocate Size  : 2.19 MB
                Unallocated Size : 0.81 MB
                Unallocated Ratio : 37.14 %
Logfile Name       : templog
                Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                Allocate Size  : 0.50 MB
                Unallocated Size : 0.25 MB
                Unallocated Ratio : 49.60 %
RecoveryModeType   : Simple

```

• -all -tbl

```

> ssc maintenance cmdb -all -tbl
[Cmdb Information]
#----
Database Name      : pvminf
Datafile Name      : PVMINF
                Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                Allocate Size  : 142.19 MB
                Unallocated Size : 122.75 MB
                Unallocated Ratio : 86.33 %
Secondary Name     : pvminf_2
                Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                Allocate Size  : 40.00 MB
                Unallocated Size : 0.44 MB
                Unallocated Ratio : 1.09 %
Logfile Name       : PVMINF_log
                Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                Allocate Size  : 83.88 MB
                Unallocated Size : 75.08 MB
                Unallocated Ratio : 89.52 %

```

```

#----
Database Name      : tempdb
Datafile Name      : tempdev
                Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                Allocate Size  : 2.19 MB
                Unallocated Size : 0.81 MB
                Unallocated Ratio : 37.14 %

```

```

Logfile Name      : templog
      Location    : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
      Allocate Size : 0.50 MB
      Unallocated Size : 0.25 MB
      Unallocated Ratio : 49.60 %
RecoveryModeType : Simple

```

[Cmdb Table Fragmentation Average]

Table Name	Fragmentation Average
TBL_EventHistory	99.93
TBL_EventAction	99.23
TBL_Parts	98.87
TBL_ManagementLogHistory	98.50
TBL_PartsGroupRelation	95.51
TBL_DiskPartition	91.67
TBL_PartsGroup	91.30
TBL_DiskVolume	90.00
TBL_Machine	89.61
TBL_ManagerRelation	86.41
TBL_PhysicalGroupRelation	83.33
TBL_Scenario	80.00
TBL_PolicySetting	75.00
TBL_DeployHistory	75.00
TBL_DevicePort	66.67
TBL_PolicyParameters	66.67
TBL_Manager	66.67
TBL_DiskControllerRelation	66.67
TBL_ScenarioRelation	50.00
TBL_PolicyAction	50.00
TBL_DiskController	27.27
TBL_ExtendedParameter	22.22
TBL_Acl	0.00
TBL_InstalledSoftware	0.00
TBL_ComputerSystemProfile	0.00
TBL_AccessControl	0.00
TBL_NetworkDeviceRelation	0.00
TBL_DatabaseVersion	0.00
TBL_DeviceRouting	0.00
TBL_RoutingRelation	0.00
TBL_ComputerSystemProfileRelation	0.00
TBL_Protocol	0.00
TBL_DomainDefinition	0.00
TBL_SmartGroupCondition	0.00
TBL_VirtualNetworkDefinition	0.00
TBL_NameServerDefinition	0.00
TBL_VolumeGroup	0.00
TBL_Policy	0.00
TBL_MachineSettings	0.00

TBL_GroupRelation	0.00
TBL_Reservation	0.00
TBL_CmdbConvertLog	0.00
TBL_Duplicate	0.00
TBL_VolumeGroupRelation	0.00
TBL_LogicalDiskRelation	0.00
TBL_PolicyRelation	0.00
TBL_PoolMachineRelation	0.00
TBL_DiskVolumeRelation	0.00
TBL_SensorGroup	0.00
TBL_ScenarioImage	0.00

TBL_DiskPartitionRelation	0.00
TBL_Sensor	0.00
TBL_GeneralParameter	0.00
TBL_PhysicalGroup	0.00
TBL_License	0.00
TBL_NetworkDevice	0.00
TBL_Tag	0.00
TBL_LoadBalancerGroup	0.00
TBL_DeviceVlan	0.00
TBL_DeviceVlanRelation	0.00
TBL_ScenarioImageRelation	0.00
TBL_EventActionParameter	0.00
TBL_PortRelation	0.00
TBL_VlanGroup	0.00
TBL_ResourceAllocationBase	0.00
TBL_NicTeaming	0.00
TBL_NicTeamingRelation	0.00
TBL_AclRelation	0.00
TBL_ServerGroup	0.00
TBL_NetworkProfile	0.00
TBL_LoadBalancerGroupRelation	0.00
TBL_LinkAggregation	0.00
TBL_PlacementRestriction	0.00
TBL_ServerDefinition	0.00
TBL_LinkAggregationRelation	0.00
TBL_StorageProfile	0.00
TBL_AccessLink	0.00
TBL_DiskArray	0.00
TBL_IPAddressDefinition	0.00
TBL_MachineAccount	0.00
TBL_UserAccount	0.00

### 4.3.2. 配布履歴の削除

最新のOSイメージを配布する以前のソフトウェアの配布履歴を削除します。

**[構文]**

```
ssc delete history <[-all] | [-path Path]>
```

**[引数/オプション]**

[-all]	すべてのマシンが対象です。
[-path <i>Path</i> ]	<p>対象のフルパスを指定します。 ビュータイプを省略した場合 [運用] ビュー (operation:) として扱います。</p> <p>例:  グループ指定の場合  Category/Group  ホスト指定の場合  Category/Group/Host  [リソース] ビューでのマシン指定の場合  resource: /MachineGroup/Machine-A</p>

## [構文例]

```
>ssc delete history -path Category/Group
>ssc delete history -path operation:/Category/Group/Host
>ssc delete history -path resource:/MachineGroup/Machine-A
```

### 4.3.3. マシステータスの更新

マシンのステータスを指定内容で更新します。

## [構文]

```
ssc set-machine-status mode <-name Machine... | -path Path... | -uuid UUID... |  
-mac MAC...>
```

## [引数/オプション]

<i>mode</i> (必須)	設定するステータスを指定します。 複数を組み合わせて設定することが可能です。 ( ) 内は直前のパラメータの省略記法です。 先頭に +, - をつけることで設定と解除を意味します。 省略した場合は、+ の意味となります。 + : 設定します。 - : 解除します。  maint(m) : メンテナンスモード -error(-e) : Job実行結果のクリア (+は無効) degrade(d) : 故障状態 (一部故障) fault(f) : 故障状態 (故障) resethw(r) : 故障状態 (一部故障、故障) のクリア (+-無効)
<-name <i>Machine...</i>   -path <i>Path...</i>   -uuid <i>UUID...</i>   -mac <i>MAC...</i> > (必須)	設定する対象を指定します。 -name, -path, -uuid, -macは、いずれか1つを指定する必要があります。 指定する対象は複数指定が可能です。 -name : マシンの名称で指定します。 -path : 対象までのパスを指定します。 ・各ビューのマシンまでのパス ・ [リソース] ビューでのグループ、またはラックのパス ・ [運用] ビューでのグループのパス -uuid : マシンのUUIDで指定します。 -mac : マシンのプライマリMACアドレスで指定します。

## [注]

- -degradeは一部故障状態の場合に、-faultは故障の場合に正常にします。
- 状態に関わらず正常にしたい場合は、resethwを指定してください。
- resethwとfault、-maintと+maintなど設定 / 解除を同時に指定することはできません。
- -path指定時、ビューを指定しない場合は、[リソース] ビューの指定と同じになります。

## [構文例]

```
1) メンテナンスモードを設定し、故障状態に設定する。  
>ssc set-machine-status +m +f -path resource:/vmgroup/vms001  
>ssc set-machine-status +m +f -path  
operation:/category1/vmgroup/model1/vms001  
2) メンテナンスモードを解除、ジョブ実行結果を解除と故障状態を解除する。  
>ssc set-machine-status -m -e r -name machine1 machine2
```

### 4.3.4. DPM上の情報を削除

DPM上の情報を削除します。

#### [構文]

```
ssc dpminformation delete -machine <MachineName... | UUID... | MAC... | Path...> [-force]
```

#### [引数/オプション]

<pre>-machine &lt;MachineName...   UUID...   MAC...   Path...&gt; (必須)</pre>	指定したマシン (複数指定可) のDPM上にある固有情報を削除します。 対象マシン名、UUID、プライマリMACアドレス、あるいはフルパスで指定します。 フルパス指定時にビュータイプ (resource:/) は省略可能です。 例: マシン名指定の場合 Machine1 フルパス指定の場合 resource:/rack1/Group1/Machine1 operation:/Category1/Group1/Model1/Machine1 virtual:/VC1/DataCenterA/ESX01/VM1 -forceオプション指定がない場合 稼動中マシンは削除できません。 仮想マシンは削除できません。
[-force]	強制的に情報削除します。

#### [構文例]

```
>ssc dpminformation delete -machine machine1 machine2  
>ssc dpminformation delete -machine AFFBAA22-5BC0-46dd-9777-AD268A366589  
>ssc dpminformation delete -machine FF-A0-B0-5A-35-FF  
>ssc dpminformation delete -machine resource:/rack1/Group1/Machine1  
>ssc dpminformation delete -machine machine1 -force
```

## 4.4. マシン操作履歴

### 4.4.1. マシン操作履歴の詳細情報出力

マシン操作履歴の詳細情報を出力します。

#### [構文]

```
ssc changehistory show [GroupName | -name MachineName | -uuid UUID] [-ghost]
[-rev <REV | REV-REV>] [-latest] [-profile [Type]] [-vertical]
```

#### [引数/オプション]

[ <i>GroupName</i> ]	運用グループのグループ名を指定します。 指定した運用グループ配下で稼動しているマシンの履歴を出力します。
[-name <i>MachineName</i> ]	マシン名を指定します。
[-uuid <i>UUID</i> ]	マシンのUUIDを指定します。
[-ghost]	削除済みマシンの履歴を表示します。
[-rev < <i>REV</i>   <i>REV-REV</i> >]	出力する履歴の版を指定します。 0のように特定の版数を単独指定するか、 0-5のように版数を範囲指定することができます。
[-latest]	履歴の最新版のみを出力します。
[-profile [ <i>Type</i> ]]	プロファイル情報を取得します。 <i>Type</i> には以下を指定可能です。 standard : CPUとメモリ情報を表示します。 network : ネットワーク情報を表示します。 storage : ストレージ情報を表示します。 all : standard, network, storageすべての内容を表示します。 <i>Type</i> を省略した場合は、Standardと同一の内容を表示します。 複数指定可能です。
[-vertical]	出力形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) 省略した場合、CSV形式で出力します。

#### [構文例]

```
>ssc changehistory show
>ssc changehistory show -name MachineA -latest
>ssc changehistory show -ghost
>ssc changehistory show -uuid 30381C00-D797-11DD-0000-001697A70000 -profile
```

#### [注]

- 本コマンドの内容については次期バージョンにて変更の可能性があります。

### 4.4.2. マシン操作履歴の削除

マシン操作履歴を削除します。

#### [構文]

```
ssc changehistory delete <-charged | -old Days | -ghost>
```

#### [引数/オプション]

-charged	課金済みと設定された履歴をすべて削除します。
----------	------------------------

-old <i>Days</i>	指定した日数以上前の履歴をすべて削除します。 -ghost と多重指定した場合には、いずれかの条件に合致する履歴はすべて削除されます。
-ghost	既に削除されたマシンの履歴をすべて削除します。 -old <i>Days</i> と多重指定した場合には、いずれかの条件に合致する履歴はすべて削除されます。

#### [構文例]

```
>ssc changehistory delete -charged
>ssc changehistory delete -old 3
>ssc changehistory delete -ghost
```

### 4.4.3. マシン操作履歴の運用設定を設定

マシン操作履歴の運用設定を設定します。

#### [構文]

```
ssc changehistory set [-manual | -disabled | -auto [-keepdays Day]]
```

#### [引数/オプション]

-manual	マシン操作履歴は指示されない限り、削除されない運用にします。
-disabled	マシン操作履歴は最低限しか、保存しない運用にします。
-auto	マシン操作履歴は、使われていないものは一定期間後に、自動的に削除する運用にします。
[-keepdays <i>Day</i> ]	マシン操作履歴で、使われなくなっても自動では削除せずに残しておく日数を指定します。

#### [注]

- 何も指定しない場合は、現在の状況を表示します。

#### [構文例]

```
>ssc changehistory set
>ssc changehistory set -manual
>ssc changehistory set -disabled
>ssc changehistory set -auto
```

## 4.5. SSC設定情報バックアップ/リストア

### 4.5.1. SSC設定情報バックアップ

SSC設定情報をエクスポート（バックアップ）します。

#### 【構文】

```
ssc config-export ComponentName [-f filename]  
[-d directory] [-o option] [-s]
```

#### 【引数/オプション】

<i>ComponentName</i> (必須)	コンポーネント名を指定します。 pvm : SystemProvisioning dpm : DeploymentManager sysmon : SystemMonitor 性能監視 (例 : ssc config-export pvm dpm) すべてのコンポーネントをエクスポートする場合、allを指定します。 (例 : ssc config-export all)
[-f <i>filename</i> ]	ファイル名を指定します (zipファイルのみ対応)。 <i>filename</i> が空白を含む場合、ダブルコーテーション「"」で囲む必要があります。 指定したファイル名がすでに存在する場合、上書きします。 <i>filename</i> にディレクトリを含めることはできません。 ファイル名を指定しない場合、 「マシン名_コンポーネント名_年月日_時分秒.zip」を生成します。 (例 : Computer1_PVM_20130625_013015.zip)
[-d <i>directory</i> ]	ファイルのディレクトリを指定します。 <i>directory</i> が空白を含む場合、ダブルコーテーション「"」で囲む必要があります。 -d オプションを利用しない場合、カレントディレクトリに ファイルを格納します。 (例 : ssc config-export pvm -d c:\tmp)
[-o <i>option</i> ]	各コンポーネントにおける設定情報の種類を指定します。 db : データベース reg : レジストリ file : 設定ファイル (例 : ssc config-export pvm -o db file)
[-s]	サービスの起動確認を行わずに処理を行います。 このオプションを利用すると、 サービス起動中のコンポーネントをエクスポートできます。 (例 : ssc config-export pvm -s)

#### 【注】

- 対象コンポーネントのサービスは全て停止してください。-s オプションを付加すると、サービス起動中に処理を行うことができますが、整合性の取れないファイルをエクスポートする可能性があります。
- クラスタ環境はサポートしていません。
- コンポーネントのインストールフォルダパスに日本語を含めた場合、サポートしていません。
- 本コマンドは、データベースに関する以下の制約があります。
  - リモート接続におけるデータベースのエクスポートはサポートしていません。
  - SQL Server認証はサポートしていません (Windows認証のみサポートします)。
  - コンポーネントのインストール設定において、インスタンス名に小文字、および日本語を含めた場合、データベースのエクスポートはサポートしていません。
  - SystemMonitor性能監視とSystemProvisioningにおけるインストール時のデータベース設定が異なる場合、SystemMonitor性能監視データベースのエクスポートはサポートしていません。



## [構文例]

```
>ssc config-export pvm
>ssc config-export pvm -s
>ssc config-export all -f all.zip
>ssc config-export all -d c:¥temp
>ssc config-export all -f all.zip -d c:¥temp
>ssc config-export all -o db file
```

## 4.5.2. SSC設定情報リストア

SSC設定情報をインポート（リストア）します。

### [構文]

```
ssc config-import ComponentName FileName
[-d directory] [-o option] [-b]
```

### [引数/オプション]

<i>ComponentName</i> (必須)	コンポーネント名を指定します。 pvm : SystemProvisioning dpm : DeploymentManager sysmon : SystemMonitor 性能監視 (例 : ssc config-import pvm dpm import.zip) すべてのコンポーネントをインポートしたい場合、allを指定します。 (例 : ssc config-import all import.zip)
<i>FileName</i> (必須)	ファイル名を指定します (zipファイルのみ対応)。 <i>FileName</i> が空白を含む場合、ダブルコーテーション「"」で囲む必要があります。
[-d <i>directory</i> ]	ファイルのディレクトリを指定します。 <i>directory</i> が空白を含む場合、ダブルコーテーション「"」で囲む必要があります。 -d オプションを利用しない場合、カレントディレクトリにファイルを格納します。 (例 : ssc config-import pvm import.zip -d c:\tmp)
[-o <i>option</i> ]	各コンポーネントにおける設定情報の種類を指定します。 db : データベース reg : レジストリ file : 設定ファイル (例 : ssc config-import pvm import.zip -o db file)
[-b]	復元用のエクスポートファイルを取得しません。 インポートの失敗時に設定ファイルの復元を行わないため、推奨オプションではありません。

### [注]

- 同じマシン環境におけるエクスポートファイルのインポートをサポートしております。マシン環境が異なる場合（インストール先ディレクトリや SQL Serverのバージョンが異なる場合など）は、サポートしていません。
- 対象コンポーネントのサービスは全て停止してください。
- クラスタ環境はサポートしていません。
- コンポーネントのインストールフォルダパスに日本語を含めた場合、サポートしていません。
- インポート処理に失敗した場合、あらかじめ取得していた復元用ファイルをインポートして、インポート前の状態に自動で戻します。
  - 復元用ファイルはエクスポートファイル名に「Backup\_」を付加したファイル名になります。同じファイル名が存在する場合、復元用ファイルは上書きされます。
  - 復元用ファイルは、指定したエクスポートファイルと同じディレクトリに生成されません。
  - 再インポートを行っても元に戻らない場合は、復元用ファイル内のデータベース、レジ

- ストリ、および設定ファイルを手動でインポートしてください。
- 各設定情報における手動インポート(リストア)は「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「10. バックアップ・リストア」を参考にしてください。
  - 本コマンドは32bitアプリケーションです。レジストリの手動インポートは、C:¥Windows¥SysWOW64配下のユーティリティを使用してください。
- インポートに失敗した場合、インポート前に存在しなかった定義ファイルが残る場合があります。
  - 本コマンドは、データベースに関する以下の制約があります。
    - リモート接続におけるデータベースのインポートはサポートしていません。
    - SQL Server認証はサポートしていません (Windows認証のみサポートします)。
    - コンポーネントのインストール設定において、インスタンス名に小文字、および日本語を含めた場合、データベースのインポートはサポートしていません。
    - SystemMonitor性能監視とSystemProvisioningにおけるインストール時のデータベース設定が異なる場合、SystemMonitor性能監視データベースのインポートはサポートしていません。

## 【構文例】

```
>ssc config-import all import.zip
>ssc config-import pvm dpm import.zip
>ssc config-import all import.zip -b
>ssc config-import all import.zip -d c:¥temp
>ssc config-import all import.zip -o db file
>ssc config-import all import.zip -o db file -d c:¥temp
```